

## 基本計画書

基本計画								
事項	記 入							備 考
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	ガッコウカクシン 初イキケイイムサシカクケン 学校法人 根津育英会武蔵学園							
フリガナ大学の名称	ムサシバク 武蔵大学 (Musashi University)							
大学本部の位置	東京都練馬区豊玉上一丁目26番1号							
大学の目的	本大学は教育基本法（平成18年法律第120号）に則り、学校教育法（昭和22年法律第26号）の定めるところに従って大学教育を施し、学術の理論及び応用を研究、教授するとともに、本学園建学の精神に基づき、豊かな一般教養と深奥な専門的知識を具えた完全な社会的人格を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的	本学部は幅広い教養、深い専門知識、高度なコミュニケーション能力をもって、激しく変化する地球環境、政治と国際関係、経済とテクノロジー、文化と社会の動向を的確につかんで人類社会の持続可能な発展に貢献し、イノベーションの推進や危機の克服の先頭に立つことのできるグローバルリーダーを養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	国際教養学部 [School of Liberal Arts and Sciences]	年	人	年次人	人	学士 (経済経営学) [Bachelor of Science in Economics and Management]	令和4年4月 第1年次	東京都練馬区豊玉上一丁目26番1号
	国際教養学科 [Department of Liberal Arts and Sciences]	4	100	—	400	学士 (グローバルスタディーズ) [Bachelor of Arts in Global Studies]		
	計	4	100	—	400			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	経済学部 経済学科 [定員減] (△10) (令和4年4月) 経営学科 [定員減] (△10) (令和4年4月) 金融学科 [定員減] (△20) (令和4年4月) 人文学部 英語英米文化学科 [定員減] (△15) (令和4年4月) ヨーロッパ文化学科 [定員減] (△10) (令和4年4月) 日本・東アジア文化学科 [定員減] (△10) (令和4年4月) 社会学部 社会学科 [定員減] (△13) (令和4年4月) メディア社会学科 [定員減] (△12) (令和4年4月)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	国際教養学部 国際教養学科	講義	演習	実験・実習	計			
		363科目	50科目	140科目	553科目	124 単位		

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称	専任教員等					兼 任 教 員 等 人	
		教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人		助手 人
新 設 分	国際教養学部 国際教養学科	9 (8)	4 (4)	7 (7)	1 (1)	21 (20)	0 (0)	184 (184)
	計	9 (8)	4 (4)	7 (7)	1 (1)	21 (20)	0 (0)	— (—)
既 設 分	経済学部 経済学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	364 (364)
	経営学科	10 (11)	2 (2)	1 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	361 (361)
	金融学科	6 (6)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	367 (367)
	人文学部 英語英米文化学科	6 (6)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	321 (321)
	ヨーロッパ文化学科	8 (11)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	12 (12)	0 (0)	346 (346)
	日本・東アジア文化学科	8 (9)	2 (2)	1 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	348 (348)
	社会学部 社会学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	356 (356)
	メディア社会学科	7 (8)	2 (2)	1 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	356 (356)
	基礎教育センター	2 (4)	2 (2)	1 (0)	1 (0)	6 (6)	0 (0)	— (—)
	教職課程	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	— (—)
	グローバル教育センター	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	— (—)
	計	64 (72)	25 (24)	12 (8)	9 (7)	110 (111)	0 (0)	— (—)
	合 計	73 (80)	29 (28)	19 (15)	10 (8)	132 (131)	0 (0)	— (—)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	78人 (78)		44人 (44)		122人 (122)		
	技 術 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員	3 (3)		0 (0)		3 (3)		
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計	81 (81)		44 (44)		125 (125)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	〔共用〕武蔵高等 学校(収容定員：480名、運 動場必要面積：8,400㎡)・武蔵 中学校(収容定員：480名、運 動場必要面積：6,000㎡)と共用 〔借用地〕①赤 城青山寮(群馬 県)借用地面積：4,771㎡、借用 期間：2023年3 月まで契約、 2026年3月まで 契約延長予定 (3年毎に契約 更新)②武蔵山 荘(長野県)借 用地面積：200 ㎡、借用期間： 2022年3月まで 契約、2022年度 4月以降も契約 延長予定(3年 毎に契約更新) ③武蔵山荘「星 の小舎」(新潟 県)借用地面積： 535㎡借用期 間：2025年4月 まで契約(5年 毎に契約更新) 借用地面積合計： 5,506㎡			
	校 舎 敷 地	31,627.86㎡	0㎡	16,228.21㎡	47,856.07㎡				
	運 動 場 用 地	63,521.83㎡	19,377.45㎡	3,709.48㎡	86,608.76㎡				
	小 計	95,149.69㎡	19,377.45㎡	19,937.69㎡	134,464.83㎡				
	そ の 他	1,532.55㎡	46,590.95㎡	0㎡	48,123.50㎡				
合 計	96,682.24㎡	65,968.40㎡	19,937.69㎡	182,588.33㎡					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	48,308.04㎡ (48,308.04㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	48,308.04㎡ (48,308.04㎡)					
教室等	講義室 52 室	演習室 35 室	実験実習室 23 室	情報処理学習施設 12 室 (補助職員 6人)	語学学習施設 3 室 (補助職員 5人)	大学全体			
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数					
	国際教養学部	国際教養学科		19 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数	
	国際教養学部	743,488 [225,062]	14,556 [11,628]	9,939 [9,880]	3,771	3,139	12		
	国際教養学科	(711,768 [217,570])	(14,556 [11,628])	(9,939 [9,880])	(3,711)	(3,105)	(12)		
	計	743,488 [225,062] (711,768 [217,570])	14,556 [11,628] (14,556 [11,628])	9,939 [9,880] (9,939 [9,880])	3,771 (3,711)	3,139 (3,105)	12 (12)		
図書館	面積	閲覧席数		取 納 可 能 冊 数					
	5,589.15 ㎡	471		768,778					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体	
	2,028.69 ㎡	プ ー ル 1 面 ( 951.71 ㎡ ) 武 道 場 ・ ト レ ー ニ ン グ 室 1 面 ( 1,437.36 ㎡ )							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	共同研究費等については、学部 単位での算出不能なため、大学 全体の額  図書購入費には 電子ジャーナル、データペー ス整備費を含む
	教員 1 人当り研究費等		600千円	600千円	600千円	600千円	—	—	
	共同研究費等		6,000千円	6,000千円	6,000千円	6,000千円	—	—	
	図書購入費	600千円	6,827千円	7,663千円	8,499千円	9,335千円	—	—	
	設備購入費	7,598千円	515千円	1,030千円	1,545千円	2,060千円	—	—	
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
	1,510千円	1,270千円	1,270千円	1,270千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、受取利息・配当金収入、手数料収入、寄付金収入等						

大学等の名称	武蔵大学								所在地
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
学部等の名称	年	人	年次	人		倍			
既設大学等の状況	経済学部								
	経済学科	4	150	—	600	1.04	昭和24年度	東京都練馬区豊玉上一丁目26番1号	
	経営学科	4	150	—	600	1.08	昭和34年度		
	金融学科	4	120	—	480	1.01	平成4年度		
	人文学部					1.06			
	英語英米文化学科	4	115	—	460	1.06	平成23年度		
	ヨーロッパ文化学科	4	105	—	420	1.08	平成23年度		
	日本・東アジア文化学科	4	105	—	420	1.05	平成23年度		
	社会学部					1.04			
	社会学科	4	137	—	548	1.06	平成10年度		
	メディア社会学科	4	117	—	468	1.03	平成16年度		
	博士前期課程					0.27			
	経済学研究科					0.30			
	経済・経営・ファイナンス専攻	2	10	—	20	0.30	平成18年度		
	人文科学研究科					0.25			
	欧米文化専攻	2	8	—	16	0.25	平成9年度		
	日本文化専攻	2	8	—	16	0.25	平成9年度		
	社会学専攻	2	8	—	16	0.25	平成7年度		
	博士後期課程					0.08			
	経済学研究科					0.13			
	経済・経営・ファイナンス専攻	3	5	—	15	0.13	平成20年度		
	人文科学研究科					0.06			
	欧米文化専攻	3	4	—	12	0.00	平成9年度		
日本文化専攻	3	4	—	12	0.00	平成9年度			
社会学専攻	3	4	—	12	0.17	平成9年度			
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人根津育英会武蔵学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>武蔵大学</b>					<b>武蔵大学</b>				
経済学部					経済学部				
経済学科	150	-	600		経済学科	140	-	560	定員変更(△10)
経営学科	150	-	600		経営学科	140	-	560	定員変更(△10)
金融学科	120	-	480		金融学科	100	-	400	定員変更(△20)
人文学部					人文学部				
英語英米文化学科	115	-	460		英語英米文化学科	100	-	400	定員変更(△15)
ヨーロッパ文化学科	105	-	420		ヨーロッパ文化学科	95	-	380	定員変更(△10)
日本・東アジア文化学科	105	-	420		日本・東アジア文化学科	95	-	380	定員変更(△10)
社会学部					社会学部				
社会学科	137	-	548		社会学科	124	-	496	定員変更(△13)
メディア社会学科	117	-	468		メディア社会学科	105	-	420	定員変更(△12)
					<b>国際教養学部</b>				
					国際教養学科	100	-	400	学部の設置(届出)
計	999		3,996		計	999		3,996	
<b>武蔵大学大学院</b>					<b>武蔵大学大学院</b>				
経済学研究科(博士前期課程)					経済学研究科(博士前期課程)				
経済・経営・ファイナンス専攻	10	-	20		経済・経営・ファイナンス専攻	10	-	20	
経済学研究科(博士後期課程)					経済学研究科(博士後期課程)				
経済・経営・ファイナンス専攻	5	-	15		経済・経営・ファイナンス専攻	5	-	15	
人文科学研究科(博士前期課程)					人文科学研究科(博士前期課程)				
欧米文化専攻	8	-	16		欧米文化専攻	8	-	16	
日本文化専攻	8	-	16		日本文化専攻	8	-	16	
社会学専攻	8	-	16		社会学専攻	8	-	16	
人文科学研究科(博士後期課程)					人文科学研究科(博士後期課程)				
欧米文化専攻	4	-	12		欧米文化専攻	4	-	12	
日本文化専攻	4	-	12		日本文化専攻	4	-	12	
社会学専攻	4	-	12		社会学専攻	4	-	12	
計	51		119		計	51		119	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(国際教養学部国際教養学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考 ※経済経営学専攻:EM専攻 グローバルスタディーズ専攻:G S専攻と略す	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合科目	(A) 情報とコミュニケーション	情報技術と人間社会	1・2・3・4前	2			○							兼1	隔年
		メディアと社会	1・2・3・4前	2			○							兼1	
		データ分析の基礎	1・2・3・4前	2			○							兼1	
		データ分析の応用	1・2・3・4後	2			○							兼1	
		Information Technology and Global Communication	1・2・3・4後	2			○							兼1	
		問題解決とコンピューティング	1・2・3・4後	2				○						兼1	
		データマイニング入門	1・2・3・4前	2				○						兼1	
		インターネット・イングリッシュ	1・2・3・4前・後	2				○						兼1	
		クリエイティブ・ライティング	1・2・3・4後	2				○						兼1	
		アカデミック・ディベート	1・2・3・4前	2				○						兼1	
		クリティカル・シンキング	1・2後	2				○						兼1	
		Digital Media Training	1・2・3・4前・後	2				○		1				兼1	
		Accounting and Finance (a)	1後	4				○		1				兼1	
		(B) 歴史と文化	グローバル時代の歴史認識	1・2・3・4前・後	2			○							
20世紀の世界	1・2・3・4後		2			○							兼1		
20世紀の日本	1・2・3・4前・後		2			○							兼1		
社会思想の歴史	1・2・3・4後		2			○				1			兼1		
人文学入門	1・2・3・4前		2			○							兼10		
日本と世界の宗教	1・2・3・4前		2			○							兼1		
日本の伝統と文化	1・2・3・4前・後		2			○							兼1		
現代の世界と人々	1・2・3・4前		2			○							兼1		
多文化共生の現在	1・2・3・4前		2			○							兼1		
Japan in the Modern World	1・2・3・4前		2			○							兼1		
Introduction to Race, Ethnicity and Nation	1・2・3・4前		2			○							兼1		
世界の名著	1・2・3・4後		2				○						兼1		
日本の名著	1・2・3・4前		2				○						兼1		
サイエンスラボ講座(文理融合)	1・2・3・4後	2				○						兼2			
(C) 現代社会	日本国憲法	1・2・3・4前・後	2			○							兼1	隔年 オムニバス	
	現代社会と政治	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	現代社会と法	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	現代社会と経済	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	現代社会と人権	1・2・3・4後	2			○							兼10		
	現代社会とジェンダー	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	現代社会とアート	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	国際社会における紛争と協調	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	現代社会とグローバルイゼーション	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	現代日本の課題	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	Introduction to Human Rights	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	Introduction to Gender and Sexuality Studies	1・2・3・4前	2			○				1			兼1		
	社会学概論	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	現代アート・ワークショップ	1・2・3・4後	2				○						兼1		
Politics (a)	1後	4				○		1				兼1			
International Relations (a)	1後	4				○				1		兼1			
(D) 自然と環境	地球の自然史	1・2・3・4前・後	2			○							兼1	隔年	
	環境論	1・2・3・4前・後	2			○							兼1		
	人間と環境	1・2・3・4前・後	2			○							兼1		
	数学の世界	1・2・3・4前・後	2			○							兼1		
	自然と生活のなかの物理	1・2・3・4前・後	2			○							兼1		
	化学と現代社会	1・2・3・4前・後	2			○							兼1		
	生物の進化	1・2・3・4前・後	2			○							兼1		
	生物学と現代社会	1・2・3・4前・後	2			○							兼1		
	科学と歴史	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	先進の科学技術	1・2・3・4前・後	2			○							兼1		
	Global Environmental Issues	1・2・3・4後	2			○							兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要															
(国際教養学部国際教養学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考 ※経済経営学専攻:EM専攻 グローバルスタディーズ専攻:G S専攻と略す	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
総合科目 (D) 自然と環境	Introduction to Human Geography	1・2・3・4後		2		○								兼1	隔年
	武蔵・環境フィールドワーク	1・2・3・4後		2			○							兼3	オムニバス
	サイエンスラボ集中講座A	1・2・3・4後		2			○							兼1	※講義・実験・集中
	サイエンスラボ集中講座B	1・2・3・4後		2			○							兼1	※講義・実験・共同
	サイエンスラボ講座(物理学)A	1・2・3・4前		2			○							兼3	※講義・実験・共同
	サイエンスラボ講座(物理学)B	1・2・3・4後		2			○							兼3	※講義・実験・共同
	サイエンスラボ講座(化学)A	1・2・3・4前		2			○							兼2	※講義・実験・共同
	サイエンスラボ講座(化学)B	1・2・3・4後		2			○							兼2	※講義・実験・共同
	サイエンスラボ講座(生物学)A	1・2・3・4前		2			○							兼2	※講義・実験・共同
	サイエンスラボ講座(生物学)B	1・2・3・4後		2			○							兼2	※講義・実験・共同
Mathematics and Statistics (a)	1後		4			○			1						
(E) 心と体	こころの科学と健康	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	臨床心理学と人間理解	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	スポーツと健康の科学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	スポーツの哲学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	スポーツの歴史と文化	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	スポーツの社会環境	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	スポーツの心理学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	Introduction to Personal Health and Wellness	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	心理学ワークショップ	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	アダプテッドスポーツ・ワークショップ	1・2・3・4前		2			○							兼1	※実技
	スポーツ実践1(バレーボール)	1・2・3・4前・後		1				○						兼5	
	スポーツ実践2(バスケットボール)	1・2・3・4前・後		1				○						兼2	
	スポーツ実践3(フアンランニング)	1・2・3・4後		1				○						兼1	隔年
	スポーツ実践4(フットサル)	1・2・3・4前・後		1				○						兼3	
	スポーツ実践5(バドミントン)	1・2・3・4前・後		1				○						兼6	
	スポーツ実践6(卓球)	1・2・3・4前・後		1				○						兼7	
	スポーツ実践7(アドバンスゴルフ)	1・2・3・4前		1				○						兼1	集中・隔年
スポーツ実践8(バーシクゴルフ)	1・2・3・4前		1				○						兼1		
スポーツ実践9(アクアスポーツ)	1・2・3・4後		1				○						兼1		
スポーツ実践10(エアロビクス&フィットネス)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1		
スポーツ実践11(リラクゼーション&ウォーキング)	1・2・3・4前・後		1				○						兼3		
スポーツ実践12(護身術と柔道)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1		
スポーツ実践13(スキー)	1・2・3・4後		1				○						兼1	集中・隔年	
スポーツ実践14(スノーボード)	1・2・3・4後		1				○						兼1	集中・隔年	
イ ン フ ラ イ フ マ ネ ジ メ ン ト と キ ャ リ ア デ ザ	自己理解の哲学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	キャリアデザイン論A	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
	キャリアデザイン論B	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
	キャリア対策科目	2・3・4後		2		○								兼1	
	ライフサイクルと生涯学習	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	心理学と社会	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Career Design in a Global Age	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	キャリアデザイン演習	2・3・4後		2			○							兼1	
	海外フィールド実習	1・2・3・4休		1				○		1				兼1	※講義・集中・隔年
	Economics (a)	1後		4			○				1				
インターンシップ特講	3・4前		1			○				1			兼2	共同	
インターンシップ	3・4前		1				○						兼2	※講義・共同	
小計(101科目)		—	0	195	0	—			3	2	3	1	0	兼81	



教 育 課 程 等 の 概 要																
(国際教養学部国際教養学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考 ※経済経営学専攻:EM専攻 グローバルスタディーズ専攻:G S専攻と略す		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
外国語科目	選択外国語	韓国・朝鮮語中級1	2・3・4前	1				○						兼1	隔年	
		韓国・朝鮮語中級2	2・3・4後	1				○						兼1	隔年	
		韓国・朝鮮語コミュニケーション1	2・3・4前	1					○					兼1	隔年	
		韓国・朝鮮語コミュニケーション2	2・3・4後	1					○					兼1	隔年	
		外国語現地実習(英語)1	1・2・3・4休	2					○					兼1	集中	
		外国語現地実習(英語)2	1・2・3・4休	2					○					兼1	集中	
		外国語現地実習(ドイツ語)1	1・2・3・4休	2					○					兼1	集中	
		外国語現地実習(ドイツ語)2	1・2・3・4休	2					○					兼1	集中	
		外国語現地実習(フランス語)1	1・2・3・4休	2					○					兼1	集中	
		外国語現地実習(フランス語)2	1・2・3・4休	2					○					兼1	集中	
		外国語現地実習(中国語)1	1・2・3・4休	2					○					兼1	集中	
		外国語現地実習(中国語)2	1・2・3・4休	2					○					兼1	集中	
		外国語現地実習(韓国・朝鮮語)1	1・2・3・4休	2					○					兼1	集中	
		外国語現地実習(韓国・朝鮮語)2	1・2・3・4休	2					○					兼1	集中	
		日本語(コンプリートビギナー)	1・2・3・4前・後		1				○						兼2	留学生のみ 卒業要件を含む
		日本語(入門)	1・2・3・4前・後		1				○						兼2	留学生のみ 卒業要件を含む
日本語(初級)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1	留学生のみ 卒業要件を含む		
日本語(初中級)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1	留学生のみ 卒業要件を含む		
日本語(中級)	1・2・3・4前・後		1				○						兼2	留学生のみ 卒業要件を含む		
日本語(上級)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1	留学生のみ 卒業要件を含む		
	小計(74科目)		—	0	78	6	—		0	0	2	0	0	兼25		
専門科目	専攻基礎科目 学部共通科目	Introduction to Global History 1	1・2・3・4前	2				○						兼1		
		Introduction to Global History 2	1・2・3・4後	2				○						兼1		
		Transnational Issues 1	1・2・3・4前	2					○					兼1		
		Transnational Issues 2	1・2・3・4後	2					○					兼1		
		Understanding Foreign Affairs and the Global Economy	1・2・3・4後	2					○				1		兼4	
		Introduction to Critical Thinking	1・2・3・4前・後	2					○	1					兼4	
		Language Proficiency Test Preparation 1	1・2・3・4前	1					○			2				
		Language Proficiency Test Preparation 2	1・2・3・4後	1					○			2				
		Language Proficiency Test Preparation (Intermediate) 1	2・3・4前	1					○			1				
		Language Proficiency Test Preparation (Intermediate) 2	2・3・4後	1					○			1				
		Intensive English Proficiency Test Practicum A	1・2・3・4前	2					○				1			集中
		Intensive English Proficiency Test Practicum B	1・2・3・4前	2					○				1			集中
		TOEIC Training 1	1・2・3・4前	1					○				1			
		TOEIC Training 2	1・2・3・4後	1					○				1			
		Global Service Learning A1	1・2・3・4休	1					○		1					集中
		Global Service Learning A2	1・2・3・4休	1					○		1					集中
		Global Service Learning B1	1・2・3・4休	2					○		1					集中
		Global Service Learning B2	1・2・3・4休	2					○		1					集中
		Global Service Learning C1	1・2・3・4休	4					○		1					集中
		Global Service Learning C2	1・2・3・4休	4					○		1					集中
経済経営学専攻科目	Mathematics and Statistics (b-1)	1・2・3・4後	1					○				1				
	Mathematics and Statistics (b-2)	2・3・4前	1					○				1				
	Introduction to Statistics 1	1・2・3・4後	1					○		1						
	Introduction to Statistics 2	2・3・4前	1					○		1						
	Economics (b-1)	1・2・3・4後	1					○			1					
	Economics (b-2)	2・3・4前	1					○			1					
	Accounting and Finance (b-1)	1・2・3・4後	1					○		1						
	Accounting and Finance (b-2)	2・3・4前	1					○		1						
	International Relations (b-1)	1・2・3・4後	1					○				1			隔年	
	International Relations (b-2)	2・3・4前	1					○				1			隔年	
	Politics (b-1)	1・2・3・4後	1					○		1					隔年	
	Politics (b-2)	2・3・4前	1					○		1					隔年	
	Foundation of Economics	1・2・3・4前	2					○		1					隔年	
	Mathematics for Economics	1・2・3・4前	2					○		1						
	Introduction to Accounting	1・2・3・4前	2					○		1						
	Foundations of Political Science	1・2・3・4後	2					○		1						
Introduction to Management	1・2・3・4後	2					○		1							
Data Analysis: Techniques and Methods	1・2・3・4後	2					○		1							

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(国際教養学部国際教養学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考 ※経済経営学専攻:EM専攻 グローバルスタディーズ専攻:GS S専攻と略す			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目 専攻基礎科目 グローバルスタディーズ専攻科目	Survey of Global Studies 1	1前		2		○				2							
	Survey of Global Studies 2	1後		2		○				2							
	Survey of Transcultural Studies 1	1前		2		○			1	1							
	Survey of Transcultural Studies 2	1後		2		○			1		1						
	Global Studies 1st-Year Seminar 1	1前		2			○		2	3	2					GS専攻は必修科目	
	Global Studies 1st-Year Seminar 2	1後		2			○		2	3	2					GS専攻は必修科目	
	Language Learning Strategies 1	1・2・3・4前		1				○		1							
	Language Learning Strategies 2	1・2・3・4後		1				○		1							
	English Performance 1	1・2・3・4前		1				○								兼 2	隔年
	English Performance 2	1・2・3・4後		1				○								兼 2	隔年
	Translation Interpretation Practicum 1	2・3・4前		1				○								兼 1	
	Translation Interpretation Practicum 2	2・3・4後		1				○								兼 1	
	Creative Writing Workshop 1	2・3・4前		1				○				1					隔年
	Creative Writing Workshop 2	2・3・4後		1				○				1					隔年
	Academic Presentation Skills 1	2・3・4前		1				○								兼 1	隔年
	Academic Presentation Skills 2	2・3・4後		1				○								兼 1	隔年
	Academic Writing Workshop 1	2・3・4前		1				○				1					隔年
	Academic Writing Workshop 2	2・3・4後		1				○				1					隔年
	Digital Media Training (Intermediate) 1	2・3・4前		1				○								兼 1	隔年
	Digital Media Training (Intermediate) 2	2・3・4後		1				○								兼 1	隔年
Global Research Skills 1	2・3・4前		1				○				1					隔年	
Global Research Skills 2	2・3・4後		1				○				1					隔年	
小計 (60科目)		-	0	88	0	-			7	4	6	1	0	兼 10			
専攻専門科目 科学部共通	Introduction to Economics (a)	2・3・4後		4		○					1					EM専攻は必修科目	
	Capstone Project Seminar	4後		2			○		8	3	3						
	Capstone Project	4通		4			○		1								
専攻専門科目 経済経営学専攻科目	Principles of Accounting (a)	2・3・4後		4		○			1								
	Principles of Accounting (b-1)	2・3・4後		1		○			1								
	Principles of Accounting (b-2)	3・4前		1		○			1								
	Mathematics 1 and Statistics 1 (a)	2・3・4後		4		○				1							
	Mathematics 1 and Statistics 1 (b-1)	2・3・4後		1		○				1							
	Mathematics 1 and Statistics 1 (b-2)	3・4前		1		○				1							
	Mathematics 2 and Statistics 2 (a)	2・3・4後		4		○				1							
	Mathematics 2 and Statistics 2 (b-1)	2・3・4後		1		○				1							
	Mathematics 2 and Statistics 2 (b-2)	3・4前		1		○				1							
	Introduction to Economics (b-1)	2・3・4後		1		○						1					
	Introduction to Economics (b-2)	3・4前		1		○						1					
	Microeconomics (a)	2・3・4後		4		○				1							
	Microeconomics (b-1)	2・3・4後		1		○				1							
	Microeconomics (b-2)	3・4前		1		○				1							
	Macroeconomics (a)	2・3・4後		4		○				1							
	Macroeconomics (b-1)	2・3・4後		1		○				1							
	Macroeconomics (b-2)	3・4前		1		○				1							
	Intermediate Macroeconomics 1	2・3・4後		1		○						1					
	Intermediate Macroeconomics 2	3・4前		1		○						1					
	Elements of Econometrics (a)	2・3・4後		4		○						1					
	Elements of Econometrics (b-1)	2・3・4後		1		○						1					
	Elements of Econometrics (b-2)	3・4前		1		○						1					
	Data Research in Economics 1	2・3・4後		1		○						1					
	Data Research in Economics 2	3・4前		1		○						1					
	Topics in Economics 1	2・3・4後		1		○						1					隔年
	Topics in Economics 2	3・4前		1		○						1					隔年
	International Economics (a)	2・3・4後		4		○				1							
International Economics (b-1)	2・3・4後		1		○				1								
International Economics (b-2)	3・4前		1		○				1								
Industrial Economics (a)	2・3・4後		4		○				1								
Industrial Economics (b-1)	2・3・4後		1		○				1								
Industrial Economics (b-2)	3・4前		1		○				1								



教 育 課 程 等 の 概 要																			
(国際教養学部国際教養学科)																			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考 ※経済経営学専攻:EM専攻 グローバルスタディーズ専攻:G S専攻と略す					
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手						
専 門 科 目	グ ロ ー バ ル ス タ デ ィ ー ズ 専 攻 科 目	Topics in Foreign Policy and Diplomacy 1	2・3・4前	2		○				1									
		Topics in Foreign Policy and Diplomacy 2	2・3・4後	2		○				1									
		Survey of Futures Studies 1	2・3・4前	2		○				1									
		Survey of Futures Studies 2	2・3・4後	2		○				1									
		Survey of Comparative Politics 1	2・3・4前	2		○												兼 1	隔年
		Survey of Comparative Politics 2	2・3・4後	2		○												兼 1	隔年
		Global Civics 1	2・3・4前	2		○												兼 1	隔年
		Global Civics 2	2・3・4後	2		○												兼 1	隔年
		Survey of Political Ideas 1	2・3・4前	2		○												兼 1	隔年
		Survey of Political Ideas 2	2・3・4後	2		○												兼 1	隔年
		Peace Studies 1	2・3・4前	2		○												兼 1	隔年
		Peace Studies 2	2・3・4後	2		○												兼 1	隔年
		Communication Studies 1	2・3・4前	2		○					1								
		Communication Studies 2	2・3・4後	2		○					1								
		Second Language Studies 1	2・3・4前	2		○				1									
		Second Language Studies 2	2・3・4後	2		○				1									
		World Englishes 1	2・3・4前	2		○												兼 1	隔年
		World Englishes 2	2・3・4後	2		○												兼 1	隔年
		Media Communications 1	2・3・4前	2		○												兼 1	隔年
		Media Communications 2	2・3・4後	2		○												兼 1	隔年
		Language and Communication Barriers 1	2・3・4前	2		○												兼 1	隔年
		Language and Communication Barriers 2	2・3・4後	2		○												兼 1	隔年
		Translation and Interpretation Studies 1	2・3・4前	2		○												兼 1	隔年
		Translation and Interpretation Studies 2	2・3・4後	2		○												兼 1	隔年
		Cultural Representations 1	2・3・4前	2		○							1						
		Cultural Representations 2	2・3・4後	2		○							1						
		Global Literatures in English 1	2・3・4前	2		○					1								
		Global Literatures in English 2	2・3・4後	2		○					1								
		Japanese Studies 1	2・3・4前	2		○							1					兼 1	
		Japanese Studies 2	2・3・4後	2		○							1					兼 1	
		Topics in Japanese Culture 1	2・3・4前	2		○							1						隔年
		Topics in Japanese Culture 2	2・3・4後	2		○							1						隔年
		Japanese History in Global Perspective 1	2・3・4前	2		○												兼 2	隔年
		Japanese History in Global Perspective 2	2・3・4後	2		○												兼 2	隔年
		Transnational Cultures 1	2・3・4前	2		○							1						隔年
		Transnational Cultures 2	2・3・4後	2		○							1						隔年
		Diversity in Stories and Societies 1	2・3・4前	2		○												兼 1	隔年
		Diversity in Stories and Societies 2	2・3・4後	2		○												兼 1	隔年
		Study Abroad	2・3・4前	2		○					3	3	2						集中
		Global Studies Seminar 1	2・3・4前	2				○			3	3	2						
Global Studies Seminar 2	2・3・4後	2				○			3	3	2								
Capstone Project Pre-Seminar	4前	2				○			3	3	2								
小計 (127科目)		—	6	226	0	—			9	4	4	1	0			兼 12			
全 学 対 象 科 目	留 学 ・ 国 際 交 流 関 連 科 目	Topics in Global Business	2・3・4後	4		○											兼 1		
		Globalization and Asia	2・3・4前	4		○						1							
		Japanese History	2・3・4後	4		○												兼 1	隔年
		Japanese Culture and Society	2・3・4後	4		○												兼 1	隔年
		Survey of Japanese Literature	2・3・4後	4		○												兼 1	隔年
		Comparative Perspectives on Asian Societies	2・3・4後	4		○												兼 1	隔年
		Comparative Cultures and Histories	2・3・4前	4		○												兼 1	隔年
		Japan and International Society	2・3・4後	4		○						1							
		Traditional Arts of Asia	2・3・4後	2		○												兼 1	隔年
		Modern Arts of Asia	2・3・4後	2		○												兼 1	隔年
		Asian Philosophies and Thought	2・3・4前	4		○												兼 1	隔年
		Survey in Comparative Literatures	2・3・4後	2		○												兼 1	隔年
		Seminar in Visual Cultures	2・3・4前	2				○										兼 1	
		Survey of Global Media and Communication	2・3・4後	2		○												兼 1	
		Topics in Gender and Sexuality	2・3・4前	4		○												兼 1	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(国際教養学部国際教養学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考 ※経済経営学専攻:EM専攻 グローバルスタディーズ専攻:G S専攻と略す
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門科目 全学対象科目 留学・国際交流関連科目	Survey of Identities in Asia	2・3・4前		4		○							兼1	隔年
	Seminar in Global Asia Issues	2・3・4後		2		○			1				兼1	
	Global Asia in the 21st Century	2・3・4前		4		○							兼1	
	Survey of Global Issues	2・3・4前		2		○							兼1	
	Environmental Issues in a Global Context	2・3・4前		4		○							兼1	隔年
	Special Topics in Global Asia	2・3・4後		2		○			1				兼1	
	Politics in Asia	2・3・4前		2		○							兼1	
	Studies of Asian Economies	2・3・4後		2		○				1			兼1	
	Topics in Technology and Society	2・3・4後		2		○							兼1	隔年
	Seminar in Entrepreneurship	2・3・4前		2		○							兼1	
	Fieldwork in Japan	2・3・4後		2		○	○						兼1	
	アメリカの社会と文化1	1・2・3・4前		2		○							兼1	
	アメリカの社会と文化2	1・2・3・4後		2		○							兼1	隔年
	イギリスの社会と文化1	1・2・3・4前		2		○							兼1	
	イギリスの社会と文化2	1・2・3・4後		2		○							兼1	
	日本の社会と文化1	1・2・3・4前		2		○							兼1	
	日本の社会と文化2	1・2・3・4後		2		○							兼1	隔年
	現代世界の諸問題1	1・2・3・4前		2		○							兼1	
	現代世界の諸問題2	1・2・3・4後		2		○							兼1	
	ドイツ語圏の社会と文化1	2・3・4前		2		○							兼1	
	ドイツ語圏の社会と文化2	2・3・4後		2		○							兼1	隔年
	フランスの歴史と社会1	2・3・4前		2		○							兼2	
	フランスの歴史と社会2	2・3・4後		2		○							兼2	
	中国の社会と文化1	2・3・4前		2		○							兼1	
	中国の社会と文化2	2・3・4後		2		○							兼1	隔年
	韓国・朝鮮の社会と文化1	2・3・4前		2		○							兼1	
	韓国・朝鮮の社会と文化2	2・3・4後		2		○							兼1	
	インターカルチュラルスキル養成講座1	1・2・3・4前		2		○							兼1	
	インターカルチュラルスキル養成講座2	1・2・3・4後		2		○							兼1	隔年
	グローバル・リーダーシップ養成講座1	1・2・3・4前		2		○							兼1	
	グローバル・リーダーシップ養成講座2	1・2・3・4後		2		○							兼1	
	留学入門ゼミナール	1・2・3・4後		2			○						兼1	
	グローバル・コミュニケーション1	1・2・3・4前		1			○						兼1	隔年
	グローバル・コミュニケーション2	1・2・3・4後		1			○						兼1	
	イングリッシュ・サマースクール1	1・2・3・4休		1			○						兼1	
	イングリッシュ・サマースクール2	1・2・3・4休		1			○						兼1	
	留学のための英語講座A1[TOEFL]	1・2・3・4前		1			○						兼1	隔年
	留学のための英語講座A2[TOEFL]	1・2・3・4後		1			○						兼1	
	留学のための英語講座B1[IELTS]	1・2・3・4前		1			○						兼1	
	留学のための英語講座B2[IELTS]	1・2・3・4後		1			○						兼1	
	ドイツ語論述実習1	2・3・4前		1			○						兼1	隔年
	ドイツ語論述実習2	2・3・4後		1			○						兼1	
	フランス語論述実習1	2・3・4前		1			○						兼2	
	フランス語論述実習2	2・3・4後		1			○						兼2	
	中国語論述実習1	2・3・4前		1			○						兼1	隔年
中国語論述実習2	2・3・4後		1			○						兼1		
韓国・朝鮮語論述実習1	2・3・4前		1			○						兼1		
韓国・朝鮮語論述実習2	2・3・4後		1			○						兼1		
副プロジェクト科目	学部横断型課題解決プロジェクト	2・3・4前・後		4			○						兼1	集中
	副専攻ゼミナール1(グローバルスタディーズ)	3・4前		2			○		1					
	副専攻ゼミナール2(グローバルスタディーズ)	3・4後		2			○		1					



教 育 課 程 等 の 概 要														
(国際教養学部国際教養学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考 ※経済経営学専攻:EM専攻 グローバルスタディーズ専攻:G S専攻と略す	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教 手		
専門科目 全学対象科目 人文学部提供科目	日本の言語文化1	2・3・4前		2		○							兼2	
	日本の言語文化2	2・3・4後		2		○							兼2	
	日本古典文学史1	2・3・4前		2		○							兼1	
	日本古典文学史2	2・3・4後		2		○							兼1	
	日本近現代文学史1	2・3・4前		2		○							兼1	
	日本近現代文学史2	2・3・4後		2		○							兼1	
	日本思想史1	2・3・4前		2		○							兼1	
	日本思想史2	2・3・4後		2		○							兼1	
	中国思想史1	2・3・4前		2		○							兼1	隔年
	中国思想史2	2・3・4後		2		○							兼1	隔年
	朝鮮文学史1	2・3・4前		2		○							兼1	隔年
	朝鮮文学史2	2・3・4後		2		○							兼1	隔年
	日本服飾文化史1	2・3・4前		2		○							兼1	
	日本服飾文化史2	2・3・4後		2		○							兼1	
	日本建築史1	2・3・4前		2		○							兼1	
	日本建築史2	2・3・4後		2		○							兼1	
	日本美術工芸史1	2・3・4前		2		○							兼1	
	日本美術工芸史2	2・3・4後		2		○							兼1	
	日本の身体文化1	2・3・4前		2		○							兼1	隔年
	日本の身体文化2	2・3・4後		2		○							兼1	隔年
	日本芸能史1	2・3・4前		2		○							兼1	隔年
	日本芸能史2	2・3・4後		2		○							兼1	隔年
	琉球文化論1	2・3・4前		2		○							兼1	
	琉球文化論2	2・3・4後		2		○							兼1	
	朝鮮文化論1	2・3・4前		2		○							兼1	隔年
	朝鮮文化論2	2・3・4後		2		○							兼1	隔年
	日本民俗史1	2・3・4前		2		○							兼1	
	日本民俗史2	2・3・4後		2		○							兼1	
	民俗宗教論1	2・3・4前		2		○							兼1	隔年
	民俗宗教論2	2・3・4後		2		○							兼1	隔年
	宇宙観の歴史	1・2・3・4後		2		○							兼1	
	現代スポーツ論	1・2・3・4前		2		○							兼1	
	スポーツ身体論	1・2・3・4後		2		○							兼1	隔年
地球と宇宙のフロンティア	1・2・3・4前		2		○							兼1		
都市環境論	1・2・3・4前		2		○							兼1		
芸術の科学	1・2・3・4後		2		○							兼1		
生物学のフロンティア	1・2・3・4後		2		○							兼1		
生物多様性の科学	1・2・3・4前		2		○							兼1		
社会学部提供科目	ジャーナリズム論	3・4前		2		○							兼1	隔年
	メディアリテラシー論	3・4後		2		○							兼1	隔年
	NPO・NGOとメディア	3・4前		2		○							兼1	隔年
	音楽文化の社会学	3・4前		2		○							兼1	隔年
	教育社会学	3・4前		2		○							兼1	隔年
	アイデンティティの社会学	3・4前		2		○							兼1	隔年
	社会運動論	3・4前		2		○							兼1	隔年
グローバリゼーションの社会学	3・4前		2		○							兼1	隔年	
学芸員課程関連科目	博物館概論	1・2・3・4前		2		○							兼1	
	博物館資料論	1・2・3・4後		2		○							兼1	
	博物館経営論	1・2・3・4後		2		○							兼1	
	博物館情報・メディア論	1・2・3・4前		2		○							兼1	
	博物館資料保存論	1・2・3・4後		2		○							兼1	
	博物館展示論	1・2・3・4後		2		○							兼1	
	生涯学習概論	1・2・3・4前		2		○							兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(国際教養学部国際教養学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考 ※経済経営学専攻:EM専攻 グローバルスタディーズ専攻:G S専攻と略す			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教		助 手		
専 門 科 目	全 学 対 象 科 目	教 職 の 教 科 に 関 する 概 説 科 目	日本史概説	1・2・3・4前・後	2	○								兼 2	隔 年  隔 年	
			外国史概説	1・2・3・4前	2	○										兼 1
			法学概説(国際法を含む)	1・2・3・4前	2	○										兼 1
			政治学概説(国際政治を含む)	1・2・3・4後	2	○										兼 1
			経済学概説(国際経済を含む)	1・2・3・4後	2	○										兼 1
			社会学概説	1・2・3・4後	2	○										兼 1
			地誌概説	1・2・3・4後	2	○										兼 2
			人文地理学概説	1・2・3・4前・後	2	○										兼 3
			自然地理学概説	1・2・3・4後	2	○										兼 1
			倫理学概説	1・2・3・4後	2	○										兼 1
			宗教学概説	1・2・3・4後	2	○										兼 1
			哲学概説	1・2・3・4前	2	○										兼 1
			心理学概説	1・2・3・4後	2	○										兼 1
小計(187科目)			—	0	386	0	—			1	2	1	0	0	兼 99	
合計(553科目)			—	10	973	6	—			9	4	7	1	0	兼 184	
学位又は称号	学士(経済経営学) 学士(グローバルスタディーズ)			学位又は学科の分野			経済学関係 文学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
【経済経営学専攻】 ○総合科目20単位(A～Fの各分野から最低2単位以上含む)以上を修得する。 ○外国語科目8単位(1年次5単位、2年次3単位)を修得する。 選択外国語の修得単位は総合科目の「分野を問わない8単位」の中に8単位 まで算入できる。 ○専門科目96単位以上を修得する。 ・専攻基礎科目のうち、学部共通科目から選択科目として6単位、経済経営学専攻科目から選択科目として6単位以上、合計12単位以上を修得する。 ・専攻専門科目のうち、学部共通科目から必修科目として6単位、専攻必修科目 <sup>※1</sup> として4単位、経済経営学専攻科目から専攻必修科目 <sup>※2</sup> として6単位、選択科目として20単位以上、合計36単位以上を修得する。 ・専攻指定科目 <sup>※3</sup> から48単位以上を修得する。 ○合計124単位以上を修得する。 ※1:Introduction to Economics(a) ※2:Economics and Management Seminar1(a), 1(b), 2, 3(a), 3(b) ※3:卒業に必要な単位数を超えて修得した専攻基礎科目及び専攻専門科目、全学対象科目。						1学年の学期区分						2 期				
【グローバルスタディーズ専攻】 ○総合科目20単位(A～Fの各分野から最低2単位以上含む)以上を修得する。 ○外国語科目14単位(1年次6単位、2年次6単位、選択外国語2単位)を修得する。 2単位を超えて修得した選択外国語の修得単位は総合科目の「分野を問わない8単位」の中に8単位 まで算入できる。 ○専門科目90単位以上を修得する。 ・専攻基礎科目のうち、学部共通科目から選択科目として10単位、グローバルスタディーズ専攻科目から専攻必修科目として4単位 <sup>※1</sup> 、選択科目として8単位(実習4単位、講義4単位)以上、合計22単位以上を修得する。 ・専攻専門科目のうち、学部共通科目から必修科目として6単位、グローバルスタディーズ専攻科目から専攻必修科目 <sup>※2</sup> として2単位、選択科目として32単位以上 <sup>※3</sup> 、合計40単位以上を修得する。 ・専攻指定科目 <sup>※4</sup> から28単位以上を修得する。 ○合計124単位以上を修得する。 ※1:Global Studies 1st-Year Seminar1, 2 ※2:Capstone Project Pre-Seminar ※3:専攻専門科目のグローバルスタディーズ専攻科目の選択科目のうち、「Global Studies Seminar1」、「Global Studies Seminar2」から8単位を選択必修とする。 ※4:卒業に必要な単位数を超えて修得した専攻基礎科目及び専攻専門科目、全学対象科目。						1学期の授業期間						13 週				
年間履修登録単位数の上限は両専攻とも48単位。						1時限の授業時間						105 分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
(国際教養学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	コ（A）情報とコミュニケーション 情報技術と人間社会	ICTは、店舗やインターネットでの買い物、銀行での振り込みなど、日常生活の様々な場面で使われている。本授業では、私たちが無意識のうちに使っている、これらの仕組みの実態を明らかにしつつ、私たちの生活や社会が今後どのように変わっていくかを学ぶ。具体的には、インターネット、POS、バーコード、電子クーポン、ATM、そして電子マネーなどの身の回りで使われている情報通信技術の概要を知り、日常生活と職業生活で、情報通信技術を活用できる力を身につけることを到達目標とする。	
総合科目	コ（A）情報とコミュニケーション メディアと社会	現代社会には様々なかたちのメディアが存在しており、人はそれらの媒体を通して社会と多様なつながりを持つことができる。この授業では、社会の中でメディアとコミュニケーションに関わるさまざまな現象に関する諸理論を理解するとともに、「メディアと社会」に関して多角的に考察する力を養う。情報技術の発展により、誰もが表現者にも発信者にもなりえるこれからの時代において、メディアを正しく受け取り、読み解く思考法や技術を身につけることが本授業の目標である。	
総合科目	コ（A）情報とコミュニケーション データ分析の基礎	本授業では、データや情報を取り扱うために必要な統計の知識、その知識を使うために必要な統計ソフト(本授業ではエクセル)の使い方の基礎などを身につける。具体的には、前半では、確率の基礎、分散、標準偏差、偏差値などの基本的統計量の求め方や意味、データ同士の関係性を表す相関係数や共分散などの求め方や意味を学ぶ。後半では、実践的な知識として、前期で学んだことを自由に使いこなすために必要なエクセルの操作を通して、前半で学んだ知識をより強固なものにすることを目標とする。	
総合科目	コ（A）情報とコミュニケーション データ分析の応用	本授業では、全体の中から取り出された一部のサンプル(標本)を検討・分析し、その結果から全体の性質を確率的・統計的に推測する数理統計学・推測統計学の基礎について学ぶ。前半では、記述統計であるデータの整理や分析について復習した上で、数理統計学の基盤である確率論および確率モデルの概要について、また後半では推定や検定などの統計的推測法、さらにその応用としての相関分析、回帰分析をはじめとした確率モデル、多変量解析(主成分分析、因子分析など)について学ぶ。	
総合科目	コ（A）情報とコミュニケーション Information Technology and Global Communication	本授業では、今日の世界において情報伝達を中継するさまざまなメディア・テクノロジーを概観するとともに、①さまざまな形態のメディアにアクセスする方法を学ぶこと、②情報の収集・処理に必要な評価スキルを習得すること、③入手した情報を批判的に評価することの重要性を確かめること、④情報の生成および流通に参画することを到達目標とする。	隔年
総合科目	コ（A）情報とコミュニケーション 問題解決とコンピューティング	講義とコンピュータを使用する実習を通して、論理的、数理的な考えを養うため、プログラミング、数理的、論理的なゲーム、パズルなどを扱う。統計を用いた仮説の検定などを行い、実際にありそうな課題を考え解決する方法も考察する。具体的には、初歩的なプログラミングをスクラッチによって学ぶ。プログラムは論理的に記述しなければならないので、論理的な思考や数理的な考えを養うためのクイズ形式の演習も多用する。最終的には、仮説を立て、その仮説を立証するためにはどのような手順が必要か、そしてどのような結果が得られると仮説を検証したことになるのかを文章で記述し、かつそれを統計的に実際のデータを使って検証できるようになることを目標とする。	
総合科目	コ（A）情報とコミュニケーション データマイニング入門	情報化社会において、各種データを意思決定や価値判断に有効に活用しようとする必要性が増大し、データ処理・分析の重要性が高まっている。本授業では、身近なデータ(社会調査や実験から得られたデータ等)をもとに、統計分析を行うための基礎をコンピュータおよび分析ツール(表計算ソフトや統計解析ソフト)を活用して学ぶ。身近な問題についてデータを収集・分析し、データ分析を通して正しく説明できるようになること、コンピュータおよび分析ツールを活用して、データ分析を行い、それぞれの統計データの分析について基本的な分析手法について説明できるようになることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	コ（A）情報とコミュニケーション	インターネット・イングリッシュ	インターネットの利用を通して、英語による情報入手のスキルを身につけると同時に英語力の向上をはかることが、本授業の目標である。本授業では実践的な課題を通して、検索ツールとしてのインターネットの利便性を生かし、英語学習のためのデータの収集法や整理法、インターネットを利用した英語リーディングおよびライティング、リスニングの学習ツールとしての利用法、あるいはインターネットを用いて学習成果を公表する方法などを学ぶ。
総合科目	コ（A）情報とコミュニケーション	クリエイティブ・ライティング	日本語学の知識に基づいた自己表現の力を身につけるために、日本語ライティングの教科書を使いながら、創作的な文章、エッセイやコラム、自分史、広告文などを書いたり、冊子を作成する(ブックデザイン。割り付けから校正まで)。普段行っている作文を自覚的に行えるようになること、その結果、作り出すテキストを豊かにすることが本授業の目標である。そのために、さまざまなジャンルの文章を書く。ブログやケータイ小説、twitterも扱い、制作物発表会・展示会も企画する。また、プロの作品をまねる、音楽や映像に文章をつける、などの方法にも取り組む。
総合科目	コ（A）情報とコミュニケーション	アカデミック・ディベート	現代の諸問題(政治・経済・法・社会問題・事件事故・文化現象・流行現象など)をディベートの対象とし、資料の調査・論点の整理(事前準備)・ディベートの実施・相互評価を行う。ディベート能力は、社会において問題や課題の設定、探求、解決のため、小グループで話し合うことは不可欠な作業である。本授業ではディベートとダイアログを通じて、「単なるゲームの勝ち負けを超えた」コミュニケーション能力の向上を目指し、グローバルスタンダードな思考方法、表現方法などを身につけることを目標とする。
総合科目	コ（A）情報とコミュニケーション	クリティカル・シンキング	クリティカルシンキング(批判的思考)とは、物事や情報を吟味し、何が正しいか、何を信じるべきかを判断するために行う思考である。分析的・論理的であること、広い視野や適切な基準から問い直すこと、客観的な根拠に基づくことなど、さまざまな要素で構成されている。本授業では様々な例題を題材に取り上げつつ、他者の主張を正しく理解すること、他者と建設的な対話を行うこと、また自らの主張を正しく他者に伝えるスキルを取得することを目標とする。
総合科目	コ（A）情報とコミュニケーション	Digital Media Training	本授業は、さまざまな形式のデジタルメディアを取り上げ、今日のグローバル社会において利用可能な数多くのデジタルメディアへのアクセスとそれらの活用に必要な知識やスキルの習得を目標とする。ファイルフォーマット、テキストコード化、著作権者の類型に関する基礎知識を学ぶと共に、タイピングスキルやコンテンツ検索手法(とりわけ検索エンジンの最適化に関する理解を含む)やコンテンツ制作スキルを習得するための演習を行う。
総合科目	コ（A）情報とコミュニケーション	Accounting and Finance (a)	本授業は、会計学や企業財務論の導入科目として、企業の経済活動におけるその意義と関係する主要概念について学ぶ。ビジネスの現場における経済的意思決定を行うために役立つ財務会計と管理会計の基礎的な分析手法の習得を到達目標とする。本授業を修了すると、金融市場の機能や基本的な財務諸表の作成と会計情報の活用について理解し、説明できるようになる。
総合科目	(B) 歴史と文化	グローバル時代の歴史認識	現代の地球人は、グローバル時代を生きている。グローバルという概念に至るまでの、人類史の歩みを概観するための視点ないし座標軸を提供することが本授業の目標である。高校世界史を学んでいない学生にもわかる内容の授業を行う。取り上げる視点を例示すれば、ローカルヒストリー(地域史)、ナショナルヒストリー(国民国家の歴史)、ワールドヒストリー(諸国民の世界史)、グローバルヒストリー(国民国家の歴史を相対化した多元的多層的な地域形成・地域間交流・移動・移民等の地球史)などである。また、「東西」の視点と「南北」の視点に理解を深め、人類史の「時代区分」を問い直す。
総合科目	(B) 歴史と文化	20世紀の世界	前世紀(20世紀)の世界を振り返り、その意義と特質を再認識し、21世紀の課題を考える力を養うことが、本授業の目標である。取り上げる項目の一つは、エレクトリシティと人間生活、輸送革命、モータリゼーションといった人間社会を支える基礎科学技術の発展である。また、情報革命が進展する21世紀をもたらした、マスメディア、大衆社会、インターネットなどの発展を振り返り、その影響の広がりや深さも考える。その他、帝国主義、世界大戦、ナチズム、総力戦、国際平和機関、国際条約、核兵器、植民地の独立、民族自決、冷戦、覇権国家、ソ連の崩壊など、21世紀への道のりを俯瞰し、平和について考えを深める。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	(B) 歴史と文化 20世紀の日本	日本の前世紀(20世紀)を振り返り、その意義と特質を再認識し、21世紀の課題を考える力を養うことが本授業の目標である。明治維新後、欧米列強とアジアの間で揺れ動き、日清・日露戦争から第一次世界大戦、そして第二次世界大戦へといくつもの戦争があった。とくに第二次世界大戦の前と後とでは大きく、国の形も変化した。戦後は、新しい日本国憲法が制定され、経済的にも高度成長期を経て、世界第二の大国とまで言われた。21世紀も20年過ぎた今、改めて、20世紀後半の日本を振り返ることは、意義深く、不可欠なことである。	
総合科目	(B) 歴史と文化 社会思想の歴史	本授業は、はじめて社会思想の歴史を学ぶ学生を対象として、現代社会の諸問題を理解するうえで知識として必要となる、基礎的なヨーロッパの社会思想の歴史を理解することを目的としている。ヨーロッパ思想を中心とした社会思想史の概説として、講義形式を基本としつつ、視覚教材なども使用しながら講義を行っていく。現代社会に至る人間の自立の精神史について、啓蒙思想やロマン主義、フェミニズムの変遷や教育論などを通して学ぶ。	隔年
総合科目	(B) 歴史と文化 人文学入門	文学、芸術、歴史の3分野を中心として、人文学において何をどう学ぶのか、学問としての基本的な方法と研究のための基礎的な知識をオムニバス方式で講じる。各分野に通底する文献およびテキスト(舞台芸術、美術作品を含む)を読み解くための方法や、人文学を学ぶことのどこに面白さがあり、現代の社会と人文学がいかに切り結ぶのかを具体的な事例を取り扱いながら学ぶ。詳細は以下の通り。 【オムニバス方式/全13回】 ※担当教員のうち1名をコーディネーターとする (40 嶋内 博愛/1回) イントロダクション、全体的な導入 【文学分野/4回】 (20 リンジー・モリソン/1回) 日本文学について (77 戸塚 学/1回) 近現代文学について (34 木元 豊/1回) フランス文学について (31 桂 元嗣/1回) ドイツ文学について 【芸術分野/4回】 (71 北村 紗衣/1回) イギリスの芸術について (73 小森 真樹/1回) アメリカの芸術について (40 嶋内 博愛/2回) フランスの芸術について/ドイツの芸術について 【歴史分野/4回】 (67 桃崎 有一郎/1回) 日本史について (35 黒岩 高/1回) アジア史について (38 小森 謙一郎/1回) 近代史について (76 館 葉月/1回) 現代史について	オムニバス
総合科目	(B) 歴史と文化 日本と世界の宗教	現代社会に生きる者に必要不可欠な基本的知識の一つとしての「宗教」を取り上げ、宗教学の立場から、その起源から歴史的展開に従って、グローバル化した現代社会に至るまでの宗教のありようを概観する。さまざまな「神」の観念や神話と伝承、そして、信仰のあり方を知ることによって、宗教問題に関する冷静な洞察力を養う。世界の宗教の教義と生活規範、布教と伝播の歴史、世界宗教と民族宗教の違いなども概説する。一方、伝統的宗教と新宗教、宗教と政治、宗教と社会、寛容と不寛容といった、宗教がもたらす世界の動向にも注意を払う。戦争ではなく平和をめざす宗教間の対話、あるいは、宗教と科学、宗教と学校教育といった課題にも展開する。宗教学の基礎概念を理解し、説明できるようになること、および人間と宗教の歴史的関わり、現代社会における宗教の諸問題を説明できるようになること、が本授業の到達目標である。	
総合科目	(B) 歴史と文化 日本の伝統と文化	本授業はとくに、庶民の日常生活に焦点をあてて日本の文化を再認識させることが目標である。民俗や生活習慣、宗教と年中行事などの精神世界の問題を中心に据えた分野からみる。一方、芸能、工芸、服飾、食文化 住居(建築物)などを通して、表現された日本的なるものも扱う。そればかりでなく、東アジアの端に位置する日本が大陸や朝鮮半島と交流してきたことが、どのように、伝統的な文化に見られるかを探り、外来の文化との融合の諸相もテーマにする。	
総合科目	(B) 歴史と文化 現代の世界と人々	本授業は現代の世界に存在する様々な社会や文化、人々を理解することを目標とする。現代は世界中の様々な国や人々との交流が行われる時代である。その一方で、それらの国々の人口・地理・GDPでみる生産・産業・人々の暮らしを知っている学生は多くはない。世界が抱える問題を理解するうえで必要となる社会的・経済的な知識の不足を補うべく、本授業では、現代の世界各国の社会と政策・地理と気候・経済・芸術・文化・環境について身近なところから視点をおいて具体的に学ぶ。	
総合科目	(B) 歴史と文化 多文化共生の現在	本授業はさまざまな地域の民族誌や映像資料等を用いて、現代をともに生きる第三世界、第四世界の人々の暮らしを学ぶとともに、先進諸国の中における文化的な多様性にも目を向ける。取り上げる項目としては、先住民と移民、エスニシティ、差別と偏見、交換と経済、環境と開発、紛争、家族と親族、遊び・祭り・芸術、教育と文化政策、信仰・世界観・儀礼、セクシュアリティとジェンダー、文化とアイデンティティー、グローバル化と他者などである。異文化(「他者」)に対する理解を深め、多文化共生への道を探ることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	(B) 歴史と文化 Japan in the Modern World	本授業は、19世紀中頃から現在までの日本の近現代史と世界との関係について論じることを目的とする。授業は英語で行う。日本が世界の出来事によりに影響し、世界からどのような影響を受けてきたかを考察する。とくに、現在の日本の変化に寄与した文化的、経済的、政治的要因に注目し、日本の政府と国民が世界に与えてきた影響と諸外国が日本の歴史に与えてきた影響について分析を行う。具体的なテーマとしては、国際主義と孤立主義、平和主義と反軍国主義、日本例外論、日本の文化・社会観の伝播と実践などが挙げられる。	隔年
総合科目	(B) 歴史と文化 Introduction to Race, Ethnicity and Nation	本授業は、人種、エスニシティ、国家の概念について、さまざまな定義を概観し、これらの観点からみた歴史について詳しく学ぶことを目的とする。授業は英語で行う。人種やエスニシティに関する自然主義者の主張と社会構築主義者の主張を比較しながら、人種的/民族的本質主義、科学的人種主義、人種/民族差別などのテーマに取り組み、それらが過去から現在まで世界各地で国家建設のプロセスにどのように作用してきたかを考察する。	隔年
総合科目	(B) 歴史と文化 世界の名著	本授業は世界の歴史・哲学・文学・文化論や社会科学・自然認識などの多様な分野から、それぞれ名著とされる著作を選んで講読する。著作に対する「理解」や「感動」に加えて、名著のなかに語られている思想・制度・現象・人間の行動などについて、授業に参加する学生が「評価」や「批判」を行い、各自が毎回読書ノートを作成して、内容を的確に要約できる能力を身につけるとともに、他者とのディスカッションに参加する力を育てることを目的とする。	
総合科目	(B) 歴史と文化 日本の名著	本授業は日本の歴史・哲学・文学・文化論や社会科学・自然認識などの多様な分野から、それぞれ名著とされる著作を選んで講読する。著作に対する「理解」や「感動」に加えて、名著のなかに語られている思想・制度・現象・人間の行動などについて、授業に参加する学生が「評価」や「批判」を行い、各自が毎回読書ノートを作成して、内容を的確に要約できる能力を身につけるとともに、他者とのディスカッションに参加する力を育てることを目的とする。	
総合科目	(B) 歴史と文化 サイエンスラゴ講座(文理融合)	本授業は文理融合領域でのプロジェクト研究を行い、学術的な文化研究の方法を身につけることを目標とする。例えば文化財科学や保存科学の調査手法を用いて、歴史学や民俗学との境界領域での研究を展開する。幾例かあげると「日本刀の年代測定法」「蕨双子織について」「被衣の歴史的背景と遺品の検討」「練馬区の歴史と民俗」などである。文理融合テーマであるため、専門の異なる教員によるオムニバス方式で本授業を運営する。担当教員、担当回数、内容は以下の通り。 【オムニバス方式/全13回】 (63 薬袋 佳孝/5回)文化財科学とその応用について (126 佐々木 淑美/8回)保存科学・歴史学・民俗学とその応用について	オムニバス
総合科目	(C) 現代社会 日本国憲法	日本国憲法は、権利保障と権力分立を定めることで、国家が遵守すべき規範を示している。この考え方は、西洋の近代市民革命の成果に基づくものであるとともに、大日本帝国憲法下でなされた人権侵害を克服するために採用された。今日の日本社会でも、国家権力を制約し、人権保障を貫徹していくことは、重要な課題となっている。そこで、本授業では、憲法の全体像を講義することで、履修生が憲法の基本的な仕組みを理解することを目的とする。とくに実際に問題となった事件を多く取り上げることで、憲法条文に関する基本的解釈を理解することだけでなく、憲法規範に基づいて、今日の日本社会を批判的に分析し、あるべき社会を構想する能力を修得することを目標とする。	
総合科目	(C) 現代社会 現代社会と政治	現代政治を理解し、これに参加するにあたって有用な思考の枠組みを学生に教授する。とくに「リベラリズム(自由主義)」と「デモクラシー(民主主義)」に関わる諸論点を取り上げる。なお、現代政治の諸問題をより根本的に考察するために、随時、政治学史上の諸々の古典にも言及する。本授業では、現代政治理論の基礎知識の習得を目標とする。とくに20世紀初年以降のヨーロッパ、およびアメリカにおける政治理論の一般的傾向を理解し、ついで獲得された知見にもとづいて、現代政治の諸問題に関して学生自らが考究しうることをもって、本学習目標が達せられるものとする。	隔年
総合科目	(C) 現代社会 現代社会と法	本授業は、現代社会において法が果たす役割の理解を目的とする。最初に、法の概念と歴史について講義した後に、日本における近代法の継受を検討し、今日の日本法の位置づけについて解説する。その後、現行の司法制度について講義した上で、今日の日本法を特徴づけるテーマについて解説する。具体的には、象徴天皇の生前退位、平和主義と海外派兵、契約の自由とNHK受信料、夫婦別姓と家族制度、治療拒否と自己決定、情報化社会とプライバシー、刑事手続と裁判員制度、労働法と働き方改革関連法、生存権と生活保護について講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	(C) 現代社会 現代社会と経済	本授業は、現代社会に潜む経済に関わるさまざまな問題を少しでも客観的に理解するために、経済学の基本的な内容を学ぶ。例えば、マクロ経済学では国の経済力をあらわすGDPや物価について学ぶことで、経済成長率やインフレ率、さらには失業を克服するための経済政策等に関する知識を身につけることを目標とする。またミクロ経済学ではモノの値段がどのようにして決まるのかを学ぶことで、自由な競争が確保される社会が私たちにどうして大切であることを理解できるようになることを目標とする。さらにメディアに取り上げられる財政の問題、環境の問題、貿易の問題等々に対しても、新聞記事等を利用して現状を正しく理解するだけでなく経済学による解決策を示すことで、学生の関心を高める。	隔年
総合科目	(C) 現代社会 現代社会と人権	「人権」は、安穏とした日常生活のなかではなかなか把握が難しく、人権の「侵害」が起きて、はじめて「守られるべきもの」と意識されることが多い。本授業では、社会の様々な場面で起きている人権の「侵害」を具体的に上げ、獲得され、守られるべき「人間の権利」について、具体的事例をもとに理解を深めることを目標とする。 【オムニバス方式/全13回】 ※担当教員のうち1名をコーディネーターとする (コーディネーター、81 松井 隆志/4回) 「全体のガイダンス」および「全体のまとめ」を行う。(2回) ゲストスピーカーを招聘し、コーディネーターの企画と司会進行により、人権に関連したその時代における旬なトピックを紹介してもらう。(2回) (80 人見 泰弘/1回) 人権の歴史について概説し、この権利が人間社会史の中で、いかなる困難の上で確立されてきたものであるかを学ぶ。 (33 菊地 英明/1回) 人権保護のために必要とされる福祉政策や、新自由主義化が進む現代社会における課題について論じる。 (57 林 雄亮/1回) 今日の格差社会の進行が、貧富の差、ライフチャンスの格差など、様々な問題をもたらしていることについて紹介する。 (55 中西 祐子/1回) 公的社会および私的社会に潜むジェンダーと人権問題について解説、その解決策について考察する。 (85 林 玲美/1回) 日本社会は多文化社会であることを明らかにし、現存する人権問題について理解する。 (47 垂見 裕子/1回) 教育を受ける権利の重要性について述べ、日本社会の現状と、国際開発上の取り組みについて紹介する。 (24 アンジェロ・イン/1回) メディアが人々に保障する権利や人々にもたらす侵害について紹介し、メディアのあり方について考察する。 (53 内藤 暁子/1回) グローバル化が進む現代社会において、国際社会の中ではどのような人権問題が生じているのかを論じる。 (23 安藤 文将/1回) 社会運動は、人権の確立に不可欠なものであることを、国内外の様々な事例を取り上げて紹介する。	オムニバス
総合科目	(C) 現代社会 現代社会とジェンダー	私たちの社会は身体のちがいを理由づけとしてジェンダーを生み出してきた。「女性」「男性」という性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、そのような「常識」がいかにして維持・再生産されてきたのかを具体的な事例に取り上げながら考察する。現代社会における共生の課題を考えるためにジェンダーの視点で社会構造を読み解く視点を育む。また「女性」「男性」という性別が生み出される背景を性別二元論、異性愛主義という社会規範とともに考え、日常生活のなかで「立ち止まって考える」姿勢を養う力をつけることが本授業の目的である。	隔年
総合科目	(C) 現代社会 現代社会とアート	本授業では、現代アート作品を取り上げ、実際に鑑賞・考察し、「表現」と現代社会のあり方を結び付けて検証する。現代における「創造」とは何か。これを探るのが本授業のテーマ・目標である。「美術史」は絵画、彫刻、建築といった「純粋」芸術を主に研究対象としてきたが、私たちが生活している現代社会には、テレビや広告、ウェブ上などで、こうした領域からはみ出したイメージが氾濫している。私たちの生活を彩るイメージを取り上げ、イメージを生産・消費する現代社会の「創造」を問い直す。現代アートは現代作家による創造であるが、いつの時代にも「創造」は作家の鋭いインスピレーションと過去の芸術への深い洞察に立脚している。学問の対象として「創造」を理解するためには、美術史の基本的知識は不可欠であるため、西洋美術史の基礎知識も学ぶ。	隔年
総合科目	(C) 現代社会 国際社会における紛争と協調	20世紀は戦争の世紀と言われ、国家間の戦争が繰り返された。とくに第二次世界大戦以降は、内戦やテロなどの「紛争」が多発し、そうして紛争どうしが相互に影響しあっている。問題の根深さを様々な視点から考えていくが、以下にその視点やキーワードのいくつかを列挙する。国家、エスニシティ、宗教、難民、イデオロギー、冷戦、安全保障、国際連盟・国際連合、東西対立、南北問題、地域統合、政府間・地域間の対話、NGOの役割など。本授業では、現代世界において「紛争」が起きるメカニズムを知り、各種の政治的調停の成功例や失敗例を確かめ、国際平和のために何が必要かを考えることを目標とする。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目 (C) 現代社会	現代社会とグローバリゼーション	本授業では、グローバル化のもとで、国際的な社会認識を高めることを目標にして、諸外国の社会事象や世界的な社会問題、および日本社会との関わりに言及する。キーワードは、国境、移民、多文化社会、国際(多国籍)企業、世界規模での競争(メガコンペティション)、経済の低成長、人口減少、貧困、安全保障、グローバリズム、ネオリベラリズム、トランスナショナルリズムなどである。	隔年
総合科目 (C) 現代社会	現代日本の課題	本授業では、雇用形態の多様化と格差拡大、貧困と社会的排除、過労死と自殺、未婚化と少子高齢化、地域社会の空洞化、社会保障制度の機能不全、解消しない男女間格差、未整備のままの外国人労働者のための生活保障などの中から、いくつかのテーマを取り上げつつ、問題解決の道を探っていくことが目標である。	
総合科目 (C) 現代社会	Introduction to Human Rights	本授業は、現代の人権思想と人権に関する課題を現代世界における理論的正当性と実践的適用性の観点から講義する。世界人権宣言の人権モデルを歴史的文脈の中に位置付けること、自然権およびその他の正当化理論とそれらの限界について熟知すること、文化相対主義や民主的正当性の問題が人権思想によってどのように扱われているかを検討することが本授業の目的である。また、そうした背景のもとで、人道的介入をめぐる論争、資源の限られている世界における経済的、社会的権利の現状、相反する権利主張など、人権保護に関する現実的問題についても検討する。	隔年
総合科目 (C) 現代社会	Introduction to Gender and Sexuality Studies	本授業は社会構成主義から行為遂行論まで、ジェンダーとセクシャリティーに関する概念とさまざまなアプローチを紹介し、ジェンダーとセクシャリティーをめぐる過去および現在の問題をグローバルな視点から概観する。本授業の到達目標は、経済のグローバリゼーション、国際政治、人権、異文化間コミュニケーション、トランスナショナル文化など、ジェンダーおよびセクシャリティーの基本概念を身につけることである。	
総合科目 (C) 現代社会	社会学概論	本授業では、社会学の基本的な概念、理論を学ぶとともに、現代社会の具体的な諸現象(自己とアイデンティティー、秩序と権力、家族、ジェンダー、エスニシティ、社会的不平等、文化、職業と労働、学校と教育、社会問題、グローバル化、リスク社会など)を取り上げて社会学の考察を加える。本授業を通じて社会学の想像力を修得し、現代社会を見る新たな目を養うことが目標である。	
総合科目 (C) 現代社会	現代アート・ワークショップ	日本および世界の現代アートの具体的事例を取り上げ、実物教育やグループ学習等を通じて作品(表現)と現代社会のあり方を結びつけて検証することで、現代アートを身近に読み解き、「作品」を見る眼を養うことが本授業の目標である。現代アートとは、私たちが生きている時代に創られた作品たちであり、芸術に時代が反映されるなら、現代アートこそもっとも身近な美術と言える。デザイン、CG、インスタレーションなど、とすれば伝統的な芸術の枠組みを超えて錯綜する現代アートと、展覧会等を見学して実際に向き合う。さまざまな視点からのアプローチを試み、一見不可解に見える作品を歴史的に解体し、作品の核に迫る。取り上げるジャンルは、多種多様であり、例えば、絵画、彫刻、オブジェ、写真、ポスター、映像、音声、パフォーマンスなどであるが、最初のジャンルは参加者の興味ある分野を選ぶ。	
総合科目 (C) 現代社会	Politics (a)	本授業は政治科学の入門講座として主な理論、研究領域、政治研究の焦点となる経験的課題を概観する。政治研究に採用される方法論的アプローチを学び、現代の政治的課題を分析する領域と方法について理解することが目標である。例えば、異なる政治形態がなぜ、どのように存在するか、主な国家体制は何か、国民は政府にどのような代表権を与えられているか、政治的亀裂の役割、政治活動における非国家主体の影響など、現代政治学の諸課題に取り組むために必要な分析の基礎を習得する。	隔年
総合科目 (C) 現代社会	International Relations (a)	本授業は国際関係論とその古典的、現代的理論、学派、および研究領域に関する入門講座である。第1ユニットでは、国際関係論の基本概念と世界のさまざまな地域に関する重要な情報を取り上げる。地域レベル、グローバルレベルの国際社会が遭遇する諸問題に取り組むために必要な実証的知識を習得することが目標である。第2ユニットでは、国際社会に発生した事象を各レベルで理解するための4通りの方法と主な専門用語を紹介し、それらの方法で国際関係論における個別の問題についての見解を伝達する能力を評価する。第3ユニットでは、第2ユニットの理論的ツールを使って国際関係における地域レベルの問題を分析する。その狙いは、地域問題の背景事情について考察し、4通りの理論的視座から検討し、そこで得られた情報をもとに事象を分析することにある。第4ユニットでは、履修生自らがグローバル規模の主要な国際問題を分析し、国際関係の理論と概念を用いて背景事情を説明し、提案された解決策を評価する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目 (D) 自然と環境	地球の自然史	この数十年、自然科学分野では総合領域や境界領域の研究が著しく進展した。地球科学の分野においても、専門領域で蓄積された詳細な知識が総合化されて、新しい地球観が誕生した。その重要な成果は、地球の誕生とその変遷、気候変動などの地球環境の変化、生命の誕生と進化は、お互いに分かちがたく結びついているという点である。本授業では、地球史という観点から、生命との関わり合いを踏まえて、地球とは何であるのかを解説する。地球という我々にとって唯一無二の環境について、歴史的な視点を導入することにより深い理解に到達することを目標とする。	
総合科目 (D) 自然と環境	環境論	本授業は私たちの日常生活に密接に関連している環境問題について、地球温暖化に見られるような気候の変動、エネルギーと環境の関係について、また地球の生い立ちから多様な生物の事柄についての環境問題および関連した諸問題について学ぶ。さらに、通常の生活に関連する環境問題に関する理解を深めるために、水、大気、資源、自然災害など自然環境の観点からの環境問題および関連した問題について学ぶ。また、今後必要とされる環境問題への取り組みについても概説する。環境問題の発生、経過、対策についてより系統的かつ科学的な理解に到達することを目標とする。	
総合科目 (D) 自然と環境	人間と環境	現代の人口爆発と生活水準の向上は、科学技術と経済活動によって支えられてきた。しかし、その一方で、有害物質汚染・地球温暖化・生物多様性喪失といった様々な環境問題が発生し、将来世代に先送りできないほど深刻な状況となっている。過去20数万年にわたる現代人の進化の過程で、これほどまでに地球生態系全体に影響を与えてきた歴史を概観し、現代の地球環境問題と将来予測と問題解決の方向性を生物学的視点から概説する。環境に対する人間の与えて来たインパクトについて、より深い理解に到達することを目標とする。	
総合科目 (D) 自然と環境	数学の世界	現代社会において、数理学・科学技術は生活のあらゆる所に深く入り込んでおり、文系・理系に関わらず、数学と無縁でいることは決してできない。本授業では、自然現象や社会現象を記述する言葉として、その基礎となっている数学的概念や、様々な問題に対する数学的なアプローチの仕方をも身につけることを目標とする。また、人間は数学と共にあったということを理解してもらうために、高校までの授業ではあまり触れられていない数学の歴史についても学ぶ。	
総合科目 (D) 自然と環境	自然と生活のなかの物理	自然現象や身の回りの様々な物理現象を取り上げ、それらの物理をスライドやビデオなどを通して親しみやすく定性的に紹介する。講義内容としては、力、運動、摩擦、流体、気体、熱、波動、電気、磁気、光、放射線、素粒子、などから題材をとる。また、計算を含む演習を行って、定量的な理解を深め、物理現象を実感として身につける。そして、自然の不思議さ、物理のおもしろさに触れ、改めて、人類と自然との深い関わりについて学ぶ。自然や身の回りの現象に関する科学的な理解の重要性について、より深い認識に到達することを目標とする。	
総合科目 (D) 自然と環境	化学と現代社会	今日のわれわれの生活は、永い人類の歴史の基に築かれている。それぞれの時代に構築された文明を語るときに、物質とエネルギーには避けがたい問題がある。この問題を自然科学的な見方で理解してもらうことを本授業の目的とする。また、われわれの身の周りには、種々の化学物質が使用されている。とくに、最近では化学物質に関連して環境問題を引き起こしている。本授業では、化学物質がわれわれ人間に及ぼす影響と、いかに化学物質を検出・測定するかの技術を平易に解説する。	
総合科目 (D) 自然と環境	生物の進化	生物学において最も重要な概念は進化である。植物や動物が生きるためにみせる様々な行動と形態特徴は、それぞれの種に固有のものとして進化してきた。生物の行動や形態進化は、生物同士の関係も含む多様な環境での相互作用の結果である。生物が地球全体の環境を変化させ、その変化のなかで進化を続けている。生物の進化論を歴史を概観するとともに、性選択、協力行動、共進化など、生物の種間関係がもたらす進化を中心に概説する。進化概念について、社会との関わり合いも含めて、より深い理解に到達することを目標とする。	
総合科目 (D) 自然と環境	生物学と現代社会	生態学的にみると、人間は他の動物や植物を食糧としている生態系の最上位種である。人間を支える栽培植物や家畜の起源と人間社会への影響を、生物学と現代社会の歴史的関係の視点から見直す。生物多様性や生態系の基本構造を理解することは人間存在の基盤を明確に認識することでもある。生態系サービスという概念を中心に据えて、現代社会と生物学とのつながりや相互作用を概説する。遺伝子操作による生態系変化がもたらす現代社会への利益と危険性についても触れる。生態学の概念について、社会との関わり合いも含めて、より深い理解に到達することを目標とする。	
総合科目 (D) 自然と環境	科学と歴史	今日の我々の生活に深く関わる自然科学の土台はどこにあるのか、どのような過程を経て今に至っているのか、本授業ではこのような科学の歴史を取り扱う。自然科学の各分野は近年になるほど細分化されていくので、前半は自然科学全体を、後半には生命に関する分野に焦点をあわせていく。具体的には、科学の源流といわれるギリシャの自然学から、ついで中世ヨーロッパの神秘思想、アラビアを介してのギリシャ学問のヨーロッパへの伝達、ルネッサンスを経て17世紀の近代科学の成立へと社会、思想、宗教と科学の関わりを問題とする。科学の歴史を通じて、現代の科学技術を支える基盤分野である自然科学が社会に導くものについて、より深い理解と洞察力を身につけることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目 (D) 自然と環境	先進の科学技術	科学技術は現代に生きる我々の生活・社会・文化に大きな影響を及ぼしており、好き嫌いかかわらず無関係では決してられない。さまざまな公害や自然破壊などの環境問題や、大問題となっている地球温暖化など負の側面もあるが、それらの問題の解決も科学技術を抜きにしては考えられないのだ。本授業では、現代と近未来を支える先進技術とその歴史的背景を説明する。先進技術とその背景についての基礎を学び、生活・社会・文化とのつながりを実感として理解することを目標とする。	
総合科目 (D) 自然と環境	Global Environmental Issues	本授業は、すべての地球市民に影響をもたらすことから国境を越えた課題となっている環境問題を概観することを目的とする。授業は英語で行う。環境をめぐる様々な問題の詳細とその原因、解決案、関連する議論について具体的分析や考察を行う。履修生は、国際社会が直面している環境問題のいずれかを自らで選んだうえで、調査を行い、さらにそれについてプレゼンテーションを行い、解決策を提案する。また問題理解の一助となるよう、適宜屋外のフィールドワークも取り入れる。	隔年
総合科目 (D) 自然と環境	Introduction to Human Geography	人間社会を構成する相互交流や相互依存の基本的概念や考え方を学び、地理学と私たちの関係性を検討する。本授業では、①批判的に読解、分析するスキルを習得すること、②地域レベル、グローバルレベルの重要な問題を理解するための枠組みを習得すること、③地理的形態、地理的構造、地理的变化を分析することを目標とする。また、人口増加、移住、都市化、食糧安全保障、資源の枯渇と環境破壊、紛争と政治的關係など、世界的な関心の対象となる課題を取り上げる。	隔年
総合科目 (D) 自然と環境	武蔵・環境フィールドワーク	本授業は大学キャンパスを中心とした環境フィールドワークを行い、人と自然の共生の重要性、生態系の循環等を自覚した生き方を体験的に身につけることを目標とした授業を展開する。 【オムニバス方式/全13回】 (担当者全員/1回) 全体のガイダンスを行う。 (60 丸橋 珠樹/4回) 主に生物学的観点からの動植物の調査研究を行う。 (63 藁袋 佳孝/4回) 主に化学的観点から環境の中の化学物質についての調査研究を行う。 (56 橋本 道雄/4回) 気候観測や環境問題と気候変動の問題についての調査研究。 具体的には、本学園校地の自然環境の観察・研究・大学や学生団体等の環境保護の取り組みについての調査を行い、提案・実践・成果報告を行う。	オムニバス
総合科目 (D) 自然と環境	サイエンスラボ集中講座A	本授業は、演習を基本的授業形態とし、それを補う方法として講義・実験・実習を組み合わせる。調査地である群馬県赤城山の美しい自然の中で、植物生態学の基礎的研究方法を用いて、森林生態系の基本構造を調べるフィールドワークである。また、宿泊しながらの、少人数グループ学習、集中授業となる。教室での隔週での学びとは違い、毎日、Plan/Do/Check/Actionを繰り返しながら観察や調査を行う。本授業では、自然科学の研究手法(仮説検証、PDCAサイクル)を身につけるとともにデータ分析、統計解析の基礎に習熟することも目標である。全13回の授業時間のうち、講義は1割、実験および実習はあわせて2割、演習は7割実施する。	集中 講義・実験
総合科目 (D) 自然と環境	サイエンスラボ集中講座B	本授業は演習を基本的授業形態とし、それを補う方法として講義・実験・実習を組み合わせる。武蔵学園構内で実行可能な実習を通して、グループワークやデータ解析などを行う。例えば、構内のさまざまな場所における放射線量の測定を少人数のグループに分かれて行い、そのデータを各グループで総合的に検討し、レポートとしてまとめる。最後に、各グループの発表を行い、お互いに議論をして、理解を深めようことを目標とする。全13回の授業時間のうち、講義は1割、実験および実習はあわせて2割、演習は7割実施する。	集中 講義・実験
総合科目 (D) 自然と環境	サイエンスラボ講座(物理学)A	本授業は演習を基本的授業形態とし、それを補う方法として講義・実験・実習を組み合わせる。簡単な講義の後で、履修生が実験器具を操作して、身のまわりにある物理量を実際に測定することで、物理学を身近に感じるようになること、物理学の面白さを知ることを目標とする。さらに進んで、日常で経験するいろいろな物理現象に眼を向け、なぜだろう?と考える習慣を養う。大まかな内容としては、力学、波動・振動、熱、流体、電気・磁気、光から題材を取り上げるが、サイエンスラボ講座(物理学)A、Bで同一の題材は扱わない。全13回の授業時間のうち、講義は1割、実験および実習はあわせて2割、演習は7割実施する。	共同 講義・実験
総合科目 (D) 自然と環境	サイエンスラボ講座(物理学)B	本授業は演習を基本的授業形態とし、それを補う方法として講義・実験・実習を組み合わせる。簡単な講義の後で、履修生が実験器具を操作して、身のまわりにある物理量を実際に測定することで、物理学を身近に感じるようになること、物理学の面白さを知ることを目標とする。さらに進んで、日常で経験するいろいろな物理現象に眼を向け、なぜだろう?と考える習慣を養う。大まかな内容としては、力学、波動・振動、熱、流体、電気・磁気、光から題材を取り上げるが、サイエンスラボ講座(物理学)A、Bで同一の題材は扱わない。全13回の授業時間のうち、講義は1割、実験および実習はあわせて2割、演習は7割実施する。	共同 講義・実験

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目 (D) 自然と環境	サイエンスラボ講座(化学)A	本授業は演習を基本的授業形態とし、それを補う方法として講義・実験・実習を組み合わせる。比較的簡単な実験を通じて、化学的なものの見方、考え方を習得し、化学と社会との関わりについて理解を深めることを目的とする。とくに、①化学実験の基本操作に慣れる、②身近な物質や現象を化学的に理解する、の2項目を目標とする。具体的には、化学実験の基本操作からはじまり、陽イオンおよび陰イオンの反応、イオンの定性分析とイオンの分離(ろ過)、未知試料の定性分析、気体の分子量測定、環境放射能測定といったテーマで行う予定である。全13回の授業時間のうち、講義は1割、実験および実習はあわせて2割、演習は7割実施する。	共同 講義・実験
総合科目 (D) 自然と環境	サイエンスラボ講座(化学)B	本授業は演習を基本的授業形態とし、それを補う方法として講義・実験・実習を組み合わせる。比較的簡単な実験を通じて、化学的なものの見方、考え方を習得し、化学と社会との関わりについて理解を深めることを目的とする。とくに、①化学実験の基本操作に慣れる、②身近な物質や現象を化学的に理解する、の2項目を目標とする。具体的には、酸とアルカリの性質、中和反応を利用した定量分析(中和滴定)、pHメーターを用いた中和滴定、沈殿反応を利用した電気伝導度滴定、しょう油の塩分濃度分析といったようなテーマで行う予定である。全13回の授業時間のうち、講義は1割、実験および実習はあわせて2割、演習は7割実施する。	共同 講義・実験
総合科目 (D) 自然と環境	サイエンスラボ講座(生物学)A	本授業は演習を基本的授業形態とし、それを補う方法として講義・実験・実習を組み合わせる。大学構内に生きる生物を材料として、生物と環境との関係あるいは種間の関係などを、生態学的視点より観察・調査・探求する。本授業の履修を通じて、経済学や社会学を学ぶ上での基本概念、例をあげれば繁殖と成長のアロケーションの観察から、有限資源のアロケーションやトレードオフの概念を他の分野に応用する力を身につけることを目標としている。全13回の授業時間のうち、講義は1割、実験および実習はあわせて2割、演習は7割実施する。	共同 講義・実験
総合科目 (D) 自然と環境	サイエンスラボ講座(生物学)B	本授業は演習を基本的授業形態とし、それを補う方法として講義・実験・実習を組み合わせる。大学構内に生きる生物を材料として、生物と環境との関係あるいは種間の関係などを、生態学的視点より探求してゆく。本授業の履修を通じて、経済学や社会学を学ぶ上での基本概念、例をあげればヤツデの性転換調査から代替戦略や混合戦略を他の分野に応用する力を身につけることを目標としている。全13回の授業時間のうち、講義は1割、実験および実習はあわせて2割、演習は7割実施する。	共同 講義・実験
総合科目 (D) 自然と環境	Mathematics and Statistics (a)	本授業は、経済学や経営学に不可欠の数学や統計学の基礎知識を学ぶ。具体的には、以下のことを学習する。 ・代数式の処理 ・グラフ、簡単な関数の微積分 ・金融数学における基本料を計算すること ・グラフや数値で表された社会科学の変数に関する生データをグラフや数値で解釈し、集計すること ・確率分布、モデリングの不確実性、正規分布の概念を正しく理解すること ・社会科学の文脈で調査および実験をデザインし、実施すること ・変数間の線形関係をモデル化し、コンピューターの出力を解釈してモデルの妥当性を評価すること 本授業の目的は、経済学や経営学を学習する上で必要とされる以上のようなトピックについての基本知識、概念について理解することである。	
総合科目 (E) 心と体	こころの科学と健康	本授業は心理学の知見を用いることによって、大学生活を精神面・学業面の両面から、より充実させることを目標とする。具体的には、心理的ストレスとストレスマネジメントの実際、大学生をはじめとした青年期の課題となる対人関係、友情、恋愛、家族、留年と退学にかかわる問題を、様々な事例を通して考える。さらに、現代的な心の病である依存症、摂食障害、PTSD、うつ、不眠等を心理学的立場から読み解き、解決法を探る。	
総合科目 (E) 心と体	臨床心理学と人間理解	本授業は精神分析学、人間性心理学、行動心理学、脳神経科学等の知見を学び、自分や他人の感情や行動の背景を理解し、さらに人間関係を充実させることを目標とする。具体的には、自己の確立から他者との影響関係へ至るプロセス、自己認知、他者認知の在り方について「人間理解」という観点から検討する。また、カウンセリングを含むコミュニケーション一般の基本となる想像力、質問の仕方、言葉の使用法についても紹介し、自ら実践できるようにする。	
総合科目 (E) 心と体	スポーツと健康の科学	本授業は疾病メカニズムの理解と予防、さらには健康な心身の育成を目指した生涯スポーツとの関わりに焦点を当てる。具体的には、生活習慣病、メタボリック症候群、糖尿病、がん、エイズなどの疾病を取り上げる。また、これら疾病の予防としてスポーツを効果的に行うために、心肺機能やエネルギー代謝、トレーニングの法則についての科学的な知見についても取り扱い、予防としての体力トレーニングやエクササイズを、映像資料を交えて紹介する。スポーツと健康科学との関わり合いから自身のライフスタイルを知り、より健康な人生を過ごすために必要な知識や情報を身につけ、それらを実践することができるようになることを目標とする。	
総合科目 (E) 心と体	スポーツの哲学	本授業は人間の成長・発達とスポーツとの関係を哲学的な視点から考えることを目標とする。スポーツ部活動や地域スポーツ、チャンピオンズスポーツなど実例を挙げながら、スポーツにおける「競争」の意義について議論し、ルール、フェアプレーといった倫理的な側面についても触れる。また、「遊び」に関する様々な文献を紹介し、人間にとっての遊びの意義、文化としてのスポーツの意義、よりよいスポーツの在り方について考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	(E) 心と体 スポーツの歴史と文化	本授業はそれぞれの時代におけるスポーツの価値観、政治との関係、経済的影響を視野に入れ、スポーツを自らの意志で行えることとスポーツが受け入れられる社会について、歴史と文化の2つの側面から議論する。また、アマチュアリズムの変遷、勝利至上主義、政治とスポーツの関係、ドーピングや企業とスポーツの関係など、スポーツにかかわる歴史上の事件や時事的問題適宜を取り上げ、人間がなぜスポーツをすべきであるのかを多面的に考察し、理解することを目標とする。	
総合科目	(E) 心と体 スポーツの社会環境	本授業はスポーツを取り巻く環境の変化と、スポーツ組織においてマネジメントが問われるようになった背景を明らかにすることを目標とする。また、それを踏まえ、スポーツにおけるマネジメントの主体、対象、内容を分類し、検討する。具体的には、マネジメントに影響を与えたと考えられるメディアの変遷とスポーツのビジネス化について検討し、日本のスポーツ統括組織とその機能を取り上げる。また、競技現場における指導者と競技者のマネジメントにも触れる。	
総合科目	(E) 心と体 スポーツの心理学	本授業はスポーツ心理学の知見を利用し、自らがスポーツを実践する場面や、養育者としてスポーツする子どもに接する場面に応じた行動様式や知識の獲得を目指す。具体的には、コーチングやチームビルディングに活用できるメンタルトレーニング、スポーツカウンセリングの方法を紹介する。また、不安やあがり、不適応、怪我、オーバートレーニング、スランプ、バーンアウト等の心理的問題を心身相関の観点から解釈し、新たな自己発見やリーダーシップの獲得に結び付けられることを目標とする。	
総合科目	(E) 心と体 Introduction to Personal Health and Wellness	本授業は大学生の身体的、感情的、精神的安寧のために重要な課題を取り上げ、ライフスタイルの選択と健康との関連性を理解することを目的とする。大学生活の中で、またその後の人生の中で経験する健康問題に効果的に対応できるようにする。また、日本政府の公衆衛生政策に注目し、大学が学生や教職員のために健康的で有益な学習環境を整備するためにどのような政策を導入し、戦略を立案しているかを考察する。ストレス、セクシュアリティ、栄養、精神的健康と疾患、加齢、慢性疾患と伝染病、薬物・アルコールの乱用、死への対処などのテーマで講義を行う。	
総合科目	(E) 心と体 心理学ワークショップ	本授業は様々な心理教育プログラムやカウンセリング実習、心理テスト、身体活動、心理学実験、フォトランゲージなどの手法を用いて、各種の心理学の理論の基本を心身で実感できるような参加型ワークショップを少人数で行う。実践的なワークを通じて、自他の思考パターン、言動パターンの特徴や対人コミュニケーションのあり方、生活のあり方、成育歴などを振り返り、自己理解、他者理解を深めて、現在および未来の日常生活に活かしていくことを目指す。	
総合科目	(E) 心と体 アダプテッドスポーツ・ワークショップ	本授業は障害者のスポーツや高齢者のスポーツを例に挙げ、アダプテッドスポーツが生まれた背景について考えることを目標とする。具体的には、映像資料や著書を用いて「いつでも、どこでも、誰とでも」スポーツができるにはどうすればよいかを議論する。また、車椅子体験、シッティングバレーボール、ゴールボール、ブラインドサッカーに加え、ユニバーサルスポーツの実技を計画しており、これらの実技は全13回の授業時間のうち7割実施する。	※実技
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践1 (バレーボール)	本授業はバレーボールに特有のスキルを習得し、ゲームをより面白くする方法を学ぶことによってバレーボールの面白さに触れることを目標とする。また技能習得と並行して、カバーやつなぎによってラリーを長く続ける面白さを知り、仲間と協力することや、チームワークの成立を体験する。また、ルールや簡単な審判法を学ぶことによって主体的にスポーツに関わる態度を身につけ、バレーボールを生涯にわたって実践できるようにする。	
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践2 (バスケットボール)	本授業は「攻・守が入り混じってオールコートを往き来する」というバスケットボール特有の激しさや、相手との駆け引きの面白さを味わうことを目標とする。また、ボールの扱い方やポジショニング等の基礎技術だけでなく、発展的な練習法や戦術・戦略を紹介し、競技力が向上するにはどうすればよいか考えながら実践する。また、ルールや簡単な審判法を学ぶことによって主体的にスポーツに関わる態度を身につけ、バスケットボールを生涯にわたって実践できるようにする。	
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践3 (ファンランニング)	本授業はランニングにおける体力の向上と効率的なフォームの習得を目指す、記録の向上を図る。さらには、自己記録や他者に対する競争だけでなく、仲間と共に走る喜びや楽しさを味わうとともに、マイペースにも実践できるランニングの魅力を学ぶ。ランニングは生涯を通して誰でも簡単に楽しめるスポーツであり、健康増進にも有効であることから、トレーニング方法のみならず、ランニング障害や栄養についてなど多角的な授業を行う。また、ランニングを通してスポーツを実践する際のマナーについても学び、生涯にわたって実践できるようにする。	隔年
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践4 (フットサル)	本授業はフットサルに特有の素早いゲーム展開を楽しめるよう、ドリブル、パス&コントロール、ヘディング等の基礎技能の習得に加え、身体の活動レベルを徐々に向上させることを目標とする。また、ポジションやシステムを理解し、チーム戦術の精度を高め、グループで課題解決することの成功体験を積み重ねる。また、ルールや簡単な審判法を学ぶことによって主体的にスポーツに関わる態度を身につけ、フットサルを生涯にわたって実践できるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践5 (バドミントン)	本授業はバドミントンのスキルトレーニングとゲームを通して基礎技術の向上を図るとともに、ラリーを長く続けることやダブルスゲームを体験することによって、パートナーとの相互関係や対戦相手との関係といったコミュニケーションに焦点を当てる。また、バドミントンに必要なマナーやジェントルマン精神、ルール、得点法、簡単な審判法を学ぶことによって主体的にスポーツに関わる態度を身につけ、バドミントンを生涯にわたって実践できるようにすることを目標とする。	
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践6 (卓球)	本授業は卓球の特性を理解すると共に、卓球の楽しさに触れることを目標とする。ゲームを楽しむための基本的ストローク、サーブ、レシーブ技能の獲得を目指し、またボールの回転や方向に応じたポジショニングや動き方を考える。ダブルスのゲームでは、ペアと協力してプレーする面白さを体験する。その他、ルールや得点法、簡単な審判法を学ぶことによって主体的にスポーツに関わる態度を身につけ、卓球を生涯にわたって実践できるようにする。	
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践7 (アドバンスゴルフ)	本授業は生涯スポーツとしてのゴルフの基礎を習得することを目標とする。ベーシックゴルフにおいて習得した打撃技術を実際のコースにおいて試行する。具体的内容としては、3泊4日の集中授業を通して、実際のゴルフコースのラウンドを体験し、コースに出る際に不可欠となるルールやマナー、エチケット、またスコアリングの方法等を実践的に理解する。以上のことを通して、主体的にスポーツに関わる態度を身につけさせる。	集中 隔年
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践8 (ベーシックゴルフ)	本授業は生涯スポーツとしてのゴルフの基礎を習得することを目標とする。具体的内容として、各クラブでのスイング練習を通して、自己の身体の動き方やボールとの距離、クラブの特性等に意識を向けられるようにする。また、ゴルフ練習場において実際のゴルフボールの打撃を体験することによって、クラブ毎の飛距離や打感を経験する。また、ルールやマナー、スコアリングの方法等に関する理解度テストを行う。以上のことを通して、主体的にスポーツに関わる態度を身につける。	
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践9 (アクアスポーツ)	本授業は水慣れ、泳法、呼吸法、アクアスポーツ等水中での様々な運動を通して、泳力や泳法だけでなく、「水」への豊かな関わり方を身につけることを目標とする。また、着衣泳や救助法など安全に関するスキルを身につけることによって、プールのみならず海や河川などの自然環境での水泳の楽しみ方を学ぶ。個人の技術・体力レベルに応じた泳ぎ方を工夫し、主体的にスポーツに関わる態度を身につけ、生涯にわたり水泳や水辺活動を実践できるようにする。	
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践10 (エアロビクス&フィットネス)	本授業は過度の疲労を伴うことなく日常生活を生き生きと楽しく過ごすため、エアロビクスを中心としたダンスやストレッチ、筋力トレーニングによる体力づくりを行い、持久力と筋力の総合的な向上を目標とする。筋力トレーニングは各自の筋力にあわせて行うので、トレーニング初心者も参加可能である。トレーニングの重要性を理解し、効果的なトレーニング方法を身につけることによって、生涯にわたって主体的にコンディショニングやトレーニングを継続できるようにする。	
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践11 (リラクゼーション&ウォーキング)	本授業は日々の生活に生かすことのできるリラクゼーション(脱力、呼吸法、マッサージ、ストレッチ)のスキルを身につけることを目標とする。また各種レクリエーションやヨガ、ウォーキング、軽いランニングによって、身体を動かすことの楽しさを体験する。体力や運動技能に自信の無い学生にもできる授業とする。自己のペースで手軽な運動に取り組むことによって、自己の身体と向き合い、体調を整え、管理することができるようにする。	
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践12 (護身術と柔道)	本授業は固め技、抑え技、投げ技等、柔道の技術に触れることによって、日本の伝統文化である武道とその精神を理解すること、また護身術としての技能を獲得することを目標とする。技を用いて相手との攻防を楽しみ、柔道の奥深さや面白さに触れる。さらに、礼法、歩き方、受け身、体の捌き等を学ぶことによって自分の身体を理解し、護身術や安全な身のこなし方を日常生活の様々な場面に応用できるようにするとともに、生涯にわたり柔道に親しむことができるようにする。	
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践13 (スキー)	本授業は個に応じた目標を設定し、雪慣れ、ブルークの習得、パラレルへの発展等、それぞれの技能向上を狙う。同時に、スキー技術を通して板や雪の特性や自己の身体を理解する。また、スキーの技術向上だけでなく、スキーと雪を媒体として、冬の自然の雄大さを実感することを目標とする。さらに、生涯にわたりスキーを実践できるようにする。さらに、合宿形式で授業を通して、集団生活のマナーやルール、行動の仕方を身につける。	集中 隔年
総合科目	(E) 心と体 スポーツ実践14 (スノーボード)	本授業は個に応じた目標を設定し、初心者ではまず安全に滑り降りる方法、経験者ではさまざまなターンの方法を学び、それぞれの技能向上を目指す。同時に、スノーボードの技術習得を通して、ボードの特性や自己の身体を理解する。また、技術向上だけでなく、スノーボードと雪を媒体として、冬の自然の雄大さを実感することを目標とする。さらに、合宿形式での授業を通して、集団生活のマナーやルール、行動の仕方を身につける。	集中 隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	(F)とキャリアマネジメント	自己理解の哲学	本授業は、哲学(philosophia、利害や専門にとらわれない愛智)という西洋の知的伝統において培われた(ものの見方)を提示し、それを理解しようと努力することへと導くことを目的とする。とりわけ、自己理解・自己発見・自己形成に資する思想を平易な言葉で紹介し、ライフマネジメントならびにキャリア形成の羅針盤として利用できるように授業を行う。よく生きること、真・善・美の哲学、悪の思想、人間の本性、理性、意志、本能、自己、他者、世界、自然、自由、隷属、あることとないこと、働くことと生きることなど普段何気なく認識している事柄を深く考える。
総合科目	(F)とキャリアマネジメント	キャリアデザイン論A	本授業はキャリア形成に必要な基礎的知識を提供し、職業選択を主体的・能動的に行う実践力の習得を目的とする。そのために、まず、キャリアデザインについての基本的な考え方とその方法論を学ぶとともに、職業選択に際しての一般的知識を整理し、自らキャリア選択を設計していくための基礎を固める。次いで、勤労観や職業意識・行動について考えていくとともに、仕事の種類と特色、就業形態の特徴と問題点を整理する。その上で、自己理解と仕事理解の意義とその方法や、職業選択にあたって留意すべきポイントについて論じる。
総合科目	(F)とキャリアマネジメント	キャリアデザイン論B	本授業は「キャリアデザイン論A」の応用編となる。キャリア選択の方法論を再確認しながら、キャリアデザインの実践という立場から、「自己理解」および「他者理解」の基本を整理するとともに、その拡張を行うことを目標とする。また、就職を取り巻く社会環境と企業の採用事情を学ぶとともに、生涯にわたっての生活キャリアと職業キャリアの調和という考え方も踏まえ、職業選択に際しての行動方針の策定などの考え方について論じる。また、各方面に就職した卒業生等の講話を交え、産業・企業の実情とキャリアデザインの実践について、具体的事例に即して学ぶ。
総合科目	(F)とキャリアマネジメント	キャリア対策科目	本授業は就職の際に問われる数学リテラシーを獲得し、あわせて仕事や社会生活上の問題解決に必要な論理的思考能力を身につけることを目標とする。数理解分野では、素早く正確な数値的処理能力を身につけるため、基礎数学から始めて理解を積み上げていき、日常生活に必要な計算の習熟を目指すし、さらには、現代人の常識として知っておくべき関数・微分方程式などの考え方を概観する。言語分野においては、文章理解の基礎となる単語の知識をもとに、言語能力を向上させ、キャリア形成に必要なコミュニケーション能力を磨く。
総合科目	(F)とキャリアマネジメント	ライフサイクルと生涯学習	ライフサイクルのなかで、資源をどのように配分(アロケーション)したり、トレードオフの関係のなかでどのような選択が可能かを考えることは大切である。なかでも、生涯学習とそれを支える社会制度について十分な理解が不可欠である。以下のキーワードを軸にして、日本と世界の生涯学習の理論および実践について学び、自分自身のライフマネジメント、とくに生涯学習者としての将来設計について主体的に考える力を養うのが本授業の目標である。ライフサイクル、学校教育、社会人(リカレント)教育、職業人の学習、女性の学習、高齢者の学習、青少年の学習、ユネスコの生涯教育論(ライフ・ロング・エデュケーション)などが講義で取り上げる項目の事例である。
総合科目	(F)とキャリアマネジメント	心理学と社会	本授業は心理学の基礎を学ぶことにより、人間のものごとの知覚・記憶・学習の仕組みを理解し、さまざまな社会的場面において適切な推論や意志決定を行うためのスキルを身につけることを目標とする。とくに、各発達段階の課題を整理し、現代社会で取り上げられている様々な社会現象のメカニズムやその背景に隠されているものを見つめる作業を行う。事例としては、社会的引きこもり、児童虐待、広汎性発達障害、PTSD等を取り上げる。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合科目	(F)とキャリアマナージメント	Career Design in a Global Age	履修生が自分自身のパーソナリティ、好悪、興味関心について自覚を深め、キャリア選択の重要性を認識し、どのような進路が自分に適しているかをよく理解することを目的とする。そのうえで、現在のグローバル社会において選択可能なさまざまな進路について深く学び、自分が選んだ進路に適したプロジェクトポートフォリオを作成する。授業は英語で行う。	
総合科目	(F)とキャリアマナージメント	キャリアデザイン演習	本授業は「キャリアデザイン論A」(講義)と「キャリアデザイン論B」(講義)での学習内容を受け、少人数の演習方式で、より実践的なキャリアデザインの手法について学ぶ。仕事・職業理解を中心にキャリアデザインに関する知識の深堀りを図るとともに、自身のデザイン能力を広げることを目標とする。グループ別に職業(産業)を選び、それぞれ調査・分析等を行い、キャリア理解の深化をはかるとともに、各職業分野に必要な文章表現技術やプレゼンテーション技術に関する指導も実施する。	
総合科目	(F)とキャリアマナージメント	海外フィールド実習	本授業は海外の諸問題に関心を持つ学生が実際に現地に行き、そこでのフィールド調査、また人々との交流などを通して、グローバルな視点で問題を俯瞰し、異文化理解を深め、知識を高めることを目的とする。実習の事前学習においては、設定したテーマに関わる知識だけではなく、海外での調査の作法や技術についても学び、事後の学習では、適切な分析手法を用いてレポートを作成し、効果的なプレゼンテーション技術を身につけること。集中授業の形態で実施する授業である。	集中 隔年 講義15時間 実習30時間
総合科目	(F)とキャリアマナージメント	Economics (a)	本授業は、初めて経済学を学ぶ学生向けに、経済学の基礎を講義するものであり、中級以上の経済学を理解するための基礎知識の習得を目標とする。想定される履修生数は1クラス25人程度とし、授業内容を理解したか毎週のテストで確認し、さらに適宜課題の提出を求めながら進める。具体的に取り上げる内容は、需要曲線、供給曲線、弾力性、余剰分析、外部性、市場の失敗と政府の介入策、経済成長、総需要曲線、総供給曲線、失業とインフレ、金融政策、財政政策、比較優位理論、途上国と先進国、外国援助、金融危機のメカニズム等である。	
総合科目	(F)とキャリアマナージメント	インターンシップ特講	インターンシップとは、企業などの協力のもとに、学生が在学中に就業体験を得るものであり、その目的は、学生がその体験において大学の専攻分野で学んだ成果を活かし、かつ、その体験を通じて専攻分野にかかわる理解を深め、その体験を自己発見、自身の将来のキャリア形成に役立てることにある。本授業は、そのインターンシップを行うにあたって、あらかじめ必要な知識・技能等を身につけることを目的とした科目であり、職種・業種・業界研究の方法、エントリーシートの書き方、ビジネスマナー等について学ぶものである。	共同
総合科目	(F)とキャリアマナージメント	インターンシップ	企業や公共団体の協力のもと、在学者に就業体験の機会を提供することによって、参加者が就業についての理解を深め、自分の専門分野についてさらに考える糸口とするとともに、自己発見や将来のキャリア形成に役立てることを目的とする。「インターンシップ特講」を既に履修していることが履修条件となる。研修準備(研修時の注意事項、日報・研修報告書作成方法の説明等)の講義を受けて、実際に研修に行き、研修後に報告書を作成し成果をプレゼンテーションする。	共同 講義15時間 実習30時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	必修外国語	English I [RW]	本授業は、1年次生向けのアカデミックライティング・リーディングに焦点をあて、英語で行われる授業科目の履修において必要不可欠となるライティングおよびリーディングの基礎力を向上させることを目的としている。ライティングについては、使用頻度の高い学術的語彙習得、学術的短文の要約などを行うとともにアカデミックエッセイの書き方、リサーチペーパーの構成、正しい文献引用の仕方等を指導する。リーディングについては、学術的短文を読んでその主旨を捉えたり、様々な文献の文章構成の違いを理解したり、比較的平易に書かれた関連分野の学術的文書の多読後、内容を踏まえたグループディスカッションを行ったりする。その他、英語で書かれた文章を大量に読める持久力を身につけることを目指す。1年次の最後には1,000ワード程度のリサーチペーパーを仕上げる。	
外国語科目	必修外国語	English I [SL]	本授業は、1年次生向けのアカデミックスピーキングとリスニングに焦点をあて、英語で行われる授業科目の履修において必要不可欠となるプレゼンテーションおよびディスカッションの基礎力を向上させることを目的としている。アカデミック英語の教材を利用し、英語の講義やプレゼンテーションの中で使用される学術的語彙を聞いたり使ったりしながら、発表やディスカッションを通して英語を使って効果的に表現することに慣れることを目指す。具体的にはグループプレゼンテーション、個人プレゼンテーションと段階を踏みながらプレゼンテーションの構成、効果的な言葉遣い、ジェスチャー、間の取り方、アイコンタクトの仕方を履修生や教員からの評価、全体ディスカッションを通して学ぶ。必要に応じてグループディベートやスキットといった様々な口頭表現も学ぶ。後学期はとくにリサーチペーパーの効果的な発表方法を学ぶ。	
外国語科目	必修外国語	English II [RW]	本授業は、2年次生向けのアカデミックライティング・リーディングに焦点をあて、英語で行われる授業科目の履修において必要不可欠となるライティングおよびリーディングの基礎力を向上させることを目的としている。1年次に引き続き、ライティングについては、使用頻度の高い学術的語彙習得、学術的資料の要約などを行うとともにアカデミックエッセイを書くために理解しておくべき構成のポイントや引用の仕方等をさらに具体的に学ぶ。リーディングについては、学術論文の抜粋を読んでその主旨を捉えること、様々な文献の文章構成の違いを理解したり、関連分野の学術的文書を多読した後、自分の意見を書いたりすることによって英語で書かれた文章を大量に読める持久力を身につけることを目指す。2年次の最後にはリサーチペーパーを仕上げる。	
外国語科目	必修外国語	English II [SL]	本授業は、2年次生向けのアカデミックスピーキングとリスニングに焦点をあて、とくに英語で行われる授業科目の履修において必要不可欠となるプレゼンテーションおよびディスカッションの力を向上させることを目的としている。1年次に引き続き、アカデミックな内容の教材を利用し、使用頻度の高い学術的語彙を使っての発表やディスカッションを通して英語を使って効果的に表現することを目指す。具体的にはグループプレゼンテーション、ペアプレゼンテーション、個人プレゼンテーション、と段階を踏みながらプレゼンテーションの構成、効果的な言葉遣い、ジェスチャー、間の取り方、アイコンタクトの仕方を履修生や教員から評価、全体ディスカッションを通して学んでゆく。また、必要に応じてグループディベートやスキットといった様々な口頭表現の方法も学ぶ。	
外国語科目	選択外国語	ブラクティカル・イングリッシュ1	本授業はリスニング、スピーキング、ライティングに関してさまざまなアクティビティや練習を行うことによって、実際のコミュニケーションの場で英語を使いこなす力を身につけることを目的とする。学生一人一人がただ机に向かって学ぶだけではなく、与えられた場面においてペアやグループ単位で英語を用いて体験的な練習を積極的に取り入れて英語をコミュニケーションの手段として使いこなす楽しさ、面白さを体験しながら英語の実践的運用能力を向上させることを目指す。	
外国語科目	選択外国語	ブラクティカル・イングリッシュ2	本授業は、「ブラクティカル・イングリッシュ1」に引き続き、リスニング、スピーキング、ライティングに関するさまざまなアクティビティや練習を行う。学生一人一人がただ机に向かって学ぶだけではなく、ペアワークやグループディスカッション、さらにはプレゼンテーションなどを協働的に行うことで、英語をコミュニケーションの手段として使いこなす楽しさ、面白さを体験しながら英語の実践的運用能力を向上させることを目指す。	
外国語科目	選択外国語	イングリッシュ・エクステンシブ・リーディング1	本授業は、英文を読むスピードの向上を目的とした実習科目である。履修生自身が自らのリーディング力にあわせて授業終了までに達成する目標読破語数を設定したうえで、読み進めた語数を記録する。また定期的にクイズやディスカッション、読んだ文章に関するレポート作成などにより実際に読んだ内容についての理解度を確認する。スキル指導としては、速読のトレーニングとなるアクティビティ等を行う。	
外国語科目	選択外国語	イングリッシュ・エクステンシブ・リーディング2	本授業は、英文を読むスピードの向上を目的とした実習科目である。履修生自身が自らのリーディング力にあわせて授業終了までに達成する目標読破語数を設定したうえで、読み進めた語数を記録する。また定期的にクイズやディスカッション、読んだ文章に関するレポート作成などにより実際に読んだ内容についての理解度を確認する。スキル指導としては、「イングリッシュ・エクステンシブ・リーディング1」で行った速読のトレーニングのほか、語彙力アップやその他の必要なアクティビティを行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	選択外国語	イングリッシュ・パフォーマンス・ワークショップ1	本授業は、ドラマ(および音楽)を利用して、アクティブな形で英語を使うことによって英語コミュニケーション力を向上させることを目的とした実習科目である。授業で使用するドラマの一部や短いスクリプトは、履修生自身が教師とともに選択し、それらに関して行うアクティビティも履修生の能力や関心にあわせて調整する。具体的なアクティビティとしては、短いやりとりのロールプレイ、即興コントなどから開始し、次第に長めの題材を用いる。	隔年
外国語科目	選択外国語	イングリッシュ・パフォーマンス・ワークショップ2	本授業は、ドラマ(および音楽)を利用して、アクティブな形で英語を使うことによって英語コミュニケーション力を向上させることを目的とした実習科目である。授業で使用するドラマの一部や短いスクリプトは、履修生自身が教師とともに選択し、それらに関して行うアクティビティも履修生の能力や関心にあわせて調整する。具体的なアクティビティとしては、既製の戯曲の実演、さらにはドラマのグループ制作や演技の評価と討論などを行う。	隔年
外国語科目	選択外国語	ディスカッション・ディベート英語1	本授業は、英語により自分の意見を他人に伝え、自らの意見を擁護し、ときに対立的な場面においても他者と意見を交わし合う力を身につけることを目的とした実習科目である。まず「ディスカッション」「ディベート」とはそれぞれどういう特徴をもったものかを確認し、その社会的意味についても考察を行う。またとくに「ディベート」については基本的なルールやスタイルについても概観する。具体的なアクティビティとして、前学期に行う本授業では「ディスカッション」に主な焦点をあてる。意見を述べ、弁護するためのさまざまなスキルや表現を学ぶとともに実践し、反論の仕方や効果的な討論や議論の戦略を身につけることを目指す。なお、授業は基本的にインタラクティブなグループ学習形式で行う。	
外国語科目	選択外国語	ディスカッション・ディベート英語2	本授業は、英語により自分の意見を他人に伝え、自らの意見を擁護し、ときに対立的な場面においても他者と意見を交わし合う力を身につけることを目的とした実習科目である。まず「ディスカッション」「ディベート」とはそれぞれどういう特徴をもったものかを確認し、その社会的意味についても考察を行う。またとくに「ディベート」については基本的なルールやスタイルについても概観する。具体的なアクティビティとして、後学期に行う本授業では「ディベート」に主な焦点をあてる。意見を述べ、弁護するためのさまざまなスキルや表現を学ぶとともに実践し、反論の仕方や効果的な討論や議論の戦略を身につけることを目指す。なお、授業は基本的にインタラクティブなグループ学習形式で行う。	
外国語科目	選択外国語	クリエイティブ・ライティング・イン・イングリッシュ1	本授業は、英語ライティング力を高めることを目的として創造的な英文作成のトレーニングを行う実習科目である。複雑な内容や芸術性の高い文章の作成を最初から目指すのではなく、まずは正確にかつ迅速に書くためのトレーニングを複数の課題を通じて行う。具体的には、日記、特定の出来事の報告、自己紹介文の執筆、あるいは制限時間内に定められたテーマについて書くトレーニングなどである。成果物についてはときに互いに発表し合い、論評し合うことも求める。	隔年
外国語科目	選択外国語	クリエイティブ・ライティング・イン・イングリッシュ2	本授業は、英語ライティング力を高めることを目的として創造的な英文作成のトレーニングを行う実習科目である。複雑な内容や芸術性の高い内容の文章の作成を最初から目指すのではなく、まずは「クリエイティブ・ライティング・イン・イングリッシュ」で行った正確にかつ迅速に書くことのトレーニングを内容を変えつつあらためて実施する。そのうえで履修生の力にあわせて、小説や随筆、詩、劇などの創作物の執筆にも挑戦し、成果物は授業内で発表も行う。	隔年
外国語科目	選択外国語	ビジネス・コミュニケーション英語1	本授業は、ビジネスに特有の状況での英語によるコミュニケーションのスキルアップを目的とした実習科目である。会話やメールのやりとりをする際、本当に必要な情報を選び、相手の言いたいことを適切に理解することがビジネスにおけるコミュニケーションでは重要であり、さらにはビジネスマナーを踏まえたフォーマルなコミュニケーションを行う必要もある。こうした認識のもとで、様々なビジネスシーンを想定したアクティビティをペアワークやグループワークを多用しつつ実施する。前学期に実施する本授業では、アクティビティとして、メモやレター(メール)のライティング、プレゼンテーション、英語による面接等を行う。	
外国語科目	選択外国語	ビジネス・コミュニケーション英語2	本授業は、ビジネスに特有の状況での英語によるコミュニケーションのスキルアップを目的とした実習科目である。会話やメールのやりとりをする際、本当に必要な情報を選び、相手の言いたいことを適切に理解することがビジネスにおけるコミュニケーションでは重要であり、さらにはビジネスマナーを踏まえたフォーマルなコミュニケーションを行う必要もある。こうした認識のもとで、様々なビジネスシーンを想定したアクティビティをペアワークやグループワークを多用しつつ実施する。後学期に実施する本授業では、アクティビティとして、会議での発言、ビジネス上の打ち合わせ、各種トラブル時の適切な英語表現等を行う。	
外国語科目	選択外国語	イングリッシュ・ライティング・ワークショップ1	本授業は、英語によるライティング力向上を目的とした実習科目である。まず初めに「パラグラフ」の概念や役割、複数のパラグラフを一定の意図と構成のもとで「エッセイ」(小論文)を作成する際に理解しておくべき考え方や手順について基本的な説明を行ったのち、実践的なライティングのトレーニングを行う。まずは、見本とすべき短めのパラグラフやエッセイを読み、どのような点がポイントとなっているかを考察したうえで、短いパラグラフの作成を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	選択外国語	イングリッシュ・ライティング・ワークショップ2	本授業は、英語によるライティング力向上を目的とした実習科目である。「イングリッシュ・ライティング・ワークショップ1」で学んだ「パラグラフ」の概念や役割、「エッセイ」(小論文)を作成する際に理解しておくべきことについてあらためて確認をしたうえで、実践的なライティングのトレーニングを行う。後学期に実施する本授業では、担当者の指摘によって自らのパラグラフを改訂してゆく作業を行い、最終的には履修生の英語力にあわせた長さの英文エッセイを仕上げることを目指す。	
外国語科目	選択外国語	TOEIC対策英語1	TOEICはビジネスシーンで必要とされる英語のスキルを測定するためのテストであり、本授業は、TOEICのListening & Reading Testのスコアアップを目的とした授業である。本授業ではTOEICテストに関連する語彙を増やし、読解速度と流暢さ及び国や地域によって異なる発音に対応できるリスニング力を高めるためのテキスト等を活用し、学習を進めていく。加えて、テストを戦略的に解く方法を学び、スキミングやスキヤニングといったリーディングスキルも学ぶ。また、本授業はTOEICスコアの到達目標別に複数授業を展開し、各授業で目標設定されたTOEICスコア(700～800点)の取得を目指す。	
外国語科目	選択外国語	TOEIC対策英語2	TOEICはビジネスシーンで必要とされる英語のスキルを測定するためのテストであり、本授業は、TOEICのListening & Reading Testのスコアアップを目的とした授業である。本授業ではTOEICテストに関連する語彙を増やし、読解速度と流暢さ及び国や地域によって異なる発音に対応できるリスニング力を高めるためのテキスト等を活用し、学習を進めていく。加えて、テストを戦略的に解く方法を学び、スキミングやスキヤニングといったリーディングスキルも学ぶ。また、本授業はTOEICスコアの到達目標別に複数授業を展開し、各授業で目標設定されたTOEICスコア(800～900点)の取得を目指す。本授業では「TOEIC対策英語1」で学習した内容を踏まえ、さらに能力と知識を向上及び深化させる。	
外国語科目	選択外国語	ドイツ語入門1	異文化を理解する最適の方法とは、他言語のフィルターを通してではなく、その言語を通じて直にその文化に触れることである。ドイツ語学習を通じてドイツ語圏の社会や文化への理解を深めることを目指す。本授業では、文法・会話・読み物がバランス良く配された教科書を教材に、ドイツ語検定5～4級レベルの基礎的なドイツ語力養成を目標とする。具体的にはドイツ語文法を段階的に理解し、ドリルやペアワークで定着を図る。	
外国語科目	選択外国語	ドイツ語入門2	「ドイツ語入門1」同様、異文化を理解する最適の方法とは、他言語のフィルターを通してではなく、その言語を通じて直にその文化に触れることであるという考え方に基づき、ドイツ語学習を通じてドイツ語圏の社会や文化への理解を深めることを目指す。本授業では、「ドイツ語入門1」に引き続き、文法・会話・読み物がバランス良く配された教科書を教材に、ドイツ語検定5～4級レベルの基礎的なドイツ語力養成を目標とする。具体的にはドイツ語文法を段階的に理解し、ドリルやペアワークで定着を図ったのち、会話練習やドイツ語圏の社会や文化に関する読解を行う。	
外国語科目	選択外国語	ドイツ語中級1	本授業はドイツ語の初歩を既に学んでいる学生を対象とし、ドイツ語圏に実際に短期・長期の滞在をする際に活用できるような日常的コミュニケーションの方法を学ぶ。初級文法の知識を再確認し、中級レベルの知識を確実に身につけることを目標とする。原則として教科書に沿って授業を行うが、各種のドイツ語メディアに基づく日常的コミュニケーションと密接に関連する資料(図表など)を副教材として利用することもある。	隔年
外国語科目	選択外国語	ドイツ語中級2	本授業は「ドイツ語中級1」に引き続き、ドイツ語の初歩を既に学んでいる学生を対象とし、ドイツ語圏に実際に短期・長期の滞在をする際に活用できるような日常的コミュニケーションの方法を学ぶ。初級文法の知識を再確認し、中級レベルの知識を確実に身につけることを目標とする。原則として教科書に沿って授業を行うが、各種のドイツ語メディアに基づく日常的コミュニケーションと密接に関連する資料(報道記事など)を副教材として利用することもある。	隔年
外国語科目	選択外国語	ドイツ語コミュニケーション1	本授業はドイツ語の初歩を既に学んでいる学生を対象とし、ドイツ語圏に実際に短期・長期の滞在をする際に活用できるような日常的コミュニケーションの方法を学ぶ。また、さまざまな現代ドイツ語による比較的平易なテキストを講読し、初級レベル授業で身につけた文法知識を発展させると共に、中級レベルの語彙知識を養うことを目標とする。また、頻繁に使用される慣用表現についても学習する。本授業においては、映画作品のDVDなども副教材として利用し、聴解力を高めることも目指す。	隔年
外国語科目	選択外国語	ドイツ語コミュニケーション2	本授業は「ドイツ語コミュニケーション1」に引き続き、ドイツ語の初歩を既に学んでいる学生を対象とし、ドイツ語圏に実際に短期・長期の滞在をする際に活用できるような日常的コミュニケーションの方法を学ぶ。また、さまざまな現代ドイツ語による比較的平易なテキストを講読し、初級レベル授業で身につけた文法知識を発展させると共に、中級レベルの語彙知識を養うことを目標とする。また、頻繁に使用される慣用表現についても学習する。本授業においては、音楽作品のCDなども副教材として利用し、聴解力を高めることも目指す。	隔年
外国語科目	選択外国語	フランス語入門1	本授業は、フランス語を初めて学ぶ学生を対象としている。テキストの各課は、基礎的な構文、文法説明、練習問題、応用文で構成されているため、これに沿って進める。フランス語を網羅的に習得するには、十分な時間的余裕があるとはいえないため、本授業では細部にこだわることなく、重点項目に絞ってフランス語の構造の把握に努め、フランス語の基礎を身につけることが目標である。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	選択外国語	フランス語入門2	本授業は「フランス語入門1」の授業を引き継いで、フランス語の初歩を学ぶ。テキストの各課は、基礎的な構文、文法説明、練習問題、応用文で構成されているため、これに沿って進める。フランス語を網羅的に習得するには、十分な時間的余裕があるとはいえないため、本授業では細部にこだわることなく、重点項目にしほってフランス語の構造の把握に努める。「フランス語入門1」に学んだ内容を踏まえ、フランス語の基礎力をさらに深めることが目標である。	
外国語科目	選択外国語	フランス語中級1	本授業は、フランス語の初歩を学んだ学生が対象である。基礎的文法事項や語彙を確認しながら、教科書に沿って様々な状況における会話表現などを身につけることを目標とする。また読解力をつけるために、教科書以外の教材も準備する。履修生の関心に応じて、広くフランス文化や社会を扱ったもの、あるいは時事問題についてのテキストを使う予定である。本授業では練習問題に割く時間はあまりないが、問題集を紹介し、授業外学習を促す。	隔年
外国語科目	選択外国語	フランス語中級2	本授業は「フランス語中級1」で学んだことを踏まえて、基礎的文法事項や語彙を確認しながら、教科書に沿って様々な状況における会話表現などを身につけることを目標とする。また読解力をつけるために、教科書以外の教材も準備する。履修生の関心に応じて、広くフランス文化や社会を扱ったもの、あるいは時事問題についてのテキストを使う予定である。本授業では練習問題に割く時間はあまりないが、問題集などを紹介し授業外学習を促す。「フランス語中級1」で学んだ内容を踏まえ、フランス語力を発展的に深める。	隔年
外国語科目	選択外国語	フランス語コミュニケーション1	本授業は入門レベルの文法の知識をある程度有する学生が対象である。これまでに習得してきた基本的な語彙と文法を確認しながら、聴いて話す力を養うことを目標とする。はじめは様々な状況設定のなかで、質問に対して明確な発音で、まずは短い文章(主語、動詞、補語)で述べられるよう練習する。グループを作って場面ごとの役割練習も取り入れる。基本的な文章は毎回暗唱して、基礎的な表現を身につけることを目指す。	隔年
外国語科目	選択外国語	フランス語コミュニケーション2	本授業は「フランス語コミュニケーション1」と同様、入門レベルの文法の知識をある程度有する学生を対象とする。これまでに習得してきた基本的な語彙と文法を確認しながら、聴いて話す力を養うことを目標とする。はじめは様々な状況設定のなかで、質問に対して明確な発音で、まずは短い文章(主語、動詞、補語)で述べられるよう練習する。グループを作って場面ごとの役割練習を取り入れる。基本的な文章は毎回暗唱して、基礎的な表現を身につけることを目指す。「フランス語コミュニケーション1」で学んだ内容を踏まえ、フランス語力を総合的に深める。	隔年
外国語科目	選択外国語	イタリア語入門1	本授業はイタリア語に初めて触れる学生向けの授業である。基本的な文法事項を体系的に学べる教科書を使って、イタリア語の基礎を一つ一つ身につける。イタリアにおける生活や、あるいは旅行などで使える表現を取り入れながら、立体的に学んでいくため、話し、聴くという基礎的な力を養うことを目標とする。また、言うまでもなくイタリアには、長い歴史と豊かな文化がある。そうした言葉の背景となる事情についても理解を深める。	
外国語科目	選択外国語	イタリア語入門2	本授業は「イタリア語入門1」の授業を踏まえて、イタリア語の初歩を学ぶ。基本的な文法事項を体系的に習得できる教科書を使って、イタリア語の基礎を一つ一つ身につける。イタリアにおける生活や、あるいは旅行などで使える表現を取り入れながら、立体的に学んでいくため、話し、聴くという基礎的な力を養うことを目標とする。また、言うまでもなくイタリアには、長い歴史と豊かな文化がある。そうした言葉の背景となる事情についても理解を深める。「イタリア語入門1」で学んだ内容を踏まえ、イタリア語の基礎力をよりしっかりとしたものにする。	
外国語科目	選択外国語	イタリア語中級1	本授業はイタリア語の基礎を学習した人向けの授業である。文法事項を確認しながら、イタリア語の応用力を養うことを目標とする。使えるイタリア語を目標に、さまざまな状況設定のなかでの会話の実践も取り入れるため、積極的に参加する姿勢を評価する。また可能な範囲でイタリア映画を素材として、それぞれの場面に応じた表現や語彙を身につけるとともに、イタリアの歴史、文化的背景についても学ぶ。	隔年
外国語科目	選択外国語	イタリア語中級2	本授業はイタリア語の基礎を学習した人向けの授業である。「イタリア語中級1」に引き続き、文法事項を確認しながら、イタリア語の応用力を養うことを目指す。使えるイタリア語を目標に、さまざまな状況設定のなかでの会話の実践も取り入れるため、積極的に参加する姿勢を評価する。また可能な範囲でイタリア映画を素材として、それぞれの場面に応じた表現や語彙を身につけるとともに、イタリアの社会情勢についても学ぶ。「イタリア語中級1」で学んだ内容を踏まえ、イタリア語力を発展的に深める。	隔年
外国語科目	選択外国語	イタリア語コミュニケーション1	本授業はイタリア語の簡単な会話(挨拶、自己紹介、レストラン等)での注文など)と入門レベルの文法(動詞の現在形まで)の知識をある程度有する人が対象である。イタリアへの旅行や現地での生活で必要とされる基本的な表現を、会話とリスニングを中心に学ぶ。つまり、ことばの学習のうち主に「聴く」、「話す」力を身につけるのが当面の目標である。本授業ではグループワークの練習を多く取り入れるため、音声を集約して聴き、積極的に授業に参加する姿勢を重視する。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	選択外国語	イタリア語コミュニケーション2	本授業は「イタリア語コミュニケーション1」に引き続き、イタリア語の簡単な会話(挨拶、自己紹介、レストラン等での注文など)と入門レベルの文法(動詞の現在形までの知識)をある程度有する人が対象である。イタリアへの旅行や現地での生活で必要とされる基本的な表現を、会話とリスニングを中心に学ぶ。つまり、ことばの学習のうち主に「聴く」、「話す」力を身につけるのが当面の目標である。本授業ではゲーム形式の練習を多く取り入れるため、音声を集中して聴き、積極的に授業に参加する姿勢を重視する。「イタリア語コミュニケーション1」で学んだ内容を踏まえ、イタリア語力を総合的に深める。	隔年
外国語科目	選択外国語	ロシア語入門1	本授業はロシア語を学んだことがない学生を対象とするロシア語の入門講座である。本授業においてはロシア語の基本表現を着実に学び、実際のコミュニケーションに活用できるロシア語の知識の獲得を目指す。最初に33文字のロシア語のアルファベットを身につける。その後、ロシア語の基本的な表現を学び、学期末には自分の住んでいるところや関心について説明できるようにすることを目標とする。毎回の授業では、単語や表現を確実に覚え、口頭で言えるよう練習する。また、随時ビデオ教材を使い、表現の幅も広げる。	
外国語科目	選択外国語	ロシア語入門2	本授業は「ロシア語入門1」の既習者および同等の能力のある人を対象とする、初級レベルのロシア語講座である。「ロシア語入門1」同様、本授業においてはロシア語の基本表現を着実に学び、実際のコミュニケーションに活用できるロシア語の知識の獲得を目指す。学期末には自分の嗜好や未来の事柄の説明や、買い物などの場でのスムーズな意思疎通ができるようになることを目標とする。毎回の授業では、単語や表現を確実に覚え、口頭で言えるよう練習する。また、随時ビデオ教材を使い、表現の幅も広げると共に、ロシア事情、ロシア文化にも触れる。	
外国語科目	選択外国語	ロシア語中級1	本授業は「ロシア語入門1」「ロシア語入門2」などで入門レベルの文法の知識を得ている学生が対象である。発展的なロシア語運用スキルを身につけることを目標とする。初級レベルの文法事項を確認しながら、応用的な表現を、実際のコミュニケーション場面を想定しながら学ぶ。とくに、初級水準を超えたレベルの、現実にロシア語で円滑なコミュニケーションをする上で必要な表現を指導する。また、必要に応じてビデオ教材を活用し、現代ロシア文化についての知見を得ることも目指す。	隔年
外国語科目	選択外国語	ロシア語中級2	本授業は「ロシア語入門1」「ロシア語入門2」などで入門レベルの文法の知識を得ている学生が対象である。上級レベルへの橋渡しとなるロシア語運用スキルを身につけることを目標とする。「ロシア語中級1」に引き続き、初級レベルの文法事項を確認しながら、応用的な表現を、実際のコミュニケーション場面を想定しながら学ぶ。とくに、日常のコミュニケーションでよく使われる重要表現をビデオ教材を使って指導する。ビデオ教材を通して、実際の現代ロシアの生活の様子について知見を得ることも目指す。	隔年
外国語科目	選択外国語	ロシア語コミュニケーション1	本授業は「ロシア語入門1」「ロシア語入門2」などで入門レベルの文法の知識を得ている学生が対象である。これまでに習得してきた基本的な語彙と文法を確認しながら、発展的な聴解力を養うことを目標とする。はじめは様々な状況設定のなかで、まずは明確な発音で、短い文章(主語、動詞、補語)を耳で理解できるよう練習する。ロシア文化についての知識に役立つような視聴覚資料も使用する。履修生は基本的な文章は毎回暗記し、基礎的な表現を身につける姿勢を重視する。	隔年
外国語科目	選択外国語	ロシア語コミュニケーション2	本授業は「ロシア語入門1」「ロシア語入門2」などで入門レベルの文法の知識を得ている学生が対象である。「ロシア語コミュニケーション1」同様、これまでに習得してきた基本的な語彙と文法を確認しながら、発展的な表現力を養うことを目標とする。はじめは様々な状況設定のなかで、まずは明確な発音で、短い文章(主語、動詞、補語)を述べられるよう練習する。ロシア社会についての知識に役立つような視聴覚資料も使用する。履修生は基本的な文章は毎回暗記し、基礎的な表現を身につける姿勢を重視する。	隔年
外国語科目	選択外国語	スペイン語入門1	スペイン語は、世界で4億4千万の人々が話し、スペインを含む21カ国で公用語となっている言語である。本授業では、スペイン語をはじめて学ぶ学生を対象として、1年間で、辞書を使って初歩的な文章を理解する能力を身につけることを目標とする。本授業においては、初歩的な文法知識の習得を目標とするが、それに応じた水準の語彙知識の習得も求められる。また、初歩的な日常コミュニケーションで用いられる表現についての知識や、言語の背後にあるスペイン語圏諸国の社会のあり方に関する知識も伝える。	
外国語科目	選択外国語	スペイン語入門2	本授業は「スペイン語入門1」に引き続き、スペイン語の文法を中心に授業を進める。スペイン語をはじめて学ぶ学生を対象として、1年間で、辞書を使って簡単な文章を理解する能力を身につけることを目標とする。本授業においては、基礎レベルの文法知識の習得を目標とするが、それに応じた水準の語彙知識の習得も求められる。また、基礎レベルの日常コミュニケーションで用いられる表現についての知識や、言語の背後にあるスペイン語圏諸国の文化のあり方に関する知識も伝える。	
外国語科目	選択外国語	スペイン語中級1	本授業では、入門の授業等で習得したスペイン語の知識の確認と、さらなる拡充を目標とする。既に入門の授業等で身につけたスペイン語知識を発展させた後、スペインの魅力について取り上げたスペイン語のテキストの講読などを行う。視聴覚資料も適宜利用して、理解を深める。会話力を重視し、スペイン語での会話練習を積極的に行う。どのようなテキストや視聴覚資料を使うかについては、履修生の希望を反映させる予定である。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	選択外国語	スペイン語中級2	本授業では、入門等の授業で習得したスペイン語の知識の確認と、さらなる拡充を目標とする。「スペイン語中級1」に引き続き、入門の授業等で身につけたスペイン語知識を発展させた後、スペインおよび広くスペイン語圏の魅力について取り上げたスペイン語のテキストの講読などを行う。視聴覚資料も適宜利用して、理解を深める。作文力を重視し、スペイン語での作文練習を積極的に行う。どのようなテキストや視聴覚資料を使うかについては、履修生の希望を反映させる予定である。	隔年
外国語科目	選択外国語	スペイン語コミュニケーション1	本授業はスペイン語の基礎的な文法の学習を終えた学生を対象に、一歩進んだスペイン語の学習を目指す。スペイン語で自分の言いたいことを状況、場所等にあわせて口頭でどのように表現していくかに注目して学ぶ。これまで学習してきた文法を頭に置きながら、語彙、特有の言いまわし等を増やし、それを駆使して、スペイン語で表現することを目標とする。言語の背景を知ること、言語に対する興味を深めるものとする。使用するテキストには、スペイン語圏の文化を理解するのに役立つ簡単な読み物も有しているため、こちらもあわせて読み進める。	隔年
外国語科目	選択外国語	スペイン語コミュニケーション2	本授業はスペイン語の基礎的な文法の学習を終えた学生を対象に、一歩進んだスペイン語の学習を目指す。スペイン語で自分の言いたいことを状況、場所等にあわせて文章でどのように表現していくかに注目して学ぶ。「スペイン語コミュニケーション1」に引き続き、これまで学習してきた文法を頭に置きながら、語彙、特有の言いまわし等を増やし、それを駆使して、スペイン語で表現することを目標とする。言語の背景を知ること、言語に対する興味を深めるものとする。使用するテキストには、スペイン語圏の社会を理解するのに役立つ簡単な読み物も有しているため、こちらもあわせて読み進める。	隔年
外国語科目	選択外国語	中国語入門1	本授業は中国語の基礎を学ぶ学生に対して開講される、中国語の初級クラスである。初級レベルのテキストにそって、文法や作文、講読、会話などの学習を進める。また、必要に応じてテキスト以外にも、適時、プリント資料を配付して読解の練習を行ったり、映像資料などを用いて、聞き取り能力を高めることも行う。このように本授業では、中国語の学習を通して、その背景となる中国語圏の文化に対する理解も深める。	
外国語科目	選択外国語	中国語入門2	本授業は中国語の基礎を学ぶ学生に対して開講される、中国語の初級クラスである。初級レベルのテキストにそって、文法や作文、講読、会話などの学習を進める。また、必要に応じてテキスト以外にも、適時、プリント資料を配付して読解の練習を行ったり、映像資料などを用いて、聞き取り能力を高めることも行う。このように本授業では、中国語の学習を通して、その背景となる中国語圏の社会に対する理解も深めていく。「中国語入門1」での成果を踏まえ、更に能力と理解を高める。	
外国語科目	選択外国語	中国語中級1	本授業は中国語の基礎を既に学んだ学生に対して開講される、中国語の中級クラスである。中級レベルのテキストにそって、文法や作文、講読、会話などの学習を進める。また、必要に応じてテキスト以外にも、適時、プリント資料を配付して読解の練習を行ったり、映像資料などを用いて、聞き取り能力を高めることも行う。このように本授業では、中国語の学習を通して、その背景となる中国語圏の文化に対する理解も深めることを目標とする。	隔年
外国語科目	選択外国語	中国語中級2	本授業は中国語の基礎を既に学んだ学生に対して開講される、中国語の中級クラスである。中級レベルのテキストにそって、文法や作文、講読、会話などの学習を進める。また、必要に応じてテキスト以外にも、適時、プリント資料を配付して読解の練習を行ったり、映像資料などを用いて、聞き取り能力を高めることも行う。このように本授業では、中国語の学習を通して、その背景となる中国語圏の社会に対する理解も深めることを目標とする。「中国語中級1」での成果を踏まえ、更に能力と理解を高める。	隔年
外国語科目	選択外国語	中国語コミュニケーション1	本授業は中国語の基礎や、中級レベルを既に学んだ学生に対して開講される、中国語の上級クラスである。上級レベルのテキストにそって、文法や作文、講読、会話などの学習を進める。また、必要に応じてテキスト以外にも、適時、プリント資料を配付して読解の練習を行ったり、映像資料などを用いて、聞き取り能力を高めることも行う。このように本授業では、中国語の学習を通して、その背景となる中国語圏の文化に対する理解も深めることを目標とする。	隔年
外国語科目	選択外国語	中国語コミュニケーション2	本授業は中国語の基礎や、中級レベルを既に学んだ学生に対して開講される、中国語の上級クラスである。上級レベルのテキストにそって、文法や作文、講読、会話などの学習を進めていく。また、必要に応じてテキスト以外にも、適時、プリント資料を配付して読解の練習を行ったり、映像資料などを用いて、聞き取り能力を高めることも行う。このように本授業では、中国語の学習を通して、その背景となる中国語圏の社会に対する理解も深めることを目標とする。「中国語コミュニケーション1」での成果を踏まえ、更に能力と理解を高める。	隔年
外国語科目	選択外国語	韓国・朝鮮語入門1	本授業は韓国語をはじめ学ぶ学生のために、読み、書き、聞き、話す総合的なトレーニングを行う。自己紹介、買い物、飲食店での注文など生活に必要な基礎的な言葉を駆使し、身近な話題の内容を理解、表現できるレベルを目標とする。習得目標の語彙は約800語程度。これらの基礎的な語彙で基本文法を理解し、簡単な文章を作れるようにする。また簡単な生活文や実用文を理解し、構成できるレベルを目指す。教科書の予習・復習は必須だが、教科書以外にも、様々なプリントや映像などを用いながら、教科書の学習内容や、その背景となる韓国社会の事情などに対する理解も深めていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	選択外国語	韓国・朝鮮語入門2	本授業は韓国語をはじめて学ぶ学生のために、読み、書き、聞き、話す総合的なトレーニングを行う。自己紹介、買い物、飲食店での注文など生活に必要な基礎的な言葉を駆使し、身近な話題の内容を理解、表現できるレベルを目標とする。習得目標の語彙は約800語程度。これらの基礎的な語彙で基本文法を理解し、簡単な文章を作れるようにする。また簡単な生活文や実用文を理解し、構成できるレベルを目指す。教科書の予習・復習は必須だが、教科書以外にも、様々なプリントや映像などを用いながら、教科書の学習内容や、その背景となる韓国社会の事情などに対する理解も深めていく。本授業では、「韓国・朝鮮語入門1」で学習した内容を踏まえ、さらなる発展的な演習を行う。	
外国語科目	選択外国語	韓国・朝鮮語中級1	本授業は、入門の授業等に引き続き、読み・書き・聞き取り・話すことを繰り返し練習しながら文型と語彙を増やしてより多様な表現ができるようにする。さらに韓国語の表現と日本語の表現を比較しながら自然な表現を身につけるように授業を進める。電話やお願い程度の日常生活に必要な言葉や、郵便局、銀行などの公共機関での会話ができる程度で、習得目標の語彙は約1,500-2,000語程度。これらの語彙を用いた文章を理解でき、使用できるレベルを目標とする。また、公式的な状況か非公式的な状況かを区別し、使用できる能力も培う。教科書以外にも韓国の文化、習慣、社会事情などにも触れて理解を深める。	隔年
外国語科目	選択外国語	韓国・朝鮮語中級2	本授業は、入門の授業等に引き続き、読み・書き・聞き取り・話すことを繰り返し練習しながら文型と語彙を増やしてより多様な表現ができるようにする。さらに韓国語の表現と日本語の表現を比較しながら自然な表現を身につけるように授業を進める。電話やお願い程度の日常生活に必要な言葉や、郵便局、銀行などの公共機関での会話ができる程度で、習得目標の語彙は約1,500-2,000語程度。これらの語彙を用いた文章を理解でき、使用できるレベルを目標とする。また、公式的な状況か非公式的な状況かを区別し、使用できる能力も培う。教科書以外にも韓国の文化、習慣、社会事情などにも触れて理解を深める。本授業では、「韓国・朝鮮語中級1」で学習した内容を踏まえ、さらなる発展的な演習を行う。	隔年
外国語科目	選択外国語	韓国・朝鮮語コミュニケーション1	本授業は2年間程度基礎を学んだ学生を対象に、韓国語の短い文章を読んで、それを日本語に翻訳したり、要約したり、討論したりする。できるだけ韓国語で授業を進めながら、韓国語に関する総合的なトレーニングを行う。日常生活を問題なく過ごせ、様々な公共施設の利用や社会的関係を維持するための言語を使用でき、文章語と口語の基本的な特性を区分し理解、使用が可能になるレベル、ニュースや新聞をある程度理解でき、日常生活に必要な言葉が可能なレベルを目標とする。また、よく使われる慣用語や、代表的な韓国文化に対する理解をもとに、社会・文化的な内容の文章が理解できるようなレベルを目指す。	隔年
外国語科目	選択外国語	韓国・朝鮮語コミュニケーション2	本授業は2年間程度基礎を学んだ学生を対象に、韓国語の短い文章を読んで、それを日本語に翻訳したり、要約したり、討論したりする。できるだけ韓国語で授業を進めながら、韓国語に関する総合的なトレーニングを行う。日常生活を問題なく過ごせ、様々な公共施設の利用や社会的関係を維持するための言語を使用でき、文章語と口語の基本的な特性を区分し理解、使用が可能になるレベル、ニュースや新聞をある程度理解でき、日常生活に必要な言葉が可能なレベルを目標とする。また、よく使われる慣用語や、代表的な韓国文化に対する理解をもとに、社会・文化的な内容の文章が理解できるようなレベルにも入れるようにする。本授業では、「韓国・朝鮮語コミュニケーション1」で学習した内容を踏まえ、さらなる発展的な演習を行う。	隔年
外国語科目	選択外国語	外国語現地実習(英語)1	春期休暇中の4週間から6週間を利用して、オーストラリアのディーキン大学や、フィリピンの語学学校SMEAG等で受講する短期語学研修である。月曜から金曜まで毎日数時間の授業のほか、平日の午後には各種の文化体験があり、総合的な英語のトレーニングを積む(SMEAGは終日英語検定試験対策が中心)。大学の授業はもちろんのこと、現地で実際に英語を用いて生活することによって、語学力の向上をはかるとともに、学生それぞれが異文化への理解を深め、グローバルな視野を身につけることを目標とする。また、本授業は、現地での研修の成果をより効果的なものにするため、大学で実施する事前研修と事後研修を実施する。その他、履修生は研修前後にプレシメントテスト等を受験し、各人の語学力を把握する。	集中
外国語科目	選択外国語	外国語現地実習(英語)2	夏期休暇中の3週間から4週間を利用して、イギリスのケント大学や、フィリピンの語学学校SMEAG等で実施される短期語学研修である。月曜から金曜まで毎日数時間の授業のほか、平日の午後には各種の文化体験があり、総合的な英語のトレーニングを積めるようになっている(SMEAGは終日英語検定試験対策が中心)。大学の授業はもちろんのこと、現地で実際に英語を用いて生活することによって、語学力の向上をはかるとともに、学生それぞれが異文化への理解を深め、グローバルな視野を身につけることを目標とする。また、本授業は、現地での研修の成果をより効果的なものにするため、大学で実施する事前研修と事後研修を実施する。その他、履修生は研修前後にプレシメントテスト等を受験し、各人の語学力を把握する。	集中
外国語科目	選択外国語	外国語現地実習(ドイツ語)1	春期休暇中ハレ・ヴィッテンベルク大学や、カール・デュイスブルク・ツェントレン(開催地複数)等で行われる短期語学研修である。それぞれが外国人向けに開催している短期語学講座のプログラムにしたがって、ドイツ語の会話、読解、作文能力の錬成のための授業、ならびにドイツ現時事情や地誌の授業を受講する。到達目標は、初歩・基礎レベルの実践的なドイツ語の会話、読解、作文能力を身につけることである。(演習45時間～72時間、実習3時間～13.5時間)	集中

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	選択外国語	外国語現地実習(ドイツ語)2	夏期休暇中にバッサウ大学、ハレ・ヴィッテンベルク大学やカール・デュイスベルク・ツェントレン(開催地複数)等で行われる短期語学研修である。それぞれが外国人向けに開催している短期語学講座のプログラムにしたがって、ドイツ語の会話、読解、作文能力の錬成のための授業、ならびにドイツ現代事情や地誌の授業を受講する。到達目標は、初歩・基礎レベルの実践的なドイツ語の会話、読解、作文能力を身につけることである。「外国語現地実習(ドイツ語)1」よりやや高度な内容も含まれるので、2年次以降に参加することが推奨される。(演習45時間～72時間、実習3時間～13.5時間)	集中
外国語科目	選択外国語	外国語現地実習(フランス語)1	春期休暇中にフランスのトゥールにあるトゥーレーヌ学院等で、週21時間の授業を3週間受講する短期語学研修である。初日に学力試験があり、その成績によってクラス編成がなされるため、世界各国から来ている同レベルの学生たちと交流することになる。授業内容は文法や会話が基本である。また、文化体験の選択授業のほか、モン・サン・ミッシェルやロワール河流域の美しいシャトー見学も企画されている。ホームステイ形式であるため、フランスの家庭生活も体験できる。語学講座のプログラムにもとづき、会話力、読解力、作文能力を着実に向上させること、現地での生活を通じて、フランスの現代事情や地誌についての理解を深めることが本授業の目標である。現地実習のほかに、事前学習と事後学習が行われる。	集中
外国語科目	選択外国語	外国語現地実習(フランス語)2	夏期休暇中にフランスのトゥールにあるトゥーレーヌ学院等で、週21時間の授業を4週間受講する短期語学研修である。初日に学力試験があり、その成績によってクラス編成がなされるため、世界各国から来ている同レベルの学生たちと交流することになる。授業内容は文法や会話が基本である。また、文化体験の選択授業のほか、モン・サン・ミッシェルやロワール河流域の美しいシャトー見学も企画されている。ホームステイ形式であるため、フランスの家庭生活も体験できる。語学講座のプログラムにもとづき、会話力、読解力、作文能力を着実に向上させること、現地での生活を通じて、フランスの現代事情や地誌についての理解を深めることが本授業の目標である。現地実習のほかに、事前学習と事後学習が行われる。	集中
外国語科目	選択外国語	外国語現地実習(中国語)1	春期休暇中に、台湾の台北にある協定校である国立政治大学等で受講する3週間の短期語学研修である。月曜から金曜まで毎日4時間の授業のほか、平日の午後には各種の文化体験があり、総合的な中国語のトレーニングを積めるようになっている。履修するには、中国語の少なくとも初級レベルを学んでいることが望ましい。日常生活と関連する個人的な対話や談話はもちろん、社会的テーマを扱う対話や談話を聞いて、その内容を把握でき、また簡単な実用文を理解できるレベルを目指す(漢語水平考試(HSK)3級・実用中国語検定4級程度)。(演習50時間、実習12時間～24時間)	集中
外国語科目	選択外国語	外国語現地実習(中国語)2	夏期休暇中に、中国の西安にある協定校である西安外国語大学等で受講する、3週間の短期語学研修である。月曜から金曜まで毎日4時間の授業のほか、平日の午後には各種の文化体験があり、総合的な中国語のトレーニングを積めるようになっている。履修するには、中国語の少なくとも初級レベルを学んでいることが望ましい。日常生活と関連する個人的な対話や談話はもちろん、社会的テーマを扱う対話や談話を聞いて、その内容を把握でき、また簡単な実用文を理解できるレベルを目指す(漢語水平考試(HSK)3級・実用中国語検定4級程度)。(演習50時間、実習12時間～24時間)	集中
外国語科目	選択外国語	外国語現地実習(韓国・朝鮮語)1	春期休暇中に韓国にある協定校で受ける3週間の短期語学研修。月曜から金曜まで毎日4時間の授業のほか、平日の午後には各種の文化体験があり、総合的な韓国語のトレーニングを積めるようになっている。日常生活と関連する個人的な対話や談話はもちろん、社会的テーマを扱う対話や談話を聞き、その内容を把握し、推論できるかを評価し、簡単な実用文を理解できるレベルを目指す(韓国語能力試験(TOPIK)3級・ハングル能力検定3級程度)。また、日常生活と関連する生活文や説明文を読み、その内容を把握でき、実生活で頻繁に接する簡単な広告文や案内文などの実用文を読んで情報を把握できるレベルを目指す。	集中
外国語科目	選択外国語	外国語現地実習(韓国・朝鮮語)2	夏期休暇中に韓国にある協定校で受ける3週間の短期語学研修。月曜から金曜まで毎日4時間の授業のほか、平日の午後には各種の文化体験があり、総合的な韓国語のトレーニングを積めるようになっている。日常生活と関連する個人的な対話や談話はもちろん、社会的テーマを扱う対話や談話を聞き、その内容を把握し、推論できるかを評価し、簡単な実用文を理解できるレベルを目指す(韓国語能力試験(TOPIK)3級・ハングル能力検定3級程度)。また、日常生活と関連する生活文や説明文を読み、その内容を把握でき、実生活で頻繁に接する簡単な広告文や案内文などの実用文を読んで情報を把握できるレベルを目指す。	集中
外国語科目	選択外国語	日本語(コンプリートビギナー)	本授業は日本語学習の経験が全くない留学生を対象とする。本授業の目標は以下の通り。①親切で忍耐強い日本人の助けを得ながら一緒に会話を紡ぎ上げていくことができるようになること、②テキストの日本語がすらすら読めるようになること、自分の日常に関わることについて平易な日本語による作文が書けるようになること、③地域・キャンパス内インタビュー、ビジターセッションを行って、日本語による交流の楽しさを体験すること。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
外国語科目	選択外国語	日本語(入門)	本授業は日本語学習の経験が多少ある留学生を対象とする。本授業の目標は日本語(コンプリートビギナー)に引き続き、以下の通り。①親切で忍耐強い日本人の助けを得ながら一緒に会話を紡ぎ上げていくことができるようになること、②テキストの日本語がすらすら読めるようになること。自分の日常に関わることについて平易な日本語による作文が書けるようになること、③地域・キャンパス内インタビュー、ビジターセッションを行って、日本語による交流の楽しさを体験すること。		
外国語科目	選択外国語	日本語(初級)	本授業は日本語学習歴が1年程度ある留学生を対象とする。本授業の目標は以下の通り。①親切で忍耐強い日本人の助けを得ながら一緒に会話を紡ぎ上げていくことができるようになること、②テキストの日本語がすらすら読めるようになること。自分の日常に関わることについて平易な日本語による作文が書けるようになること、③地域・キャンパス内インタビュー、ビジターセッションを行って、日本語による交流の楽しさを体験すること。		
外国語科目	選択外国語	日本語(初中級)	本授業は初級文法修了、すなわち日本語能力試験3級取得かそれに相当する日本語力を有する留学生を対象とする。本授業の目標は以下の通り。①相手や話す内容、場所をわきまえたフォーマル・インフォーマルな会話ができるようになること、②初中級レベルの読解力を獲得し、口頭・作文によりある程度論理的な主張ができるようになること、③地域・キャンパス内インタビュー、ポスターセッション、ビジターセッションなど教室外における日本人との対話の場を得て、継続的交流のきっかけとすること。		
外国語科目	選択外国語	日本語(中級)	本授業は日本語能力試験2級取得かそれに相当する日本語力を有する留学生を対象とする。本授業の目標は以下の通り。①相手や話す内容、場所をわきまえたフォーマル・インフォーマルな会話ができるようになること、②中級レベルの読解力を獲得し、口頭・作文によりある程度論理的な主張ができるようになること、③地域・キャンパス内インタビュー、ポスターセッション、ビジターセッションなど教室外における日本人との対話の場を得て、継続的交流のきっかけとすること。		
外国語科目	選択外国語	日本語(上級)	本授業は日本語能力試験1級取得かそれに相当する日本語力を有する留学生を対象とする。本授業の目標は以下の通り。①日本の新聞、雑誌、エッセイ、DVD等を教材として「日本の社会と文化」について理解を深めること、②時々のトピックに応じた新聞、雑誌、エッセイ等を読み、視聴覚教材を使って、日本人の国民性や文化を理解すること、③様々な教材の内容についてディスカッションしてコミュニケーション力を高め、日本人学生と身近な話題についてディスカッションして互いの社会と文化を理解し合うこと。		
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Introduction to Global History 1	本授業は、グローバル化についての履修生の理解を相対化、歴史化し、人や観念の移動、テクノロジーと貿易の進歩、国家、文明、帝国の台頭と相互関係がどのように人々の生活を形作ってきたかを明らかにすることを目的とする。授業は英語で行う。今日のグローバル社会では、歴史的進歩というヨーロッパ中心のモデルは通用しないとの立場から、古典期以降および初期近代に注目し、グローバルレベルで追跡できる幅広い発展パターンを明らかにし、非西歐を起源とするグローバル化にも光を当てることになる。これらの考察により、履修生が歴史学についての理解を深め、政治に対する感性を磨くことを目指す。	
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Introduction to Global History 2	本授業は、グローバル化についての履修生の理解を相対化、歴史化し、人や観念の移動、テクノロジーと貿易の進歩、国家、文明、帝国の台頭と相互関係がどのように人々の生活を形作ってきたかを明らかにすることを目的とする。授業は英語で行う。本授業では、後期近代および現代に視線を移し、工業化、都市化、資本主義、帝国主義、テクノロジーの進歩、環境の変化、宗教、イデオロギーの競争等に注目する。これらの考察により、履修生が歴史学についての理解を深め、政治に対する感性を磨くことを目指す。	
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Transnational Issues 1	本授業は、21世紀のグローバル社会が直面する越境的課題について概観することを目的とする。授業は英語で行う。交通手段や情報技術が世界的規模で発達した今日、国境を越える社会問題は急速に増加しており、それら諸問題を具体的に紹介する。具体的なテーマとしては、気候変動、教育、医療、資源の枯渇、著作権、パンデミック、各種のテロと国際犯罪など、多国間の協力と共同解決が必要とされる問題を検討する。	
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Transnational Issues 2	本授業は、21世紀のグローバル社会が直面する越境的課題について概観することを目的とする。授業は英語で行う。交通手段や情報技術が世界的規模で発達した今日、国境を越える社会問題は急速に増加しており、それら諸問題を具体的に紹介する。「Transnational Issues 1」で論じた諸問題を確認したうえで、NPOやNGO、国連機関、国民国家、多国間協力、民間基金など、グローバル社会の問題に対峙するさまざまな制度を紹介する。	
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Understanding Foreign Affairs and the Global Economy	本授業は、国際政治経済における基礎的な理論枠組みについて概観し、それを踏まえて、近年の国際政治経済における諸課題を紹介する。理論的には、リアリズム、リベラリズム等の国際政治における主要なアプローチについて解説し、国際政治における主要なアクターやその行動様式について理解することを目標とする。トピックとして、国家の対外政策、貿易、通貨、地域統合、経済開発、戦争等を扱う。これらについて、WTO、ブレトンウッズ体制、民主主義の平和、アメリカへの一極集中等の具体的な事例研究を交えながら議論する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Introduction to Critical Thinking	クリティカル・シンキング(批判的思考)とは、他人や自分が展開した議論を解釈し、分析して評価するための論理と根拠に基づく思考法を意味する。本授業では、事前にテキストを読み、その内容に基づいて履修生自身が自分の論理を展開して他の履修生とディスカッションすることにより、論理的思考の良い例と悪い例を分析し、クリティカル・シンキングのスキルを身につけることを到達目標とする。授業は英語で行う。評価については、英語によるレポートや口頭試験により行うが、英語の文法等の正確性よりもアイデアや発想力を重視する。	
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Language Proficiency Test Preparation 1	本授業は、IELTSをはじめとする英語検定試験について、テストの具体的な内容や時にその言語習得論的思想を学びながら、英語4技能(writing, reading, listening, speaking)の実践的なトレーニングを重ねることにより英語力向上を目的とした実習科目である。テストの仕組みやその思想、問題作成上の戦略、測ろうとしている言語的側面を学ぶことにより検定試験そのものの理解を深めるとともに、実際の問題を解くことにより実践的なトレーニングも行う。また、専攻における専門の学修に必要な英語力を身につけることを目指す。	
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Language Proficiency Test Preparation 2	本授業はIELTSをはじめとする英語検定試験について、テストの具体的な内容や時にその言語習得論的思想を学びながら、英語4技能(writing, reading, listening, speaking)の実践的なトレーニングを重ねることにより英語力向上を目的とした実習科目である。「Language Proficiency Test Preparation 1」で学んだことを踏まえ、さらに検定試験についての理解を深めるとともに、過去問題や模擬問題を解くことにより実践的な試験対策を行い、専攻におけるこれからの専門の学修に必要とされる英語力を身につけることを目指す。	
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Language Proficiency Test Preparation (Intermediate) 1	本授業はIELTSをはじめとする英語検定試験について、テスト内容や時にその思想を学び、英語4技能(writing, reading, listening, speaking)の実践的なトレーニングを重ねることにより英語力向上を目的とした実習科目である。初級・導入科目である「Language Proficiency Test Preparation1・2」に対して中級レベルの科目として位置づけられる。テストの仕組みやその思想、問題作成上の戦略、測ろうとしている言語的側面を学ぶことで検定試験そのものの理解を深めるとともに、実際の問題を解くことにより実践的なトレーニングも行う。また、専攻におけるこれからの専門の学修に必要とされる英語力を身につけることを目指す。	
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Language Proficiency Test Preparation (Intermediate) 2	本授業は、IELTSをはじめとする英語検定試験について、テスト内容や時にその思想を学び、英語4技能(writing, reading, listening, speaking)の実践的なトレーニングを重ねることにより英語力向上を目的とした実習科目である。初級・導入科目である「Language Proficiency Test Preparation1・2」に対して中級レベルの科目として位置づけられる。「Language Proficiency Test Preparation (Intermediate) 1」で学んだことを踏まえさらに検定試験についての理解を深めるとともに、過去問題や模擬問題を解くことにより実践的な試験対策を行う。また、専攻におけるこれからの専門の学修に必要とされる英語力を身につけることを目指す。	
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Intensive English Proficiency Test Practicum A	本授業は、SMEAG(フィリピン セブ島)など、国内外の指定した語学学校にて90時間以上の実習を集中的に行う短期語学研修である。IELTSをはじめとする英語検定試験について、テストの具体的な内容や時にその言語習得論的思想を学びながら、実際の問題を解くことで英語4技能(writing, reading, listening, speaking)のレベルアップを目指す。具体的には、IELTS over all 5.5程度のレベルを到達目標とする。授業内の実践的なトレーニングに加え、自分の課題、弱点を見つけ、それを克服するための方法を履修者自身が考えることも求められる。	集中
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Intensive English Proficiency Test Practicum B	本授業は、SMEAG(フィリピン セブ島)など、国内外の指定した語学学校にて90時間以上の実習を集中的に行う短期語学研修である。IELTSをはじめとする英語検定試験について、テストの具体的な内容や時にその言語習得論的思想を学びながら、実際の問題を解くことで英語4技能(writing, reading, listening, speaking)のレベルアップを目指す。本授業は、「Intensive English Proficiency Test Practicum A」の学修を継続して、さらにスコアアップできるような実践的トレーニングプログラムとなっている。具体的には、IELTS over all 6.0程度のレベルを到達目標とする。	集中
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	TOEIC Training 1	本授業は、TOEICのListening & Reading Test及びSpeaking & Writing Testsの各セクションの対策を行う。学生は大学が指定するe-ラーニングシステムを利用し、個々のレベルに合わせて学習する。担当教員が個々の学生に適した目標設定を行い、その目標に対する学習の進捗状況を確認しつつ、各セクションの解き方のポイント等を指導する。前学期では特にリスニングとリーディングに焦点を当てて学習する。本授業はTOEIC850点を取得することが到達目標である。	
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	TOEIC Training 2	本授業は、TOEICのListening & Reading Test及びSpeaking & Writing Testsの各セクションの対策を行う。学生は大学が指定するe-ラーニングシステムを利用し、個々のレベルに合わせて学習する。担当教員が個々の学生に適した目標設定を行い、その目標に対する学習の進捗状況を確認しつつ、各セクションの解き方のポイント等を指導する。後学期では特にスピーキングとライティングに焦点を当てて学習する。本授業はTOEIC900点以上を取得することが到達目標である。本授業では「TOEIC Training 1」で学習した内容を踏まえ、さらに能力と知識を向上及び深化させる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Global Service Learning A1	本授業は、授業担当者の指導下で行うボランティア活動・社会奉仕活動・インターンシップ・フィールドワークなどの社会的活動と、活動後のレポート作成または口頭発表を組み合わせた体験型の実習科目である。これらの体験によって、履修生がグローバル市民としての意識を強く持ち、グローバルな活動への積極性を高めるようになることが主要目的である。履修生は大学が用意した、国内または海外における社会的活動のプログラムメニューのいずれかを選択する。選択するプログラムは、各自が所属する専攻の分野やこれまでの学修内容にあったものが望ましい。前学期に実施される本授業では、担当者の指導(講義)6時間程度と実習39時間をあわせて計45時間受講すると1単位が与えられる。	集中
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Global Service Learning A2	本授業は、授業担当者の指導下で行うボランティア活動・社会奉仕活動・インターンシップ・フィールドワークなどの社会的活動と、活動後のレポート作成または口頭発表を組み合わせた体験型の実習科目である。これらの体験によって、履修生がグローバル市民としての意識を強く持ち、グローバルな活動への積極性を高めるようになることが主要目的である。履修生は大学が用意した、国内または海外における社会的活動のプログラムメニューのいずれかを選択する。選択するプログラムは、各自が所属する専攻の分野やこれまでの学修内容にあったものが望ましい。後学期に実施される本授業では、担当者の指導(講義)6時間程度と実習39時間をあわせて計45時間受講すると1単位が与えられる。	集中
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Global Service Learning B1	本授業は、授業担当者の指導下で行うボランティア活動・社会奉仕活動・インターンシップ・フィールドワークなどの社会的活動と、活動後のレポート作成または口頭発表を組み合わせた体験型の実習科目である。これらの体験によって、履修生がグローバル市民としての意識を強く持ち、グローバルな活動への積極性を高めるようになることが主要目的である。履修生は大学が用意した、国内または海外における社会的活動のプログラムメニューのいずれかを選択する。選択するプログラムは、各自が所属する専攻の分野やこれまでの学修内容にあったものが望ましい。前学期に実施される本授業では、担当者の指導(講義)6時間程度と実習84時間をあわせて計90時間受講すると2単位が与えられる。	集中
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Global Service Learning B2	本授業は、授業担当者の指導下で行うボランティア活動・社会奉仕活動・インターンシップ・フィールドワークなどの社会的活動と、活動後のレポート作成または口頭発表を組み合わせた体験型の実習科目である。これらの体験によって、履修生がグローバル市民としての意識を強く持ち、グローバルな活動への積極性を高めるようになることが主要目的である。履修生は大学が用意した、国内または海外における社会的活動のプログラムメニューのいずれかを選択する。選択するプログラムは、各自が所属する専攻の分野やこれまでの学修内容にあったものが望ましい。後学期に実施される本授業では、担当者の指導(講義)6時間程度と実習84時間をあわせて計90時間受講すると2単位が与えられる。	集中
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Global Service Learning C1	本授業は、授業担当者の指導下で行うボランティア活動・社会奉仕活動・インターンシップ・フィールドワークなどの社会的活動と、活動後のレポート作成または口頭発表を組み合わせた体験型の実習科目である。これらの体験によって、履修生がグローバル市民としての意識を強く持ち、グローバルな活動への積極性を高めるようになることが主要目的である。履修生は大学が用意した、国内または海外における社会的活動のプログラムメニューのいずれかを選択する。選択するプログラムは、各自が所属する専攻の分野やこれまでの学修内容にあったものが望ましい。前学期に実施される本授業では、担当者の指導(講義)6時間程度と実習174時間をあわせて計180時間受講すると4単位が与えられる。	集中
専門科目	専攻基礎科目	学部共通科目	Global Service Learning C2	本授業は、授業担当者の指導下で行うボランティア活動・社会奉仕活動・インターンシップ・フィールドワークなどの社会的活動と、活動後のレポート作成または口頭発表を組み合わせた体験型の実習科目である。これらの体験によって、履修生がグローバル市民としての意識を強く持ち、グローバルな活動への積極性を高めるようになることが主要目的である。履修生は大学が用意した、国内または海外における社会的活動のプログラムメニューのいずれかを選択する。選択するプログラムは、各自が所属する専攻の分野やこれまでの学修内容にあったものが望ましい。後学期に実施される本授業では、担当者の指導(講義)6時間程度と実習174時間をあわせて計180時間受講すると4単位が与えられる。	集中
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学	Mathematics and Statistics (b-1)	本授業は、「Mathematics and Statistics(a)」に引き続き、復習、問題演習、模擬試験などを通じて数学および統計学についての理解を深めることを目指す。主に数学分野について以下のことを学ぶ。 ・代数式の処理 ・指数や対数の計算 ・関数の微積分 ・金融数学における基本計算 本授業の目的は、経済学や経営学を学習する上で必要とされる以上のようなトピックについての理解を含め、その応用方法に慣れることである。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学	Mathematics and Statistics (b-2)	本授業は、「Mathematics and Statistics(a) および(b-1)」に引き続き、復習、問題演習、模擬試験などを通じて数学および統計学についての理解を深めることを目指す。主に統計分野について以下のことを学ぶ。 ・グラフや数値で表された社会科学のデータを解釈し、集計する。 ・条件付確率や確率変数、確率分布といった概念を正しく理解する。 ・2項分布や正規分布などの代表的な分布について理解する。 ・社会科学の文脈で調査および実験をデザインし、実施する方法について理解する。 ・相関係数や回帰分析についての基本を理解し、コンピューターの入出力を解釈してモデルの妥当性を評価する。 本授業の目的は、経済学や経営学を学習する上で必要とされる以上のようなトピックについての理解を含め、その応用方法に慣れることである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学 Introduction to Statistics 1	本授業は、経済学や経営学の実証研究に必要な不可欠である計量経済学を習得する上での基礎となる統計学の概念について幅広く学ぶことを目的とする。具体的な内容としては、確率や統計学の数理的基礎に始まり、グラフや表(データの可視化)、記述統計(平均、中央値、分散、標準偏差など)、確率の諸概念(条件付確率やベイズの定理など)、確率変数、確率分布(2項分布、一様分布、ポワソン分布、正規分布など)を中心に学ぶ。履修生が理解を深め、知識を定着させるために、演習問題や小テストを活用する。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学 Introduction to Statistics 2	本授業は、経済学や経営学の実証研究に必要な不可欠である計量経済学を習得する上での基礎となる統計の概念について学ぶことを目的とする。具体的な内容としては、「Introduction to Statistics 1」で学習した内容を踏まえ、推定・検定、統計調査の方法や相関係数と回帰分析(最小二乗法、単回帰分析と重回帰分析)を中心に学ぶ。履修生が理解を深め、知識を定着させるために、演習問題や小テストを活用し、最後に学期末試験を行う。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学 Economics (b-1)	本授業は、初めて経済学を学ぶ学生向けに、経済学の基礎知識の応用力を確認するものである。想定される履修生数は1クラス25人程度とし、毎週、英語による演習問題を課し、その答案を採点したのちに、解説を行う。答案は英語で記入させるので、英語で経済学を考え、解を導き、相手にそれを伝える能力を養うことが目的である。取り上げる内容は、ミクロ経済学の分野である需要曲線、供給曲線、弾力性、余剰分析、外部性、市場の失敗と政府の介入策等である。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学 Economics (b-2)	本授業は、初めて経済学を学ぶ学生向けに、経済学の基礎知識の応用力を確認するものである。想定される履修生数は1クラス25人程度とし、毎週、英語による演習問題を課し、その答案を採点したのちに、解説を行う。答案は英語で記入させるので、英語で経済学を考え、解を導き、相手にそれを伝える能力を養うことが目的である。取り上げる内容は、マクロ経済学の分野である経済成長、総需要曲線、総供給曲線、失業とインフレ、金融政策、財政政策の他、国際経済学の分野である比較優位理論、途上国と先進国、外国援助等である。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学 Accounting and Finance (b-1)	現代社会において、経済のインフラとしての会計制度について基本的な理解を持つことは、企業活動を行う上で、必要な知識である。本授業は、会計および金融分野に関する概観を説明した後、企業活動のグローバル化に伴って、グローバル資本市場における企業の資金調達を支える会計制度について学ぶ。本授業を通じて財務会計の基礎知識を習得することを到達目標とする。なお、本授業は、英語による講義であるため、一定程度の英語力が必要となる。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学 Accounting and Finance (b-2)	本授業は、「Accounting and Finance(b-1)」に引き続き、グローバルな資本市場における会計制度について取り上げる。とくに、短期的、長期的な意思決定を下すために必要とされる基本的な管理会計手法(例えば、キャッシュフロー分析や投資評価法、損益分岐点分析など)について学ぶ。本授業を通じて、経営者が重要な経営判断を下す際の根拠となり得る管理会計の基本概念を理解することを目標とする。なお、本授業は、英語による講義であるため、一定程度の英語力が必要となる。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学 International Relations (b-1)	本授業は「International Relations(a)」に引き続き、国際関係に関する理解を深めることを目標として、模擬試験や論評、エッセイ、レポートで評価する。取り上げる論題は、世界における state, nation, country の違い、世界のさまざまな地域に見られる制度と秩序の類型、さまざまな地域で力の配分が各国の挙動や認識に及ぼす影響、グローバル化とそれがアジア・アフリカの発展途上国に与える影響、欧州における地域統合、国際関係論の4つの主要学派(リベラリズム、リアリズム、マルクス主義、構成主義)における基本理念の相違、各学派に関連する重要な用語と概念である。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学 International Relations (b-2)	本授業は「International Relations(b-1)」に引き続き、国際関係に関する理解を深めることを目標として、模擬試験や論評、エッセイ、レポートで評価する。取り上げる論題は、アフリカにおける人道的介入、南北アメリカ大陸における非国家主体と国際機関、東アジアと太平洋における国際安全保障、南アジアおよび西南アジアにおけるテロリズムとグローバル化、欧州および旧ソ連におけるレジーム構築、グローバル国際秩序における戦争の役割、発展と安全保障の関係性、グローバル環境の変化、国連の役割、国際秩序の将来である。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学 Politics (b-1)	本授業は「Politics(a)」に引き続き、「Politics(a)」で論じたテーマと理論的概念を復習する。模擬試験、論評、エッセイ、レポートを通じて政治学という学問について理解を深めることを目標とする。具体的には、権力と権威のさまざまな特徴、ケーススタディーや比較研究など、政治学研究のさまざまなアプローチ、政治的イデオロギー(リベラリズム、保守主義、マルクス主義)の区別、さまざまな政治的実体(主権国家、国民国家、統治領)の区別、民主制と独裁制の制度的、政治的相違、さまざまな政治体制における(とくに市民権と政治参加に関連する)包摂と排除について講義する。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学 Politics (b-2)	本授業は「Politics(b-1)」に引き続き、「Politics(a)」で論じたテーマと理論的概念を復習する。模擬試験、論評、エッセイ、レポートを通じて政治学について理解を深めることを目標とする。また、最近の報道記事を取り上げてクラス討論会を開き、重要な問題に理論的概念を適用する。具体的には、現代の自由民主主義を構成する基本的政治体制(政党、選挙制度、議会、執行部)、政治体制が個人の利益をどのように説明し表現するか、主要な経済学派間の相違、さまざまな形態の政治参加、連邦型政府と中央集権型政府の相違、国家の官僚組織、軍隊、および利益団体に関連する基本的職務と懸念事項について講義する。	隔年

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学	Foundation of Economics	本授業は、経済学の基礎をグラフや簡単な数式を用いて、講義するものである。他の経済学の入門レベルの授業の補完的役割を果たすことが目的である。内容は需要曲線と供給曲線、均衡と価格メカニズム、弾力性、余剰分析、市場の失敗、外部性、政府の介入、総需要曲線と総供給曲線、失業とインフレ、財政金融政策、生産可能性フロンティア、リカード・モデル、経済成長である。小テストを通じ、理解度を確認しながら授業を進める。成績は、学期末試験によって評価する。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学	Mathematics for Economics	本授業は、大学において経済学を学ぶために必要不可欠な数学的基礎および数学を使った経済学的手法の習得を目標とする。大学入試で数学を使っていない経済学の初学者でも理解できるように基本的な内容から始めるが、学部レベルの経済学を学ぶ上で必要な数学的知識の多くをカバーするため、難易度の高い内容も含まれる。具体的には、1次・2次方程式に始まり、指数・対数、数列、微分・積分とそれらの経済学への応用について学ぶ。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学	Introduction to Accounting	現在の経済活動の主要な一翼を担っているのは企業であり、その活動の実績を評価する手段として企業の財務報告が挙げられる。このように、企業会計の知識はビジネスを遂行するにあたり不可欠なリテラシーとなり、しばしばビジネスにおける言語とも言い表されることがある。本授業では主として企業会計の前提となる決算書の仕組みを理解し、企業会計が経済社会の中でどのように活用されているか理解することを目標とする。また、国際教養学部における学びを踏まえて、主要項目については、英文会計基礎もあわせて学ぶ。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学	Foundations of Political Science	本授業は、政治学への概論として、政治思想の基礎、政治体制、政治制度、国際政治を幅広く概観する。必ずしも政治学に関する基礎知識は求めないが、与えられたリーディングを読み、履修生同士のディスカッションを通じて、政治に関する議論を行う。本授業の目標は二つである。第一に、重要なコンセプト、理論的枠組みを理解し、現代社会における政治的事象を議論できるようにすること。第二に、本授業を土台に、政治学関連の他の授業へと無理なく進んでいけるようになることである。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学	Introduction to Management	本授業の目的は、経営学の基礎的な概念の理解と、それを用いて経営現象を理解・説明する能力を習得することである。抽象的な概念と、具体的な事例を相互に学ぶことを通じて、概念を適切に構築・適用するという、社会科学を学ぶ上で必要な能力を身につけることを重視する。具体的な講義内容としては、株式会社制度の成り立ちとその基本的な仕組み、製品戦略や全社戦略の策定、組織構造の設計、人的資源のマネジメント、他社との取引や提携などの組織間関係、企業の社会的責任などが挙げられる。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻経済経営学	Data Analysis: Techniques and Methods	計量経済学は数値的な情報としてのデータを統計的な手法を用いて調べる実証分析方法のひとつである。本授業は、統計学を現代社会で幅広く応用する力を身につけることを目的とし、実際のデータに対する応用が行えるようにコンピューターソフトを用いた統計処理・分析方法についても学ぶ。本授業では、分析の考え方だけでなくコンピューターを用いた分析の解説も行い、操作方法を視覚的に示すとともに、履修生は課題やレポートを通じてコンピューターによる分析を体験する。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻グローバルズ	Survey of Global Studies 1	本授業は概説講座として、グローバルスタディーズの基礎となる専門用語、トピック、理論を概観する。さらに、文化、経済、歴史、政治、社会、宗教の視点から、グローバルスタディーズの学際的性格を学ぶ。本授業の目的は、①人間関係に影響しているグローバルな課題、プロセス、事件に関する基礎的な知識や見識を習得すること、②世界的関心の的となっている問題をさまざまな利害関係者がどのように提起し、処理しているかを批判的に検討すること、③グローバル社会が直面している重大な問題に取り組み、解決する方法を考察することである。本授業では、開発、安全保障、食糧に関連する話題に重点を置く。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻グローバルズ	Survey of Global Studies 2	本授業は「Survey of Global Studies 1」で築いた基礎知識を踏まえて、引き続きグローバルスタディーズの基礎となる専門用語、トピック、理論を概観する。さらに、文化、経済、歴史、政治、社会、宗教の視点から、グローバルスタディーズに取り組み。履修生は、世界的関心の的とされる問題に批判的に取り組み、より良いグローバル社会を実現するためにそれらの問題を解決する方法を考え出すことを目標とする。本授業は、健康、エネルギー、環境に関連する話題に重点を置く。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻グローバルズ	Survey of Transcultural Studies 1	本授業は主としてグローバルスタディーズ専攻の1年次生を対象とする入門講座である。グローバリゼーションとそれに伴う地域間交流について言語と文化の側面から考察する。文化交流のダイナミズムと政治的力学を捉える複眼的な視点に基づき、異文化間のコミュニケーションと交流のプロセス、包摂と排除、翻訳と変容について検討するために、さまざまなツールや学問的アプローチを用いる。本授業は、コミュニケーション論に焦点を合わせ、この分野を概観し、人々の関心を集めている主要な問題と研究方法を示し、履修者に理解させることを目標とする。	
専門科目	専攻基礎科目	専攻グローバルズ	Survey of Transcultural Studies 2	本授業は「Survey of Transcultural Studies 1」に引き続き、異文化交流の研究を行う。交流プロセスの社会的、政治的文脈に注目し、イデオロギーや権力関係などの随伴的問題を理解するためにカルチュラルスタディーズの手法を用いる。その際に目標とするのは、例えば、民族性、国籍、階層、性別、性的志向、人種に関する問題を明らかにするために、文学、映画、その他の文化的所産や慣習を分析する方法を身につけることである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	専攻基礎科目	グローバルイニシャルズ	Global Studies 1st-Year Seminar 1	本授業は、グローバルスタディーズ専攻の1年次生を対象とした入門的立場づけの演習科目である。授業は英語で行う。アカデミック・リテラシー、さまざまなソースからの情報収集、研究成果を整理して口頭および書面で発表する方法、教室における履修生相互の協働等の基本的なスキルを身につけることを目的としている。なお、専門学修のスタートとなるよう、教材には専攻が対象としている研究分野の資料や文献を用いる。また履修生は、具体的なテーマについて自分で研究を進め、他の人たちの前で発表し、レポートを執筆する。	
専門科目	専攻基礎科目	グローバルイニシャルズ	Global Studies 1st-Year Seminar 2	本授業は、「Global Studies 1st-Year Seminar 1」の内容を踏まえて別の教員が担当する演習科目である。授業は英語で行う。アカデミック・リテラシー、さまざまなソースからの情報収集、研究成果を整理して口頭および書面で発表する方法、教室における履修生との協働作業等の基本的なスキルの他、図書館やその他の資料の利用法や資料の引用の仕方等を身につけることを目的としている。なお、専門学修のスタートとなるよう、教材には専攻が対象としている研究分野の資料や文献を用いる。また履修生は、具体的なテーマについて自分で研究を進め、他の人たちの前で発表し、レポートを執筆することが求められる。	
専門科目	専攻基礎科目	グローバルイニシャルズ	Language Learning Strategies 1	本授業は1年次生以上の学生を対象とした実習形式の授業である。教員が紹介する様々な英語学習方法の中から履修生が自分に合った学習方法を選び、本授業を履修後も自立的にかつ持続的に英語学習を進めていけるようになることを目標とする。本授業では英語の4技能や、語彙習得、文法理解および使用に関わる様々な学習方法を学び、履修生全員で一定期間実践する。例えば、リスニング力および文法能力を向上するためのシャドーイングの正しい教材の選び方、実践方法を紹介および実践する。	
専門科目	専攻基礎科目	グローバルイニシャルズ	Language Learning Strategies 2	本授業は1年次生以上の学生を対象とした実習形式の授業である。教員が紹介する様々な英語学習方法の中から履修生が自分に合った学習方法を選び、本授業を履修後も自立的にかつ持続的に英語学習を進めていけるようになることを目標とする。本授業ではそれらの学習方法を履修生の目的に合わせ組みあわせて学習計画を立て、1学期間履修生同士の意見交換や進捗状況の報告および定期的な教員の助言を受けながら各々の英語学習の目標達成を目指す。	
専門科目	専攻基礎科目	グローバルイニシャルズ	English Performance 1	本授業は演劇の上演を経験することにより、コミュニケーション英語の能力を高めることを目標とする。伝統劇や映画のシーンなどの既存の作品ばかりでなく、コマーシャルや寸劇、ミニドラマなどのオリジナル作品に取り組む。本授業では、学生が授業で演じる劇のプランニング、脚本執筆、配役の指導に重点をおき、実際の上演を経験するだけでなく、ドラマ上演に備えたプランニング、研究、協力を通じて英語のスキル向上を目指す。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	グローバルイニシャルズ	English Performance 2	本授業は「English Performance 1」で得た経験とスキルを踏まえ、引き続きさまざまなドラマのプランニング、脚本執筆および上演を行う。授業での上演の延長として、より高いレベルの内容と言語学的抽象構造を取り入れることを目指す。例えばコメディ、皮肉、アイロニーなどを用いた上演スタイルを目標とする。演劇の経験を通じて、言語を使ってオーディエンスにメッセージを伝達することに対して自信を持てるようになることを目標とする。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	グローバルイニシャルズ	Translation Interpretation Practicum 1	本授業は、ある言語から別の言語に翻訳または通訳することの複雑性について理解することを目標とした実習科目である。授業は英語(および必要に応じて日本語)で行う。英語から日本語への翻訳物や通訳の実例を取りあげ、巨視的には全般的なメッセージ伝達性、微視的にはセンテンスや単語の選択まで、批判的視点をもって分析を行う。さらに後半に行うアクティビティの対象として翻訳を取りあげ、授業担当者が選んだ課題を履修生が翻訳し、それをグループ単位で評価するという作業を行うことにより、翻訳の難しさ、コツ、面白さなどについての理解を深める。	
専門科目	専攻基礎科目	グローバルイニシャルズ	Translation Interpretation Practicum 2	本授業は、ある言語から別の言語に翻訳または通訳することの複雑性について理解することを目標とした実習科目である。授業は英語(および必要に応じて日本語)で行う。英語から日本語への翻訳物や通訳の実例を取りあげ、巨視的には全般的なメッセージ伝達性、微視的にはセンテンスや単語の選択まで、批判的視点をもって分析を行う。さらに後半に行うアクティビティの対象として通訳を取りあげ、ライブの通訳セッションをビデオ録画しておき、次回の授業で観察、批評、分析の対象とするなどして、スキルアップを目指す。	
専門科目	専攻基礎科目	グローバルイニシャルズ	Creative Writing Workshop 1	本授業は創作文の執筆を通じて、文章の流暢性、語彙の知識、英語による表現能力の向上を目標とする。短編小説、詩、情景描写、スピーチ、歌など、さまざまなジャンルの執筆に取り組む。作品の評価に際しては、第一にメッセージの伝達力、次いで言語的正確さ(文法、スペリングなど)に着目する。可能であれば、各履修生の作品について感想や意見を交換するために、インターネットを用いて発表を行う。英文執筆能力に自信を持ち、自分の作品の意味の伝達性について言語的な限界と弱点を見つける方法を身につける。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	グローバルイニシャルズ	Creative Writing Workshop 2	本授業は「Creative Writing Workshop 1」での学習内容を踏まえて、より独創性の高い創作文を執筆、発表することを目標とする。履修生は創作文による自己表現に加えて、他人の作品を分析するための独自のフレームワークを構築し、教室内やインターネット上のフォーラムで建設的な意見や感想を表明する。英文執筆能力に自信を持ち、自分の作品の意味の伝達性について言語的な限界と弱点を見つける方法をさらに磨く。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	グローバルイニシャルズ	Academic Presentation Skills 1	本授業は、プレゼンテーションを成功させるためのポイントを明らかにすることを目的とする。英語によるプレゼンテーション・スキルを徐々に高めていけるよう、プレゼンテーションを実際に行う機会を十分に与える。取り上げる主題について有益で興味を惹きつけ、記憶に残るようなプレゼンテーション方法を身につける。履修生は、ライブで、またTEDのようなウェブサイトでもさまざまなプレゼンテーションを行い、その戦略やスタイルを評価することができるようになることを目標とする。	隔年

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻基礎科目	デジタルコミュニケーション	Academic Presentation Skills 2	本授業は、「Academic Presentation Skills 1」での学習内容を踏まえ、さまざまな手法やスタイルによるプレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。難しい題材を分かりやすくするために、視覚教材を徹底して重視し、活用する。また、各履修生は、他の履修生のプレゼンテーションについて評価を行い、その評価基準の詳細を発表する。次に、それらの助言や批判を自分のプレゼンテーションに反映させ、授業を通じて学んだスキルをどれだけ自分のものにできているかを示す。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	デジタルコミュニケーション	Academic Writing Workshop 1	本授業は学術的文章を読解・執筆するための準備を行うことを目的とする。さまざまな学術的文章を取り上げ、主題文の特定、執筆者の論理とエビデンスの評価、メッセージがどれだけ明晰かつ簡潔に伝わっているかの評価に力点を置いて分析する。履修生は、その分析を通じて得られた戦略と知識を活かしながら、自分の文章作品、小論文、意見書などを実際に執筆できるようにすることを目標とする。とくに本授業では、主題文の的確性と明晰性に留意しながら、小論文の構成(序文、本文、結論)に重点を置く。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	デジタルコミュニケーション	Academic Writing Workshop 2	本授業は「Academic Writing Workshop 1」の内容に引き続いて、学術英語のスタイルで文章を構成するための講義である。さまざまな学術的文章を取り上げ、論理と根拠、そして参考資料に留意しながら分析する。執筆課題は「Academic Writing Workshop 1」よりも掘り下げたものであり、とくに論証(裏付け)、構成と質、参照の範囲、メッセージの全般的明晰性に着目する。執筆それ自体を一つのプロセスとする。本授業では、アウトライン化から多重編集、フィードバックを経て最終稿の作成に至るまでのテキスト作成プロセスに重点を置く。明晰かつ簡潔な学術英語を使って短い報告書、研究論文、学位取得論文を書けるようになることを目標とする。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	デジタルコミュニケーション	Digital Media Training (Intermediate) 1	本授業はさまざまなデジタルメディアを取り上げながら、書き言葉や話し言葉で自己表現するのに必要なデジタルメディアを効果的かつ効率的に活用するために必要なスキルを習得することを目標とする。全履修生がデジタルメディアというカテゴリーの中で使用されるツールについての基礎知識を習得するための入門編である。また、その前段階として、デジタルメディアのツールの歴史にも触れる。本授業を通じて、デジタルメディアに使われるツールについて理解し、実際の使用経験を重ねることでスキルを磨き、自分自身をデジタルメディアの消費者やクリエイターとして確立することも目標とする。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	デジタルコミュニケーション	Digital Media Training (Intermediate) 2	本授業は「Digital Media Training (Intermediate) 1」で学んだ知識とスキルを踏まえて、デジタルメディアを使ったさまざまなプロジェクトに参加することを重視する。ソフトウェアの使用、さまざまなオンライン環境での交流、視覚コンテンツの制作を経験すると共に、デジタルメディア講座プロジェクトに取り組み、そこで期中および期末にプレゼンテーションを行う。このプロジェクトの内容は、各履修生がデジタルメディアに関する知識と自信を深めるために、教室内でのディスカッションを通じて決定する。本授業を通じて、デジタルメディアに使われるツールについて理解し、実際の使用経験を重ねることでスキルを磨き、自分自身をデジタルメディアの消費者やクリエイターとして確立することを目標とする。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	デジタルコミュニケーション	Global Research Skills 1	本授業は情報研究のスキルを身につけることを目的とする。「グローバル」な視点に立つことを重視する本授業では、全世界に関連する情報を対象とし、さまざまな視点に立った多様な資料から情報を収集する。とくに、情報を批判的に評価してバイアスを特定することに留意する。学術レベルの相当量の英文を読む必要があるため、履修生には授業担当者や自分が選択したトピックについて概略分析書を作成し、短い感想文や長い研究論文を提出することが求められる。	隔年
専門科目	専攻基礎科目	デジタルコミュニケーション	Global Research Skills 2	本授業は、「Global Research Skills 1」に引き続き、情報研究のスキルを習得することを目標とする。全世界に関連するトピックを取り上げ、「Global Research Skills 1」と同様に分析する。「Global Research Skills 1」で採用した分析方法に加え、定量的、定性的な研究方法を取り上げて詳細に分析する。さまざまなタイプの研究例を対象に著者の見解を分析し、短いプレゼンテーションを行い、感想文を書き、自分の所見に基づいて議論をリードすることが求められる。	隔年
専門科目	専攻専門科目	学部共通科目	Introduction to Economics (a)	本授業は、ミクロ経済学とマクロ経済学の両方にまたがる2年次生を対象とした経済学の講義科目である。目標は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本概念、モデル、および方法を理解することである。ミクロ経済学では、消費者理論と生産者理論について幅広く講義する。マクロ経済学では総需要や総供給などの概念と政府の役割について幅広く講義する。消費者選択に関する効用最大化や政府の役割を理解するためのIS-LM分析など、具体的な理論モデルを学ぶ。履修生の理解を深め、知識を確認するために、演習問題や小テストを使用し、最後に学期末試験を行う。	
専門科目	専攻専門科目	学部共通科目	Capstone Project Seminar	本授業は、「Economics and Management Seminar1～3」や「Capstone Project Pre-Seminar」の内容を受け、指導教授の指導のもとで「Capstone Project」を完成させることを目標とする。「Capstone Project」にはさまざまな形態があるが、いずれの形態でも一貫性のある内容でなければならぬため、個別指導を行う。「Capstone Project」の制作に向け、スケジュール通り遂行できるよう、中間目標を定めフィードバックを行いながら履修生を指導する。学期終了時には、全履修生が「Capstone Project」による成果を発表する。	
専門科目	専攻専門科目	学部共通科目	Capstone Project	「Capstone Project」は、国際教養学部の最終年次において必修となる学習成果物である。研究テーマの選択にあたっては3年次までの学修を踏まえて学生が自主的に決めることが推奨されるが、執筆・作成に際しては、4年次に履修することが求められているゼミナールのなかでかならず指導教授の指導・助言を受けることとする。学問分野における規範や慣習に応じて、それぞれの専攻が定める条件に従って作成、提出することが求められ、単位認定は専攻の教員全員による審査を経て行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Principles of Accounting (a)	本授業は、財務会計と管理会計に関する基本概念について英語で講義する。財務会計、管理会計および財務報告の理論と実践について幅広く理解することを目的とし、企業会計に関する情報を読み解くための基礎知識を身につけることを目標とする。なお、本授業は、会計学分野を学ぶための基礎知識を習得したい学生やAccountingを専門分野としていない学生も対象とし、評価は期中の小テストと学期末テストにより行う。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Principles of Accounting (b-1)	本授業は、今まで学んだ財務会計・管理会計の基本概念や基礎的な会計測定・財務報告の仕組みを踏まえて、簡単な事例を用いて習得した会計知識を使いこなす力を養うことを目的とする。ビジネスにおける言語とも言い表される、この企業会計に関する情報を読み解き、自ら数字や事象が表す意味を考え、経営意思決定に資する情報の使い方を体得することを旨とする。本授業ではとくに財務会計に関する事例を取り上げて演習を行う。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Principles of Accounting (b-2)	本授業は、今まで学んだ管理会計の基本概念や基礎的な企業評価や投資意思決定の諸手法を踏まえて、簡単な設例を用いて習得した会計知識を使いこなす力を養うことを目的とする。経営の意思決定をサポートする管理会計に関する情報を読み解き、自ら数字や事象が表す意味を考え、経営意思決定に資する情報の使い方を体得することを旨とする。本授業ではとくに管理会計に関する事例を取り上げて演習を行う。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Mathematics 1 and Statistics 1 (a)	本授業では、2年次生を対象に、数学および統計学について講義する。とくに最適化に重点を置きながら微分・積分の基礎について理解することを目指す。数学分野における目標は、経済学やその他の数学関連分野の講座を履修できるようにすること、数学的手法を用いて比較的簡単な最適化問題を解くことができるようになることである。統計学分野の目標は、統計学の基本的考え方に習熟すること、確率論の基礎知識を習得し、最も一般的な統計学的手法について理解することである。数学と同様、基本的な統計手法を活用できるようにすることを目的とする。履修生の演習と理解度評価のために演習問題や小テストを使い、最後に学期末試験を行う。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Mathematics 1 and Statistics 1 (b-1)	本授業は「Mathematics 1 and Statistics 1 (a)」に引き続き、2年次生を対象に数学および統計学をさらに発展させることを目標とする。これまでに扱ったトピックを復習したうえで、数学については、単純な多変数の微分・積分を理解して応用できるようにする。さらに、それにより解決可能な最適化問題について理解を広げる。統計学については、平均と比率のような一般的な統計量の有意性についてカイ二乗検定などの正規分布以外の分布も適切に用いた推定・検定を学び、基本的な統計学的手法を使用して仮説検定を行えるようにする。また、履修生の理解を確実なものにするために演習問題や小テストを使い、最後に学期末試験を行う。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Mathematics 1 and Statistics 1 (b-2)	本授業は「Mathematics 1 and Statistics 1 (b-1)」に引き続き、主要なトピックについての理解を十分に深め、上級の講座に進むことができるようになることを目的とする。過去に学んだトピックについて復習した上で、数学では、線形代数と数列および級数のスキルを磨く。統計学については、初歩的な線形回帰分析と相関分析を行う能力を確認・習得する。本授業の目標は、数学的能力を高めることにより経済学、数学、統計学のより難しい課題に取り組めるようになること、非因果推論や変数間の相関の捉え方についての考え方を学ぶことで基本的な推計を行えるようになることである。主に模擬試験により、履修生の理解度を評価する。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Mathematics 2 and Statistics 2 (a)	本授業は、「Mathematics 1 and Statistics 1 (a), (b-1), (b-2)」で紹介した基本的な数学的方法や統計理論の知識をさらに発展させ、経済学、金融論、経営学における応用について学ぶと同時に高度な数学や統計、計量経済学について学ぶ準備をすることを目標とする。本授業の目的は以下の通りである。 ①経済学分野の科目で必要とされる微分・積分および線形代数に関するスキルを習得する。 ②計量経済学、金融論、その他の社会科学において応用される統計学の重要なトピックについて明確な理解を得る。 ③統計学および計量経済学のより専門的な講義を履修するための基礎を学ぶ。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Mathematics 2 and Statistics 2 (b-1)	本授業は、「Mathematics 2 and Statistics 2(a)」の続編として、「Mathematics 1 and Statistics 1 (a), (b-1), (b-2)」で学んだ基本的な数学的方法についてさらなる理解を深め、それらを経済学、金融論、経営学に応用することについて学ぶ。本授業の目的は以下の通り。 ①経済学分野の科目で必要とされる微分・積分および線形代数に関するスキルを習得する。 ②数学やその関連科目の講義を履修するための基礎を学ぶ準備。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Mathematics 2 and Statistics 2 (b-2)	本授業は、「Mathematics 2 and Statistics 2(a)および(b-1)」の続編として、「Mathematics 1 and Statistics 1 (a), (b-1), (b-2)」で学んだ仮説検定をはじめとする初等統計理論の知識をさらに発展させる。本授業の目的は以下の通り。 ①計量経済学、金融論、その他の社会科学において応用される統計学の重要なトピックについて明確な理解を得る。 ②統計学および計量経済学のより専門的な講義を履修するための基礎を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Introduction to Economics (b-1)	「Introduction to Economics(a)」に引き続き、ミクロ、マクロの経済学を講義する。本授業では、モデルを使って現実世界のシナリオを理解し、分析できるという高度な目標を掲げている。「Introduction to Economics(a)」の講義で取り上げた論題に加えて、ミクロ経済学では幅広い市場分野を対象とする。マクロ経済学では失業とインフレーションなど、多様なトピックを扱う。例えば、市場理論におけるクールノー競争、マクロ経済学におけるフィリップス曲線とAD-AS分析などのモデルを使用する。また、経済学で使用されるツールやモデルとそれらによって得られる結論について基本的理解を身につける。履修生の理解を深め、知識を定着させるために、Problem Setや小テストを使い、最後に学期末試験を行う。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Introduction to Economics (b-2)	本授業は「Introduction to Economics (b-1)」に引き続き、ミクロ経済学とマクロ経済学の両方について講義する。基本的な経済学の理論モデルの限界と長所を説明できる程度まで理解を深めることを目標とする。ミクロ経済学では、厚生経済分析と政府による介入に関する幅広い領域を対象とし、マクロ経済学では、開放経済と成長理論を導入することで知識を拡充する。厚生経済分析におけるエッジワース・ボックスやソーローおよびローマーによる経済成長理論などのモデルを使用する。また、経済学に関する議論・論争を理解し、参加することもできるようにすることを目標とする。履修生の理解を深め、知識を定着させるために、模擬試験を活用する。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Microeconomics (a)	本授業は中級程度のミクロ経済学について講義する。具体的には、効用最大化と需要関数、リスクと期待効用、ゲーム理論の基礎、利潤最大化と生産関数、完全競争市場の均衡、一般均衡とパレート最適、独占・寡占市場の均衡、不完全情報下の経済取引、外部性と公共財、の各トピックについて学び、ミクロ経済学の分析手法の習得を目標とする。数式およびグラフを用いてモデルの理解を深めるとともに、実社会の経済問題に対してミクロ経済学の視点からアプローチして分析を展開できる能力を養う。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Microeconomics (b-1)	本授業は「Microeconomics(a)」で学んだトピックの内容を掘り下げ、経済問題への応用例を交えて講義する。具体的には、効用関数と需要関数を用いた財の価格・所得効果、リスクに対する個人の行動が保険の選択に及ぼす影響、特定の市場における税・補助金政策の有効性、エッジワースのボックス・ダイアグラムを用いた経済主体間の取引、完全競争市場における短期および長期均衡、独占市場の均衡、自然独占市場における価格規制の有効性、寡占市場におけるクールノー均衡およびベルトラン均衡などを取り上げ、ミクロ経済学に対する理解を深め、経済問題を分析する能力を養うことを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Microeconomics (b-2)	本授業は「Microeconomics(b-1)」の講義内容をさらに深め、現実の経済問題をとり上げてミクロ経済学の分析手法に対する理解を深める。経済問題の分析例として、関税・数量割り当てなどの貿易政策に関する厚生経済学的分析、住宅の家賃に対する上限規制の影響、部分均衡モデルに基づく農家への所得補償と農作物の価格支持の比較、情報の非対称性のモデルを用いた中古車市場における走行保証の有効性、繰り返しゲームの理論を用いた企業間の共謀の分析、コースの定理に基づく環境政策の分析などを取り上げて講義を行い、理論を経済問題へ適用する能力を高めることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Macroeconomics (a)	本授業は、マクロ経済学者が提唱する最も影響力と説得力のある代表的な理論を取り上げて、生産量の決定、失業、インフレーションに関連する問題を紹介する。本授業の目的は、マクロ経済に関する様式化された事実や有名な事象を理解するための論理的枠組みを理解すること、マクロ経済学の課題について正しく説明し、政策の妥当性について評価するために適切なマクロ経済学理論について選択・説明できるようになることである。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Macroeconomics (b-1)	本授業は、「Macroeconomics(a)」に引き続き、開放マクロ経済及び成長論に関連する問題を説明するために最も影響力と説得力のある代表的な理論について理解を深めることを目的とする。本授業の目的は、マクロ経済に関する様式化された事実や有名な事象を理解するための論理的枠組みを理解すること、マクロ経済学的課題について正しく説明し、政策の妥当性について評価するために適切なマクロ経済学理論について選択・説明できるようになることである。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Macroeconomics (b-2)	本授業は、「Macroeconomics(a)および(b-1)」に引き続き、マクロ経済学のミクロ基礎に基づいた諸理論について理解を深め、さらに金融政策や財政政策のインプリケーションを再考することを目的とする。本授業の目的は、マクロ経済に関する様式化された事実や有名な事象を理解するための論理的枠組みを理解すること、マクロ経済学的課題について正しく説明し、政策の妥当性について評価するために適切なマクロ経済学理論について選択・説明できるようになることである。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Intermediate Macroeconomics 1	本授業は、「Introduction to Economics (a)」を修得した学生を対象として、中級レベルのマクロ経済学について講義する。長期的な視点に立ってマクロ経済を俯瞰することを目的とし、成長論や開放マクロ経済について、より高度なマクロ経済学概念と理論モデルについて学習する。また、履修生は国民経済計算、生産関数、インフレーションおよび失業に関する様々なモデルを理解することができるようになる。その他、本授業では「Solow model」等の特定のモデルや関連する経済史上の出来事に関するディスカッションも行い、マクロ経済が直面する長期的なトレードオフの関係についての思考法を身につけることを目指す。履修生の理解を深め、知識を定着させるために、Problem Setsや小テストを使い、最後に学期末試験を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Intermediate Macroeconomics 2	本授業は、「Intermediate Macroeconomics 1」の続編として講義する。とくに、短期におけるマクロ経済学に焦点をあて、マクロ経済学の視点から金融政策や財政政策などのトピックを取り上げる。具体的には、景気循環過程におけるマクロ経済を分析し、マクロ経済政策が経済にどのように影響するかを理解することを目的とする。「Intermediate Macroeconomics 1」と同様に、本授業では「IS/LMモデル」等の特定のモデルや関連する経済史上の出来事に関するディスカッションも行い、新聞・雑誌で取り上げられるマクロ経済に関する記事の内容を理解できるようになることを目指す。履修生の理解を深め、知識を定着させるために、Problem Setsや小テストを使い、最後に学期末試験を行う。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Elements of Econometrics (a)	本授業は、クロスセクション回帰モデルがどのように機能するかを中心に計量経済学を学ぶ。本授業の目的は、回帰分析の理論と関連手法について深く掘り下げて理解し、データを用いた実証分析と計量経済学の理論との関連、Stataのような統計解析ソフトウェアの基本的な使い方について学ぶことにある。学習のテーマは古典的な回帰モデルのほか、基本的前提からの逸脱があったときに何をすべきか、例えば、分散不均一の問題があるケースにおいて考慮すべき推定方法の変更など、多岐にわたる。本授業により、簡便かつ頑健な回帰分析を行えるようになるが、履修生の理解を深め、知識を定着させるために、演習問題や小テストを活用し、最後に学期末試験を行う。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Elements of Econometrics (b-1)	本授業は、「Elements of Econometrics (a)」に引き続き、離散選択モデルを取り入れた計量経済学を講義する。本授業では、計量経済学についての理論的理解を深め、とくに離散選択回帰モデルの活用法を学ぶことを通じて経済理論を評価できるようになることを目標とする。履修生は、Stataなどの統計解析ソフトウェアの使い方をさらに広く学び、主要な回帰プログラムを実践で活用できるようになる。その他、ロジットモデルとプロビットモデルの選択を含め、離散選択モデルをどのようなときに使用するかについて理解する。履修生が理解を深め、知識を定着させるために、演習問題や小テストを活用し、最後に学期末試験を行う。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Elements of Econometrics (b-2)	本授業は、「Elements of Econometrics (b-1)」に引き続き、計量経済学を学ぶ。時系列回帰モデルの基本要素を取り入れた基本的回帰モデルについて学部生レベルの理論を目指す。具体的には、非定常系列の取り扱いを含む時系列回帰分析および最尤推定量について基礎知識を深める。また、統計解析ソフトウェアを実際に使用する。本授業により、学術誌に掲載された幅広い実証論文を読んで理解すると共に、ミクロ、マクロのデータを用いて回帰分析を行えるようになる。履修生の理解を深め、知識を考査するために模擬試験を行う。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Data Research in Economics 1	本授業は、既に基本的な統計や経済理論について理解している2年次生以上の学生向けのデータを用いた経済分析や統計処理について学ぶ授業である。計量経済学、データサイエンス等、経済学の幅広い分野のトピックを用いて、各種データを用いた分析のための基本理論と分析方法の習得を目標とする。トピックとして、研究・分析の実施方法、英語の研究論文の読み方、回帰分析、データ収集や統計・計量経済ソフトの使い方を取り上げる。簡単なデータ収集と分析を行い、研究論文をより深く理解できることを到達目標とする。本授業では、評価と動機付けのため、学期を通じて課題を課す。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Data Research in Economics 2	本授業は、「Data Research in Economics 1」の続編として3年次生以上の学生を対象とし講義する。本授業では、「Data Research in Economics 1」で取り上げた内容を、さらに深化させる。例えば、計量経済学の手法を使って因果関係を明らかにする方法について学び、回帰分析に関するトピックを更に取り上げ、データ分析および英語の研究論文の書き方などを身につけることを到達目標とする。本授業では、評価と動機付けのため、学期を通じて課題を課す。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Topics in Economics 1	本授業は、履修者の興味関心に応じて、経済学の諸分野について学びつつ、関連するトピックについて議論し、理解を深めることを到達目標とする。そのような分野として、ミクロ経済学(価格理論、ゲーム理論、契約理論、社会選択理論、厚生経済学)、マクロ経済学(貨幣経済学、経済成長理論)、公共経済学、国際経済学、産業組織論、労働経済学、開発経済学、人口・家族経済学、金融経済学、環境経済学、農業経済学、都市経済学、法と経済学、医療経済学、教育経済学等が挙げられる。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Topics in Economics 2	本授業は、「Topics in Economics 1」に引き続き、経済学の諸分野について学びつつ、関連するトピックについて議論し、理解を深めることを到達目標とする。そのような分野として、ミクロ経済学(価格理論、ゲーム理論、契約理論、社会選択理論、厚生経済学)、マクロ経済学(貨幣経済学、経済成長理論)、公共経済学、国際経済学、産業組織論、労働経済学、開発経済学、人口・家族経済学、金融経済学、環境経済学、農業経済学、都市経済学、法と経済学、医療経済学、教育経済学等が挙げられる。「Topics in Economics 1」において学んだ分野を深く掘り下げる場合と関連分野の対象を広げる場合がある。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	International Economics (a)	本授業は、国際貿易および国際金融に関する代表的な理論モデルとその政策的な含意について広く理解することを目的とする。具体的には、貿易論においては、国際貿易のパターン(何故貿易を行うのか)を説明する代表的な理論モデルを紹介した上で、部分均衡分析のフレームワークを使って通商政策を評価する手法について学ぶ。国際金融論においては、短期的と長期的における為替相場の決定要因についての理論を紹介する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	International Economics (b-1)	本授業は、「International Economics(a)」に引き続き、国際貿易および国際金融に関する代表的な理論モデルとその政策的な含意について広く理解することを目的とする。具体的には、国際金融論において、為替の決定要因を踏まえて、開放マクロ経済における財政・金融政策についての理論的フレームワークを紹介し、通貨危機や債務危機もすくめて国家間の経済的相互依存関係についても学ぶ。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	International Economics (b-2)	本授業は、「International Economics(a)」及び「International Economics(b-1)」に引き続き、国際貿易および国際金融に関する代表的な理論モデルとその政策的な含意により深い理解を得ることを目的とする。これまでに学んだ貿易論・国際金融論分野における理論モデルや重要概念を復習すると共に、模擬試験、論評、エッセイ、レポートなどを通じて、諸理論の仮定や含意の違いを比較することを通じて政策評価に対する考え方を養う。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Industrial Economics (a)	本授業は、産業組織論に関連する理論の概要を講義し、経済学の観点からさまざまな産業における経済問題に対する理解を深める。初めに、企業に関する経済理論の基本的なモデルを学び、主にミクロ経済学の観点から企業が有する経済的な特徴を把握する。次に、企業間の戦略的な相互関連に焦点を当て、ゲーム理論モデルをもとに戦略の有効性について講義する。最後に、具体的な競争政策・産業政策・経済規制を取り上げ、経済学の観点から有効性を議論する。いずれの講義においても、実社会の経済問題にもとづいて産業組織の理論を理解することを重視し、産業をめぐる諸問題に対して経済学の知見をもとに分析を展開する能力を身につけることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Industrial Economics (b-1)	本授業は、「Industrial Economics (a)」において学んだ産業組織論に関連する理論を掘り下げて講義し、個別の産業におけるさまざまな課題に対して主にミクロ経済学の観点からアプローチする。具体的には、クールノー・ナッシュ均衡、ベルトラン・ナッシュ均衡、シュタッケルベルグ均衡などの代表的な経済モデルを用いて、企業の戦略的な行動について取り上げ、ゲーム理論モデルをもとに戦略の有効性について講義する。また、産業に関連する政策として、独占禁止法をはじめとする企業合併・買収に対する規制、製品・サービスの価格・品質に対する規制、市場への新規参入を促進するための競争政策などを取り上げ、ミクロ経済学の観点を中心として政策の有効性を講義する。これらの経済問題への理解を深めるとともに、新たな問題へアプローチする能力を高めることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Industrial Economics (b-2)	本授業は、「Industrial Economics (b-1)」において学んだ産業組織論の経済理論をもとにこれまで行われた実証分析に重点を置いて講義を行い、計量モデルを用いた実証分析の手法と分析結果について学ぶ。とくに、実証分析において明らかにされた結果と産業組織論の理論的成果との関連について重点的に講義する。具体的には、企業の生産関数・費用関数に関する計量モデルおよび消費者の需要関数に関する計量モデルを取り上げ、限界費用・価格弾力性・生産者余剰・消費者余剰などの重要な経済概念の分析手法を身につける。また、企業間の戦略的な相互関連を分析するゲーム理論モデルを取り上げ、産業構造に対する理解を深める。これらを通じて、理論と実証の両面から産業組織に関する諸問題を分析する能力を習得することを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Development Economics 1	本授業は、中級レベルの経済学、具体的にはマクロ経済学、ミクロ経済学、統計学を履修した学生向けに開発経済学のフロンティアについて講義を行うものである。成績評価は試験で行う。本授業で取り上げる内容は開発経済学の分野の中でもマクロ分析に該当するもので、成長理論、格差と経済成長、経済成長における制度の役割、教育と経済成長、援助と経済成長について理論モデル、実証分析の結果およびその問題点について学び、開発経済学の理論モデルを理解した上で、グローバル経済における途上国のマクロレベルの発展メカニズムと諸課題を理解することを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Development Economics 2	本授業は、中級レベルの経済学、具体的にはマクロ経済学、ミクロ経済学、統計学を履修した学生向けに開発経済学のフロンティアについて講義を行うものである。成績評価は試験で行う。本授業で取り上げる内容は開発経済学の分野の中でも主にミクロ分析に該当するもので、健康と栄養が生産性に与える影響、土地の所有システムと農業の生産性、途上国における融資の形態とその役割、保険の効果、インフラが経済発展に与える影響、環境問題、貿易政策について理論モデル、実証分析の結果およびその問題点について学び、開発経済学の理論モデルを理解した上で、グローバル経済における途上国のミクロレベルの発展メカニズムと諸課題を理解することを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Trade Economics	本授業は、貿易理論や通商政策について講義を行う。経済のグローバル化にかかわる基本的な概念のうち財やサービスの取引に関連する経済学的な考え方に通暁し、様々な論争の焦点について専門知識に基づいた深い理解を得ることを目標とする。実際の経済現象や政策課題に触れ、現実の経済の理解に興味を持つ履修生の期待に応えるように努めるが、経済現象や政策課題の分析は理論的なフレームワークを踏まえた形になされるべきであり、講義においても精緻な理論モデル(主にミクロ経済学のアプローチ)を扱う。なお、履修に当たっては「Introduction to Economics (a)」が履修済みであることを前提とする。	隔年

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	International Finance	本授業は、国際金融論/国際マクロ経済学(国際収支、為替、マクロ経済政策など)について講義を行う。経済のグローバル化にかかわる基本的な概念のうち通貨や金融資産の取引に関連する経済学的な考え方に通曉し、様々な論争の焦点について専門知識に基づいた深い理解を得ることを目標とする。実際の経済現象や政策課題に触れ、現実の経済の理解に興味を持つ履修生の期待に応えるように努めるが、経済現象や政策課題の分析は理論的なフレームワークを踏まえた形でなされるべきであり、講義においても精緻な理論モデル(主にマクロ経済学的アプローチ)を扱う。なお、履修に当たっては「Introduction to Economics (a)」が履修済みであることを前提とする。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Industrial Organization	本授業は、産業組織論に関連する基本的な経済理論について講義を行う。主に、ミクロ経済学の観点から産業の経済問題にアプローチし、産業構造に対する理解を深める。経済理論、実証分析、経済政策の3つの側面から個々の問題にアプローチし、産業組織に関する諸問題の分析を行う能力の向上を目標とする。具体的には、経済規制が産業におよぼす影響を社会厚生概念に基づいて論じるとともに、企業の生産関数および消費者の需要関数に関する実証分析をもとに経済規制の影響を明らかにする。また、限界費用・価格弾力性・生産者余剰・消費者余剰などの基本的な概念に関する理解を深めるとともに、実際のデータをもとにそれらを計測して産業政策の分析を行うための手法を習得する。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Environmental Economics 1	本授業は、主に経済学の視点から環境問題にアプローチし、経済活動と環境の関連性に重点を置いて講義を行う。理論的な分析をもとに環境問題の特徴を明らかにし、経済活動と環境の関連性に対する理解を深めることを目標とする。初めに、環境外部性による市場の失敗について講義を行う。その際、大気汚染・水質汚染など実際に起きている環境問題を例に取り上げ、市場の失敗の原因について学ぶ。次に、環境問題の解決を目的とした経済学的な手法に焦点を当て、理論的な観点から有効性について講義する。具体的には、ピグー税およびコースの定理を取り上げ、社会厚生概念を中心として理論的な特徴を学ぶ。最後に、市場の失敗に対する処方箋として、環境税・排出権取引などの具体的な環境政策を取り上げ、経済学の観点から有効性を議論する。本授業を通じて環境と経済の関連性をより良く理解し、経済学の観点から環境問題を分析する能力を習得することを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Environmental Economics 2	本授業は、「Environmental Economics 1」において学んだ環境経済学の知見を掘り下げるとともに、環境問題と密接に関連するエネルギー問題について取り上げ、経済学的な観点から講義を行う。具体的には、企業・家計のエネルギー需要、省エネルギー機器の選択、化石燃料および再生可能エネルギーの供給、エネルギー市場の自由化などのトピックを取り上げ、環境問題との関連性に重点を置いて講義を行う。また、環境税・排出権取引・環境補助金などの環境政策がエネルギー市場に及ぼす影響を取り上げ、経済学の観点から環境とエネルギーの関連性に対する理解を深めることを目的とする。本授業ではエネルギー問題に関する経済学の実証的な分析についても取り上げ、環境経済学の理論を現実の問題に適用して環境政策の有効性を明らかにする能力の向上を目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Business and Management in a Global Context (a)	本授業は、経営学分野について学ぶための導入的な位置づけの科目である。経営学における基礎的な概念や理論を学ぶとともに、グローバル化社会における企業活動の特徴について理解することが本授業の目的である。具体的な項目としては、企業を取り巻く環境と諸制度、国際貿易と国際投資、為替と国際金融、多国籍企業組織のマネジメント、グローバルな企業戦略の策定、国際的な研究開発投資、グローバル企業の人的資源管理などである。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Business and Management in a Global Context (b-1)	本授業は、「Business and Management in a Global Context (a)」の復習と、最終試験に向けたエッセイの指導を中心に行う。具体的には次の項目について学ぶ。企業を取り巻く政治的・経済的・法的環境および文化や倫理、宗教のもたらす企業経営への影響、外国直接投資の意思決定、地域経済、国際金融と為替、多国籍企業の経営戦略におけるCAGEフレームワークやAAAフレームワーク、ポーターの業界の構造分析、リソース・ベースド・ビューなどである。この授業を通じて、論理的なエッセイを英語で書く能力を身につけることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Business and Management in a Global Context (b-2)	本授業は、「Business and Management in a Global Context (a)」の復習と、最終試験に向けたエッセイの指導を中心に行う。具体的には次の項目について学ぶ。外国市場への参入の意思決定、海外企業とのアライアンスの締結、国際マーケティング戦略、グローバル・ブランドの構築、海外における研究開発投資、多国籍企業組織のマネジメント、国際的な調達戦略、グローバル企業の人的資源のマネジメントなどである。本授業を通じて、論理的なエッセイを英語で書く能力を身につけることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Core Management Concepts (a)	本授業では、経営学全般にわたる主な領域と経営概念の知的基盤を学ぶ。本授業の目的は、経営管理の主領域について確固とした基礎知識を身につけること、それらの領域の発展状況を概観すること、そして社会学、心理学、経済学の中でそれらの領域の学問的基盤を理解することである。本授業を履修し、必読書を読了して課題を行うことで、以下のことができるようになる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中核的な経営概念を理解している。</li> <li>・それらの概念を具体的なビジネスの状況に応用できる。</li> <li>・バランスシートやマーケティングプランなどのマネジメント・ツールを分析、評価できる。</li> <li>・社会学と商行為との関連性を説明できる。</li> </ul>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Core Management Concepts (b-1)	本授業は、「Core Management Concepts (a)」の関連科目である。「Core Management Concepts (a)」では、経営戦略論やマーケティング、経営組織論などの経営学に含まれる分野について学ぶのに対して、本授業では、会計学およびファイナンスを中心に学ぶ。具体的な学習内容は、財務会計論、管理会計論(原価計算や成果の測定など)、投資理論(リスクの評価やポートフォリオの構築など)、企業価値の評価等である。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Core Management Concepts (b-2)	本授業は、「Core Management Concepts (a)および(b-1)」の関連科目である。本授業では、「Core Management Concepts (a)」で学習した、経営戦略論やマーケティング、経営組織論などの経営学に含まれる分野について、エッセイの書き方を学習する。具体的な学習内容は以下の通りである。科学的な管理法、モチベーション理論、労使関係、経営者の役割、人的資源マネジメント、組織デザイン、意思決定とバイアス、マーケティング戦略などである。本授業を通じて、説得的なエッセイを英語で書く能力を身につけることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Business and Society	本授業は、社会と企業との関係に着目して、企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility: CSR)や企業倫理、または倫理的な消費者の在り方などの問題について講義する。これらの分野の概念や理論を学ぶとともに、グループ単位でのアクティブ・ラーニングを通じて、倫理的なビジネスを具体的に実現する方法を学習する。履修者が本授業を通じて、ビジネスを倫理的な観点から分析する能力を習得するとともに、コミュニケーション・スキルや意見の対立を解消する能力を身につけることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Leadership and Organization 1	本授業は、組織におけるリーダーシップについて講義する。とくに本授業では、リーダーシップに関する理解の前提となる組織論の主要なトピックスを紹介する。具体的な学習内容としては、組織構成員のパーソナリティやモチベーション、意思決定とバイアス、集団の形成、集団の生産性、コンフリクトの解消、組織デザイン、組織間関係、組織文化などである。これらを通じてリーダーシップを学ぶ上での基礎知識を身につける。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Leadership and Organization 2	本授業は、組織におけるリーダーシップについて講義する。とくに本授業では、リーダーシップに関する概念や理論に関する理解を深め、それを実践に応用する方法について学習することを目的とする。具体的な学習内容としては、リーダーとマネジャーの概念上の違いや、リーダーが行役できるパワーの源泉、フォロワーシップやシェアードリーダーシップ、高成果作業組織におけるリーダーの特徴、組織の危機に対応するリーダーの行動などである。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Topics in Management 1	本授業は、企業経営に関する基本的な概念や理論を網羅的に紹介し、「Topics in Management 2」におけるケース・ディスカッションを行うための企業経営に関する予備知識を身につけることを目的とする。具体的な学習内容は、国際経営論、経営戦略論、消費者行動論、マーケティング、経営組織論、人的資源のマネジメント、組織間関係、企業統治、企業の社会的責任などが挙げられる。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Topics in Management 2	本授業は、企業経営に関する近年の事例を取り上げて、経営現象が発生するメカニズムを具体的に理解することを目的とする。履修者は、授業で分析する事例を事前に調査し、授業でのディスカッションに積極的に参加することが求められる。本授業では、国際経営論、経営戦略論、マーケティング、消費者行動論、経営組織論、人的資源のマネジメント、組織間関係、企業統治、企業の社会的責任などのトピックに関連する事例について討議する。本授業は、具体的な経営現象を読み解く能力と、他者と協働し、理解を共有する能力を身につけることを目標とする。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Organisation Theory (a)	本授業は、組織論の入門講座として、心理学、社会学、経済学を取り入れた学際的アプローチに注目する。これら3つの分野を通じて組織現象を学び、理解することは、容易なことではない。しかし、多元的アプローチにより人間の営みを分析することで、優れた洞察を得て、社会学者としてのスキルを磨くことができる。 本授業の到達目標は以下の通り。 ①組織の本質的特徴を説明する。 ②それらの特徴を形作る要素について考察する。 ③さまざまな組織設計・類型の発展について説明する。 ④組織の管理者はどのように組織を構築し、修正するかを説明する。 ⑤さまざまな組織形態がその組織内の個人に及ぼす影響を説明する。 本授業のテーマは、特に「Business and Management in a Global Contexts」、「Core Management Concepts」、「Human Resource Management」に関連している。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Organisation Theory (b-1)	本授業は、「Organisation Theory (a)」の復習と、組織論に関するエッセイの指導が中心となる。とくに本授業では、組織に対する学際的アプローチの特徴や、組織と市場の比較、組織における分業と調整、組織における情報の役割、モニタリング、インセンティブとモチベーション、プリンパル＝エージェント理論、集団の形成と機能、パワーの源泉などのトピックに関連するエッセイに取り組む。本授業を通じて、論理的なエッセイを英語で書く能力を身につけることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Organisation Theory (b-2)	本授業は、「Organisation Theory (a)」の復習と、組織論に関するエッセイの指導が中心となる。とくに本授業では、組織成員をコントロールする手段としての組織文化の役割や、組織論の進化論的アプローチ、企業の境界と取引費用理論、企業の水平的な成長と多角化戦略、組織設計とコンティンジェンシー・アプローチなどのトピックに関連するエッセイに取り組み。本授業を通じて、論理的なエッセイを英語で書く能力を身につけることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Human Resource Management (a)	本授業は、人的資源管理の理論と実践について講義する。授業の到達目標は、第一に、人的資源管理と組織および個人の成果との関係を理解すること、第二に、代替的な人的資源管理についてそれぞれ批判的に検討できること、それぞれの理論の限界について言及できるようになることである。具体的な学習内容として、採用や訓練、心理的契約、報酬システム、パフォーマンス・マネジメント、職務設計。従業員の関与、多様性と機械の公平、労働経済学、高成果作業システムなどである。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Human Resource Management (b-1)	本授業は、「Human Resource Management (a)」の復習と、人的資本論に関するエッセイの指導を行うことを目標とする。具体的な学習内容は、人的資源管理の基本モデル、採用と選抜、訓練、個人の成果と態度、心理的契約、報酬システムとモチベーションなどである。これらのトピックについてより深く理解し、また人的資本論全体の中での各トピックの位置づけを把握した上で、論理的なエッセイを英語で書く能力を身につけることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Human Resource Management (b-2)	本授業は、「Human Resource Management (a)」の復習と、人的資本論に関するエッセイの指導を目的とする。具体的な学習内容は、パフォーマンス・マネジメント、職務設計、従業員の関与と参画、組織の公正、多様性と機械の公平、労働経済学、人的資源管理戦略と高成果作業システムなどである。これらのトピックについてより深く理解し、また人的資本論全体の中での各トピックの位置づけを把握した上で、論理的なエッセイを英語で書く能力を身につけることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Principles of Marketing (a)	本授業は、マーケティングの基本的な原理と実行手順を学習し、理論と実践の双方について深い理解を獲得することを到達目標とする。具体的な学習内容は、マーケティングの歴史、消費者行動、法人顧客の行動、マーケット・セグメンテーション、リレーションシップ・マーケティング、ブランディングと製品開発、イノベーション、製品ライフサイクル、プロモーション、プライシング、販売経路、企業の社会的責任などである。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Principles of Marketing (b-1)	本授業は、「Principles of Marketing (a)」の復習と、マーケティング論に関するエッセイの指導を行うことである。具体的な学習内容は、マーケティングの歴史的背景、マーケティング活動を取り巻く環境要因、消費者行動と法人顧客の行動、マーケット・セグメンテーションとターゲティング、ポジショニング、関係的マーケティングなどである。本授業は、論理的なエッセイを英語で書く能力を身につけることを目標とする。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Principles of Marketing (b-2)	本授業の目的は、「Principles of Marketing (a)」の復習と、マーケティング論に関するエッセイの指導を目的とする。具体的な学習内容は、リレーションシップ・マーケティング、ブランディング、製品開発、製品イノベーションとライフサイクル・アプローチ、プロモーション、プライシング、販売経路などである。本授業は、論理的なエッセイを英語で書く能力を身につけることを目標とする。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Organizational Behavior 1	本授業は、組織行動論の中でも主に組織設計の方法について講義する。具体的な内容としては、組織における分業と調整の方法、科学的管理法とホーソン研究、官僚制組織の機能と逆機能、組織のコンティンジェンシー理論、企業の境界と取引費用理論、プリンシパル・エージェント理論、組織文化のマネジメントなどである。これらの内容を通じて、企業組織がどのような原理で編成されているか、また、どのように組織を設計すれば高い成果を実現できるのかを学ぶことを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Organizational Behavior 2	本授業は、組織行動論のなかでもとくに組織内の個人や集団に関わるトピックについて講義する。具体的な内容としては、個人の意思決定とバイアス、モチベーション、集団の形成、リーダーシップ、集団におけるパワーの発生、コミュニケーション、集団の意思決定と集団浅慮などである。本授業では、組織における個人がその構造の中で他の人々からどのような影響を受けて行動しているか、また、個人々の行動がどのように組織全体の成果に影響を与えるかについて、理解を深めることを到達目標としている。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Introduction to International Relations (a)	本授業は、3、4年次生向けの国際関係論の講義である。本授業の目的は、現代世界の国際秩序理解の変遷を振り返ることで過去100年間における国際関係論の進展を理解すること、1648年のウエストファリア条約、ヨーロッパ帝国主義の台頭、第一次世界大戦、グローバリゼーションの影響増大など、歴史上の重要イベントが国際関係論の進展に及ぼす影響を検討すること、国際的アクターの行動と国際的諸制度の性質を分析するために役立つ理論ツールを学ぶこと、戦争、平和、国家、権力など、国際関係論における主な概念を定義、考察し、安全保障、グローバル・ガバナンス、東アジア諸国の台頭など、現代国際社会が直面する諸課題について批判的に考察することである。	隔年

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Introduction to International Relations (b-1)	本授業は、「Introduction to International Relations(a)」に引き続き、国際関係論の研究についてさらなる理解を深めることを目的とし、模擬試験、論評、小論文などを随時取り入れる。主な論題としては、20世紀における国際関係論の進展、ヴェストファリア条約、ヨーロッパ帝国主義、第一次世界大戦など歴史上の主要イベントが国際関係論の発展に与えた影響、冷戦終結後の国際システムの変容、グローバリゼーションの歴史とそれが国際関係論の主要な理論や概念の発展に及ぼした影響、国際関係学から見た世界理解における制度と無政府状態の意義、国際関係論の主流アプローチ、とりわけリベラリズム、リアリズム、マルクス主義の類似点と相違点、最近の国際関係論の理論学派、とくに構成主義、ポストコロニアリズム、国際政治経済学が提起する代替理論と政策を取り上げる。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Introduction to International Relations (b-2)	本授業は、「Introduction to International Relations(b-1)」に引き続き、国際関係論の研究についてさらなる理解を深めることを目的とし、模擬試験、論評、小論文などを随時取り入れる。主として、国家間および国内の紛争を定義、制限する上での潜在的困難、国際システムの中で数あるアクターのひとつとしての国家の果たす役割と責務、国際的パワーに関する理解の変遷、グローバリゼーションと冷戦終結が各国の安全保障の枠組みに及ぼす影響、アジア諸国(とくに中国)の台頭が国際システムの単位、プロセス、構造に及ぼす影響について取り上げ講義する。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	International Political Economy (a)	本授業は、国際経済学と国際政治学の接点としての国際政治経済学について講義する。貿易、金融、生産、開発という経済的問題を扱うが、グローバルレベルでの交流や変化のパターンを理解するためには国際政治と国際経済を一体として捉える必要があるという前提に立ち、経済理論の観点から捉えるのではなく、国際関係論の概念からアプローチする。国際関係論の概念に触れ、国家間ならびに国家と非国家主体(企業、社会的集団、国際機関など)の間の経済的関係に関する知見や文献に向き合う。本授業を履修することで達成される目標は次の通り。国際政治と国際経済におけるグローバル規模の統合と分業過程について理解を深める。国際政治経済における連続と変化の原因について把握する。国際政治経済の思想の歴史について理解する。国際政治経済への異なる理論的アプローチについて区別し批判的に評価する。国際政治経済における国家・国際組織・非国家アクターの役割について説明できる。国家の対外政策が直面する経済的課題について理解する。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	International Political Economy (b-1)	本授業は、「International Political Economy(a)」に引き続き、国際政治経済学についての理解を深めることを目標とする。模擬試験、論評、エッセイ、レポートによって評価を行う。論題としては、国際関係における経済的要素、グローバリゼーションのコンセプト、グローバリゼーションの新しい動き、グローバリゼーションとそれに伴う不満、初期の重商主義、19世紀の重商主義、ハミルトンとリスト、古典的リベラリズム、自由貿易リベラリズム、20世紀の自由主義理論、相互依存の考え方、国際機関と国際レジーム、カール・マルクスとマルクス主義、レーニンと帝国主義理論、従属理論と低開発、現代の新マルクス主義理論を取り上げる。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	International Political Economy (b-2)	本授業は「International Political Economy (b-1)」に引き続き、国際政治経済学についての理解を深めることを目標とする。模擬試験、論評、エッセイ、レポートによって評価を行う。取り上げる論題は、貿易理論、GATTの創設、GATTに基づく貿易の自由化、新保護主義の台頭、WTOの創設からドーハラウンドへ、ブレトン・ウッズ体制の成立と衰退、ブレトン・ウッズ後のグローバル金融秩序、IMFと国際債務危機、金融危機、発展的思考の展開、ワシントンコンセンサスとその後、発展論争の現在、グローバル経済における多国籍企業と海外投資、グローバル企業の台頭、国家と企業の流動的関係、環境に関するさまざまな見方、初期の国際環境政治学、1992年リオ地球サミットから2002年ヨハネスブルグ・サミットとその後、持続可能な発展、気候変動の課題、地方分権主義、欧州連合、南北アメリカとアジアにおける地方分権主義、地域貿易協定とWTOである。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Introduction to Political Science (a)	本授業は、グローバル化した世界における政治学の入門編として、国家間の相違とその歴史の変遷を政治学がどのように理解し、説明しようとしているかに注目する。現代政治学における基本的な理論的概念と研究方法を紹介し、それらの概念で政治行動、政治制度および政策結果について考察する。本授業の主な目的は、民主的政権と非民主的政権の主な相違点、ならびにさまざまな民主的政府の間の差違を認識すること、政治的選好がどのように形成され、選挙民がどのように行動し、政党間でどのような競争が展開され、利益団体がどのように行動を形成するかを理解すること、大統領制と議院内閣制、単独政権と連立政権、連邦主義、裁判所と中央銀行制度など、政治制度がどのように機能するかを理解すること、そして、政治行動や政治制度が経済的成果、公共支出、移民・環境政策などの政策結果にどのように影響するかを説明できるようになることである。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Introduction to Political Science (b-1)	本授業は、「Introduction to Political Science(a)」に引き続き、政治学についてさらなる理解を深めることを目的とし、模擬試験、論評、エッセイ、レポートを随時取り入れる。論題としては、「民主主義の手続き的、実質的理解」、「民主主義の評価と歴史上の民主国家の数、民主化の説明(政治風土、経済社会の近代化、社会集団間の制度的契約)」、「現代政治科学の歴史、合理的選択と制度的説明の違い、定性的方法と定量的方法の違い」、「退行についての基本的理解」、「政治的選好の2つの主特徴(経済、社会)」、「左派・右派はなぜ普遍的現象なのか」、「表現的投票と戦略的投票の違い」、「階級解体と脱物質主義」、「選挙競争のダウズ理論と政党政治の亀裂モデル」、「民主国家における政党の数と位置」、「2種類の選挙制度(多数決制と比例代表制)」、「選挙制度の設計におけるトレードオフ」、「選挙制度が政党間競争と投票行動に及ぼす影響」について講義する。	隔年

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Introduction to Political Science (b-2)	本授業は、「Introduction to Political Science(b-1)」に引き続き、政治科学についてさらなる理解を深めることを目的とし、模擬試験、論評、エッセイ、レポートを随時取り入れる。論題としては、「大統領制、議院内閣制、半大統領制の相違と成果(体制維持、政策決定、説明責任など)」、「世界における単独政権と連立政権の形態」、「連立政権形成の理論」、「単独政権、連立政権、少数与党政権の政策的含意」、「中央集権制、分権制、連邦制の相違、中央集権化と分権化の原因と帰結」、「プリンシパル=エージェント理論と政治家が独立機関に権限を委任する理由」、「経済的成果と公共支出のバターン」、「政治制度と政党選好が経済政策の結果に及ぼす影響」、「福祉国家のモデル」、「市民が再分配政策を選ぶのか、それとも再分配政策がそれに対する市民の態度を方向付けるのか」、「民主主義社会における環境政策と移民政策の相違、環境保護政策の成果に政府間で差違が生じる理論的背景」、「コモンズ問題の悲劇、移民流入に影響するプッシュ要因とプル要因」、「制度と政治的選好が移民政策の成果に及ぼす影響」を取り上げる。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Comparative Politics 1	本授業は、政治学の4つのサブフィールドの一つである、比較政治に関して概観する。政治がどのように運営されるのか基礎を学び、日本を含む様々な国々における政治的・社会的・経済的事象について理解を深めることを到達目標とする。何故ある国は他の国よりも民主主義が安定するのか、何故福祉政策は国によって大きく異なるのか、政治制度はどのように経済成長に影響を与えるのか、いかなる場合において民族的な帰属意識が政治化して選挙等の政治的帰結をもたらすのか、暴動やテロ等の暴力行為はなぜ発生するのか、等の幅広いテーマを扱う。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Comparative Politics 2	本授業は、「Comparative Politics1」に引き続き、比較政治分析に必要な概念、分析ツール、理論的枠組みについて取り扱う。とくに、政治家や市民の行動を規定する重要な政治制度に焦点を当てる。そのような制度として、民主主義と権威主義、政党と政党システム、選挙制度、大統領制と議院内閣制、司法制度、議会制度等が挙げられる。これらの制度が、実際の国々でどのように異なり、各国の政治にどのように影響を及ぼしているか理解を深めることを到達目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Topics in Politics and International Relations 1	本授業は、履修生の興味関心に応じて、政治学における重要なトピックについて議論し、理解を深めることを到達目標とする。本授業は主に国内政治や比較政治におけるトピックを扱う。前半では政治学の基本的な理論として、民主主義、政治制度、政治体制等について概観し、理解を確認する。後半では、より進んだトピックへと視点を移し、先進民主主義国の政治、日本の政治、アジアの政治、社会運動、不平等と貧困、選挙運動、イデオロギーと投票行動、政治参加等から、履修生の興味関心に応じたものを選択しつつ議論する。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Topics in Politics and International Relations 2	本授業は、履修生の興味関心に応じて、政治学における重要なトピックについて議論し、理解を深めることを到達目標とする。本授業では主に国際政治や外交政策におけるトピックを扱う。前半では国際政治学の基本的な理論として、現実主義的アプローチや国際社会のあり方等について概観し、理解を確認する。後半では、より進んだトピックへと視点を移し、戦争と安全保障、NGOと国際レジーム、国境を超える企業と政府の規制、内戦と民族紛争、国際組織、東アジアの国際関係、アメリカの対外政策、日本と周辺諸国との外交史等から、履修生の興味関心に応じたものを選択しつつ議論する。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Business Analytics (a)	本授業は、ビジネス・シーンで役立つ基礎的なデータ分析に関する能力を高めることを目的とする。 本授業を履修し、必読書を読了して課題を行うことで、以下の能力が身につく。 ・データを可視化する能力 ・記述統計量の理解 ・多変数の関係性について統計的に分析する能力 ・ベイズ統計学の基礎知識 ・確率と確率分布の概念の理解 ・正規分布の知識 ・二項分布の知識 ・ポアソン分布の知識 ・指数分布の知識 ・ビジネスの意思決定の際に、上記知識を利用する能力	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Business Analytics (b-1)	本授業は、Business Analytics (a)に引き続き、ビジネス・シーンで役立つデータ分析能力を高めることを目的とする。 本授業を履修し、必読書を読了して課題を行うことで、以下の能力が身につく。 ・Excel(スプレッド・シート・ソフトウェア)を使って統計分析を行う能力、またデータの持つ重要なメッセージを可視化する能力 ・Tableau(データ可視化ソフトウェア)を用いて統計分析する能力、またデータの持つ重要なメッセージを可視化する能力 ・不確実性の下での意思決定モデルへの理解 ・標本抽出の知識(層化抽出法、クラスター抽出法など)	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Business Analytics (b-2)	<p>本授業は、Business Analytics (a)および(b-1)に引き続き、ビジネス・シーンで役立つデータ分析能力を高めることを目的とする。</p> <p>本授業を履修し、必読書を読了して課題を行うことで、以下の能力が身につく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標本分布から母集団を推計する能力</li> <li>・中心極限定理の知識</li> <li>・信頼区間の推定</li> <li>・仮説検定の知識</li> <li>・数理モデルの幅広い適用</li> <li>・回帰分析の知識</li> <li>・R(統計分析ソフトウェア)を使って回帰分析を行う能力</li> <li>・モンテ・カルロ・シミュレーション・モデルの理解</li> <li>・統計分析の限界を知るとともに、誤った分析を批判できる能力</li> </ul>	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Economics and Management Seminar 1 (a)	<p>本授業は、ゼミ活動の基礎力作りを到達目標とする。ゼミ活動の基礎知識として以下の事柄を身につける。</p> <p>論証構造の作り方(結論、根拠、導出の適切性の確認)、Critical thinkingの仕方(批判と異論を唱えることの違いの確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「批判」の方法論(根拠に対する批判と導出に対する批判の区別)</li> <li>・効果的なプレゼンテーション(わかりやすいパワーポイントの作り方)</li> <li>・「建設的」議論の仕方(批判を重ねながら結論を導く手法)</li> <li>・読書ノートのつけ方(知の技法としての読書の技術)</li> <li>・レジュメの作り方(効果的なメモの作成方法)</li> </ul>	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Economics and Management Seminar 1 (b)	<p>本授業は、読書の仕方の習得を到達目標とする。ゼミ担当教員が指定した参考文献(図書、論文、雑誌記事)の輪読を行う。ゼミ生は各自読書ノートをつけながら担当箇所を読み、レジュメを作成し、パワーポイントを使用して発表する。その際 Critical thinkingを実施し、「納得できたところ」と「納得できなかったところ」を明確にし、各自の研究テーマの参考とする。</p> <p>①図書に関しては2週間で1冊を目標とする。 ②論文は1週間で1本を目標とする。 ③雑誌記事は1週間で3本を目標とする。</p>	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Economics and Management Seminar 2	<p>本授業は、資料収集方法の習得と協働作業の仕方をつけることを目標とする。各自で興味のあるテーマを見つけ、参考文献を収集し、その内容をゼミで発表する。参考文献は、新聞、雑誌記事、学術論文、図書についてそれぞれ1点以上とする。内容の発表の際にはCritical thinkingを実施し、「納得できたところ」と「納得できなかったところ」を明確にし、各自の研究テーマの参考とする。また、各自持ち寄ったテーマが似ている者同士でグループを作り、自らが収集してきた資料を基に議論を行い、事実確認ができているところ、できていないところを把握し、今後の研究テーマとする。</p>	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Economics and Management Seminar 3 (a)	<p>本授業は、統計データ分析の基礎力作りを到達目標とし、統計データ分析の演習を行う。ゼミ担当教員が指定したデータから重要なメッセージをくみ取れるかどうか、履修生が各自作業を行う。相関図、相関係数、箱ひげ図、回帰分析など統計学の知識を使用しながら行う。使用する統計データは日本の官公庁のサイトに掲載されているデータや、IMF、世界銀行、国連、外国政府のサイトに掲載されているデータを使用し、ソフトはマイクロソフト・エクセルを使用する。</p>	
専門科目	専攻専門科目	専攻経済経営学	Economics and Management Seminar 3 (b)	<p>本授業は、統計ソフトの使用方法和統計データの収集方法の習得を目標とする。Tableau、R、RStudioなどのフリーな統計ソフトを中心に、統計分析ソフトの使用方法を習得する。エクセルではできない高度な分析を試みる。また、ゼミ担当教員が設定したテーマに関し、履修生各自が重要と思われる統計データの収集を行い、統計ソフトを使用して分析を行う。分析内容はゼミ内で各自パワーポイントを使用し発表する。</p>	
専門科目	専攻専門科目	専攻グローバルズ	Topics in Foreign Policy and Diplomacy 1	<p>外交政策とは何か。外交術とは何か。それらどのように結びついているか。どう違うか。本授業は入門講座として、外交政策および外交術の基礎知識としての用語、トピック、理論を概観する。当然ながら、国際政治の主体、目的、資源、戦略に注目する。さらに、外交政策の枠組みの中で外交の形態と役割を分析する。本授業によって、外交の歴史と進展、そして外交政策分析の多様な方法を理解し、評価できるようになることを目標とする。なお、履修生には、広報外交の分野における外交官の潜在的役割を分析してもらう。</p>	
専門科目	専攻専門科目	専攻グローバルズ	Topics in Foreign Policy and Diplomacy 2	<p>本授業は、外交政策および外交術の入門講座として、これらの分野の基礎知識としての用語、トピック、理論を概観する。外交の歴史と進展、そして外交政策分析の方法について理解を深めることを目標とする。また、外交政策上の選択肢および現代の外交の規範と慣習についても認識を高めることができる。「Topics in Foreign Policy and Diplomacy 1」と同様に、広報外交の分野で外交官が果たす潜在的役割を分析してもらう。</p>	
専門科目	専攻専門科目	専攻グローバルズ	Survey of Futures Studies 1	<p>本授業は、未来学の基礎となる専門用語、諸テーマ、および理論を概観することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。平和・公正・暮らしやすさが実現された未来の社会像とはいかなるものか、起こり得る出来事も考慮にいれながら考察を行う。履修生には、こうした議論を通じて、自分にとって望ましい未来とはいかなるものかを考える機会を与える。具体的には、Dator、Inayatullah、Lumなど、「マノア未来学派」の哲学や方法論などを取り上げる。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	グローバルイニシアチブ	Survey of Futures Studies 2	本授業は、未来学の基礎となる専門用語、諸テーマ、および理論を概観することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。平和・公正・暮らしやすさが実現された未来の社会像とはいかなるものか、起こり得る出来事も考慮にいれながら考察を行う。履修生には、こうした議論を通じて、自分にとって望ましい未来とはいかなるものかを考える機会を与える。具体的には、Masini, Bell, Slaughter, Gidleyらの哲学や方法論などを取り上げる。	
専門科目	専攻専門科目	グローバルイニシアチブ	Survey of Comparative Politics 1	本授業は、比較政治学の基礎知識となる専門用語、トピック、および理論を概観することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。代表的な民主国家と考えられる国々に着目し、系統的比較を行うとともに、非民主主義体制もしくは民主国家へ移行しつつある国家体制についても焦点をあてる。類似点や相違点に着目しつつ政治体制を比較することにより、さまざまな地域(北米、中南米、アジア、アフリカ、ヨーロッパ)で政治がどのように実践されているかについて理解を深めることができる。本授業では、制度、文化、非暴力、集団行動といったテーマ主に扱う。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルイニシアチブ	Survey of Comparative Politics 2	本授業は、比較政治学の基礎知識となる専門用語、トピック、および理論を概観することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。代表的な民主国家と考えられる国々に着目し、系統的比較を行うとともに、非民主主義体制もしくは民主国家へ移行しつつある国家体制についても焦点をあてる。類似点や相違点に着目しつつ政治体制を比較することにより、さまざまな地域(北米、中南米、アジア、アフリカ、ヨーロッパ)で政治がどのように実践されているかについて理解を深めることができる。本授業では、官僚制、政権、政権交代、福祉国家、汚職、政治行動といったテーマを主に扱う。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルイニシアチブ	Global Civics 1	本授業は、グローバル市民学の専門用語、テーマ、理論を概観することにより、この研究分野の基礎知識を得ることを目的とした入門的な講義科目である。授業は英語で行う。今日おこなわれている様々な交流の意義と成果を確認し、それらの交流がグローバルコミュニティの形成にどのように寄与しているかを検討する。また、コミュニケーション、文化、経済、政治、社会、宗教など、幅広い視野と分野を通じて、グローバル市民学の学際的性質を学ぶ。履修生には、世界の諸問題に関心をもちながら本授業に参加することを条件とする。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルイニシアチブ	Global Civics 2	本授業は、グローバル市民学の専門用語、テーマ、理論を概観することにより、この研究分野の基礎知識を得ることを目的とした入門的な講義科目である。授業は英語で行う。今日おこなわれている様々な交流の意義と成果を確認し、それらの交流がグローバルコミュニティの形成にどのように寄与しているかを検討する。また21世紀の生活に根付いている世界のさまざまな価値観、民族、基準を概観し、さらに、日本で育成され、日本人が世界に発信している国内版グローバル市民とその展望について分析を行う。履修生には、世界の諸問題に関心をもちながら本授業に参加することを条件とする。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルイニシアチブ	Survey of Political Ideas 1	本授業は、政治思想の基礎となる専門用語、諸テーマ、理論を概観することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。政治思想史の主要文献を読み、そこに提起されている政治的、社会的秩序構築に関する問題を考察する。さらに政治思想家たちについて、政治的信条と提案を正当化するための論拠の組み立て、同時代の政治的問題への対処、物質とニーズ、正義、民主主義、個人と国家の適切な関係性などをめぐる議論といった観点から、その思想内容を検証する。その関連で、政治的原理、制度、政策、改革について、賛否のありかたについても学ぶ。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルイニシアチブ	Survey of Political Ideas 2	本授業は、政治思想の基礎となる専門用語、諸テーマ、理論を概観することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。政治思想史の主要文献を読み、そこに提起されている政治的、社会的秩序構築に関する問題を考察する。さらに政治思想家たちについて、政治的信条と提案を正当化するための論拠の組み立て、同時代の政治的問題への対処、物質とニーズ、正義、民主主義、個人と国家の適切な関係性などをめぐる議論といった観点から、その思想内容を検証する。その関連で、国家、社会、政治的責務、徳、立憲主義、民主主義、自由、正義、共同体、尊厳など、いくつかの政治的概念についても学ぶ。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルイニシアチブ	Peace Studies 1	本授業は、平和学の基礎知識となる専門用語、関連テーマ、理論を概説することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。平和と正義の概念とコブラクティクスとは何か、正しい平和に寄与する運動と体制は何か、何が障害になるか、より正しく平和な世界にするために社会や個人は何かができるかなどの問いに対して文化、経済、歴史、政治、社会、宗教などを含む幅広い視点から、考察を行う。本授業の主要テーマとして、紛争分析、非暴力的活動、暴力防止、軍国主義などが挙げられる。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルイニシアチブ	Peace Studies 2	本授業は、平和学の基礎知識となる専門用語、関連テーマ、理論を概説することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。「Peace Studies 1」で学習した基礎知識をもとに、引き続き、経済的、社会的、政治的、環境的側面から平和学に関する理解を深める。さらに個人のもつ仮定・利点・限界や、社会が平和と紛争に取り組むためのアプローチを確認し、比較・評価する。また、「Peace Studies 1」に主要テーマとして取り上げた紛争分析、非暴力的活動、暴力防止、軍国主義についても再検討を行う。本授業の主要テーマとして、修復的正義、紛争転換、環境正義、平和構築などが挙げられる。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	専攻ロードイバ ルズ Communication Studies 1	本授業は、対人コミュニケーション、自己開示、リスニング、ストラテジー、非言語的コミュニケーション、ジェンダーとコミュニケーション、情緒と意見の表明、自己主張、メッセージの解釈などの概念の研究と分析を通じて、コミュニケーション研究について学ぶことを目的とする。意思伝達経路を確立するためのさまざまな戦略を評価すると共に、コミュニケーションの断絶とそれに寄与する要因について分析、考察する。本授業は、講義のほか、大小のグループ・ディスカッション、短いビデオ・プレゼンテーション、ホームワーク・プロジェクト、プレゼンテーション、クイズ、試験で構成される。本授業を通じて、コミュニケーションのスキルと戦略を見つけて理解し活用する能力、そしてコミュニケーションの場に参加する能力を高めることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻ロードイバ ルズ Communication Studies 2	本授業は「Communication Studies 1」で学んだ知識とスキルを前提として、コミュニケーションの場で体験するさまざまなエンカウターの例を取り上げ、そこに現れる現象について講義する。本授業は、コミュニケーションの場で観察されるさまざまな特徴を指摘できるようになることを到達目標とする。また、コミュニケーションを通じた対人関係の強化、ステレオタイプ化、偏向表現、紛争解決の諸理論について考察する。本授業は、講義のほか、大小のグループ・ディスカッション、短いビデオ・プレゼンテーション、ホームワーク・プロジェクト、プレゼンテーション、クイズ、試験で構成される。本授業を通じて、コミュニケーションのスキルと戦略を見つけて理解し活用する能力、そしてコミュニケーションの場に参加する能力を身につける。	
専門科目	専攻専門科目	専攻ロードイバ ルズ Second Language Studies 1	本授業は、第二言語の教育および学習に関連するさまざまな要素を概観することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。とくに第二言語としての英語を中心に、学習および教育に主眼を置きながら、同時に他言語にも必然的に当てはまる理論、プロセス、方法について論じる。具体的には、臨界期仮説、言語干渉、動機付け、誤り訂正、化石化、言語変種、言語類型論、形態論、統語論などの諸概念が考察対象となる。本授業は、言語の学習・教育プロセスについて理解するとともに、自身の今後の学習の道筋を知り、さらには第二言語の習得を目指す他の人たちをサポートする教員等になるための力量を向上させることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻ロードイバ ルズ Second Language Studies 2	本授業は「Second Language Studies 1」に引き続き、第二言語の教育および学習に関連するさまざまな要素を概観することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。まずは「Second Language Studies 1」で取り上げた諸概念を復習したうえで、第二言語検定試験、教育方法、他者との間でのインプットとアウトプットの役割について詳説する。本授業は、言語の学習プロセスについて理解するとともに、自身の今後の学習の道筋を知り、さらには第二言語の習得を目指す他の人たちをサポートする教員等になるための力量を向上させることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻ロードイバ ルズ World Englishes 1	本授業は、「World Englishes」の現象について詳説したうえで、世界各地で使用される多様な英語について概観することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。「World Englishes」の成立を促した歴史的、政治的、社会的要因とその多様な用法について考察を行う。具体的テーマとしては、アイデンティティ、標準化、差別化などの問題を取りあげ、英語の多様性と関連付けながら検討する。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻ロードイバ ルズ World Englishes 2	本授業は、「World Englishes」現象について詳説したうえで、世界各地で使用される多様な英語について概観することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。「World Englishes 1」で学んだことを踏まえ、世界における英語のさまざまな変種について考察を行う。具体的テーマとしては、ネイティブ・非ネイティブの英語の使い手たちによる各ヴァリエーションの受け止めかた、各種の英語検定試験の創設と言語権をめぐる諸問題などについて取り上げ、検討する。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻ロードイバ ルズ Media Communications 1	現代社会のメディアコミュニケーションに関する諸要素を検討する。それらの要素には、メディアと社会の関係性、メディアの歴史とそれが社会で果たす役割、テクノロジーと経時的に起きる変化、新聞、ラジオ、テレビの発達、映画、書籍、広告の役割とインターネットの出現などがある。本授業は、メディアと社会が互いにどのように影響し合っているかについて理解を深めることを目標とする。それにより、メディアやメディアが発信するメッセージ、メディアが社会で果たす役割を解釈、分析する能力を身につける。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻ロードイバ ルズ Media Communications 2	本授業は、「Media Communications 1」に続き、現代社会のメディアコミュニケーションに関する諸要素を考察する。「Media Communications 1」で取り上げたテーマに加えて、メディアがプロパガンダの流布に果たす役割、最近話題にされる「フェイクニュース」の現象、「ファクト・チェック」を行う報道機関、フィルターバブルなどの発達について検討する。本授業は、メディアと社会が互いにどのように影響し合っているかについて理解を深めることを目標とする。それにより、メディアやメディアが発信するメッセージ、メディアが社会で果たす役割を解釈、分析する能力を身につける。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	グローバルイノベーションズ Language & Communication Barriers 1	本授業は、言語とコミュニケーション障害について、2つの包括的な視点から概説する。1つめは、言語や方言の違い、あるいは文化の違いに起因するコミュニケーションの障害である。本授業では、コミュニケーションの断絶の特徴を深く理解するために、具体的事例を示して分析し、考察を加える。さまざまなコミュニケーション環境を分析しながら、例えば個人差、ジェンダー問題、知覚要因を取り上げて考察する。本授業の到達目標は、コミュニケーションの妨げとなるさまざまな状況を分析し、コミュニケーションの成功に必要な要素について知識を習得することである。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルイノベーションズ Language & Communication Barriers 2	本授業は、「Language&Communication Barriers 1」で使用した資料と習得した知識を踏まえ、引き続き言語とコミュニケーション障害について講義する。本授業では、言語とコミュニケーション障害を考えるための第2の視点に主眼を置く。それは、物理的制限とハンディキャップである。それは、環境因子から失読症、言語障害、聴覚障害、難聴など、個人の身体的障害まで、多岐にわたる。身体障害には多様な形態があるが、とくに言語障害については、表出性障害と受容性障害、発達障害または遅発性障害などを含めて検討する。本授業の到達目標は、コミュニケーションの妨げとなるさまざまな状況を分析し、コミュニケーションの成功に必要な要素について知識を習得することである。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルイノベーションズ Translation & Interpretation Studies 1	本授業は、翻訳学の概略を示したうえで、そこにある重要な課題を解説し、翻訳者・通訳者がこれまでに取り組んできた課題に関連する理論と実践的アプローチを紹介することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。ある言語で表現された考えを独自の語彙形式、文法形式を持ち、しかも多様な文化的、民族的価値観を担っている他の言語に変換することには、多重的な困難が伴うという基本認識のもと、言語能力のみならず、歴史的、社会的、文化的文脈に対する理解が要求される学際的活動としての翻訳と通訳について考察する。前学期は、いくつかの重要概念の定義を確認し、さらに機械翻訳も含め、等価性の観点から生じるいくつかの問題に取り組む。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルイノベーションズ Translation & Interpretation Studies 2	本授業は、翻訳学の概略を示したうえで、そこにある重要な課題を解説し、翻訳者・通訳者がこれまでに取り組んできた課題に関連する理論と実践的アプローチを紹介することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。ある言語で表現された考えを独自の語彙形式、文法形式を持ち、しかも多様な文化的、民族的価値観を担っている他の言語に変換することには、多重的な困難が伴うという基本認識のもと、言語能力のみならず、歴史的、社会的、文化的文脈に対する理解が要求される学際的活動としての翻訳と通訳について考察する。具体的には、翻訳可能性の問題、翻訳における規範的アプローチと記述的アプローチ、翻訳者が置かれた立場と翻訳の目的が翻訳・通訳のプロセスに与える影響、ジェンダーやポストコロニアルの視点等のテーマを扱う。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルイノベーションズ Cultural Representations 1	本授業は、文化的な産物や行為について批判的に考察するための基礎知識を身につけることを到達目標とした講義科目である。授業は英語で行う。互いに相矛盾する文化の定義を検討し、社会生活における文化やアイデンティティーの役割に関する有力な理論を取り上げると同時に、個々のテキストや文化表象を分析する。また、自己と他者の関係において異なる捉え方をすることについて考える機会を与える。	
専門科目	専攻専門科目	グローバルイノベーションズ Cultural Representations 2	本授業は、社会生活における文化とアイデンティティーの役割について「Cultural Representations 1」で取り上げた理論を踏まえて、幅広い文化的な産物および行為について考察する講義科目である。授業は英語で行う。「文筆文化」や「記憶研究」などの批判的理論を考察することにより、文化的な産物の創出を導くポリティクスを理解することも本授業の到達目標である。履修生はこの授業を通じて、映画、テレビ番組、写真、美術、SNSなどにおける文化表象を批判的に分析できるようになる。	
専門科目	専攻専門科目	グローバルイノベーションズ Global Literatures in English 1	本授業は、英語で読める文学作品を対象として、そこに描かれたさまざまなグローバルな問題・課題について考察を加えることを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。本授業では、英語文学にかかわる用語についての定義の問題のほか、世界文学の研究における言語的、文化的帝国主義の危険性について論じるところからはじめる。その後には考察する具体的なテーマとしては、レイシズム、植民地主義、国籍と多国籍、離散、混血などが挙げられる。	
専門科目	専攻専門科目	グローバルイノベーションズ Global Literatures in English 2	本授業は、英語で書かれた文学作品を読みながらさまざまな世界規模の課題について考察を加えることを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。検討対象とするテーマとしては、自然、環境、移民と国境、階級と不平等、宗教的・非宗教的アイデンティティー、ジェンダーとセクシャリティーの文化的差違、技術の進歩、人権および非人権をめぐる問題などを取り上げ、これらの問題をグローバル化の影響という観点から考察する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	グローバルズ	Japanese Studies 1	本授業は英訳された上代日本の文献(『古事記』『日本書紀』『風土記』)をとおり、日本神話の神々と主たるナラティブを受講生に紹介する。日本神話を比較的文化史的に考察するために、日本以外の世界神話と合わせて読むことにする。また多分野に渡る画期的な神話研究、例えばクロード・レヴィ=ストロース、カール・ユング、ジークムント・フロイト、ジョセフ・キャンベル、ミルチャ・エリアーデなどによる著書を紹介しながら文献を読み進めていく。日本神話研究の基礎的な知識を身につけることを目的としており、授業においては、特定の文献における具体的な事例を取りあげくわしく論じるとともに、ときに意見を述べたり、討論などの機会を設け、自らの考えを伝えることによって理解を確かなものにするのを到達目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	グローバルズ	Japanese Studies 2	本授業は日本語を比較研究の観点から考察し、昔話研究の基礎的な方法論および文献資料を受講生に紹介する。様式や構造、モチーフなど、日本語の主要な特徴を、世界の昔話や伝説と比較しながら検討していく。さらに日本および世界の昔話を読むだけではなく、受講生は日本における民俗学の歴史についても学ぶ。柳田国男や折口信夫など、著名な民俗学者による英訳された著書や論文を読んで議論することになる。「Japanese Studies 1」で学んだことを踏まえ、日本語研究の基礎的な知識を身につけることを目的としており、授業においては、特定の文献における具体的な事例を取りあげくわしく論じるとともに、ときに意見を述べたり、討論などの機会を設け、自らの考えを伝えることによって理解を確かなものにするのを到達目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	グローバルズ	Topics in Japanese Culture 1	本授業は、グローバルな文脈のもとで日本文化を考察する英語で行う講義科目である。特定の歴史的・文化的事象を取りあげ、その内容をくわしく論じるとともに、その交流文化史的な意義を検討する。日本をめぐる交流文化史の基礎的な知識を身につけることを目的としており、授業においては、特定の時代における具体的な事例を取りあげ、くわしく論じるとともに、ときに意見を述べたり、討論などの機会を設け、自らの考えを伝えることによって理解を確かなものにするのを到達目標とする。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルズ	Topics in Japanese Culture 2	本授業は、グローバルな文脈のもとで日本文化を考察する英語で行う講義科目である。特定の歴史的・文化的事象を取りあげ、その内容をくわしく論じるとともに、その交流文化史的な意義を検討する。「Topics in Japanese Culture 1」で学んだ日本をめぐる交流文化史の基礎的な知識を踏まえ、文化事象にあわせてアジアやヨーロッパなど日本と交流のあった地域の文化史についても学ぶことを目的としており、特定の時代における具体的な事例を取りあげくわしく論じるとともに、ときに意見を述べたり、討論などの機会を設け、自らの考えを伝えることによって理解を確かなものにするのを到達目標とする。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルズ	Japanese History in Global Perspective 1	本授業は、日本において生み出された文化的産物が、歴史上の各時代における交易・交通のルートを通じて世界に伝播・流通し、世界の文化に影響を与えていったさま、あるいは逆に世界の文化が様々な交流を通じて日本文化に影響を与え、その展開に寄与したさまを研究対象とした英語で行う講義科目である。日本文化史の基礎的な知識を身につけることを目的としており、授業においては、特定の時代における具体的な事例を取りあげくわしく論じるとともに、ときに意見を述べたり、討論などの機会を設け、自らの考えを伝えることによって理解を確かなものにするのを到達目標とする。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルズ	Japanese History in Global Perspective 2	本授業は、日本において生み出された文化的産物が、歴史上の各時代における交易・交通のルートを通じて世界に伝播・流通し、世界の文化に影響を与えていったさま、あるいは逆に世界の文化が様々な交流を通じて日本文化に影響を与え、その展開に寄与したさまを研究対象とした英語で行う講義科目である。「Japanese History in Global Perspective 1」で学んだ日本文化史の基礎的な知識を踏まえ、世界史の文脈でそれを理解する視点を身につけることを目的としており、特定の時代における具体的な事例を取りあげくわしく論じるとともに、ときに意見を述べたり、討論などの機会を設け、自らの考えを伝えることによって理解を確かなものにするのを到達目標とする。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルズ	Transnational Cultures 1	本授業は、グローバル化の文化史を概観することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。政治経済におけるグローバル化には必然的に人々や文化の移動が伴うが、外交官、ビジネスパーソン、教師、布教者、軍人、科学者、芸術家、活動家など、官民の人士が国境を越えて活動する中で、異文化同士の交流、交錯、衝突が起こりうる。具体的には、食糧、ファッション、美術等を扱う。これらの検討を通じて、現代のグローバル化された世界について批判的に理解する態度を身につけることを目標とする。	隔年
専門科目	専攻専門科目	グローバルズ	Transnational Cultures 2	本授業は、グローバル化の文化史を概観することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。政治経済におけるグローバル化には必然的に人々や文化の移動が伴うが、外交官、ビジネスパーソン、教師、布教者、軍人、科学者、芸術家、活動家など、官民の人士が国境を越えて活動する中で、異文化同士の交流、交錯、衝突が起こりうる。具体的には、大衆文化、教育、イデオロギー等を扱う。これらの検討を通じて、現代のグローバル化された世界について批判的に理解する態度を身につけることを目標とする。	隔年

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	専攻グローバルズ	Diversity in Stories and Societies 1	本授業は、移民やその子孫に関する文学作品から移民に関する歴史的文献や民俗学の文献に至るまでさまざまな資料を利用し、これらの人々による国境や文化的境界の経験について検討することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。本授業では、既存の境界を揺り動かし、文化的多様性の進展に寄与することをグローバル化の利点と捉え、とりわけ文学作品をその具体的な成果として重視する立場をとる。具体的なテーマとしては、離散、移住、アイデンティティー、帰属、同化等を扱う。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻グローバルズ	Diversity in Stories and Societies 2	本授業は、移民やその子孫に関する文学作品から移民に関する歴史的文献や民俗学の文献に至るまでさまざまな資料を利用し、これらの人々による国境や文化的境界の経験について検討することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。本授業では、既存の境界を揺り動かし、文化的多様性の進展に寄与することをグローバル化の利点と捉え、とりわけ文学作品をその具体的な成果として重視する立場をとる。具体的なテーマとしては、混血、共生、コスモポリタニズム、多文化主義等を扱う。	隔年
専門科目	専攻専門科目	専攻グローバルズ	Study Abroad	本授業は、テンプル大学等の協定を締結した海外の大学へ留学した際に、留学先で開講される「Politics of the Global Economy」、「Global Media」、「Film Style」等の本学で提供していないGlobal Relations、Global Communication Studies、Global Cultural Studiesの分野の科目を履修し、「Capstone Project」の執筆に向けて、学生の興味、関心等をもとに、専門知識を深化させることを目的としている。また、同時に日本の授業とは異なる、海外での授業体験を通して、グローバルな視点を身につけることも本授業の目的としている。さらに、授業担当者が履修前に協定校と授業内容について確認及び調整を行った上で、適切な科目を履修するよう指導し、学期中にはレポートを提出させる。成績評価にあたっては、協定校からの成績に加え、事前事後指導の学習態度、学期中のレポート等から授業担当者が総合的に判断して評価する。	集中
専門科目	専攻専門科目	専攻グローバルズ	Global Studies Seminar 1	本授業は、グローバルスタディーズ専攻の2年次および3年次の専攻分野に関する研究の中核をなす専攻必修科目である。選択した専門領域(Global Relations、Global Communication studies、Global Cultural Studies)に関する方法論的スキルを学び、指導教授による指導のもとで「Capstone Project」に向けての準備に着手する。研究方法は専門分野等によって異なるが、すべての履修生が独自研究、口頭発表、学術論文執筆のスキルを身につけることを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻グローバルズ	Global Studies Seminar 2	本授業は、グローバルスタディーズ専攻の2年次および3年次の専攻分野に関する研究の中核をなす必修科目である。本授業でも、「Global Studies Seminar 1」に引き続き、選択した専門領域に関する方法論的スキルを学ぶ。さらに、履修生は研究と発表のスキルを磨き、英語で(レポート等の形で)発表を行う。同時に、指導教授による指導のもとで、「Capstone Project」に関する詳細な企画書を作成することを目標とする。	
専門科目	専攻専門科目	専攻グローバルズ	Capstone Project Pre-Seminar	本授業は、「Capstone Project」の完遂のために、論文の執筆等に関する詳細なプランを立て、それを実行するために必要な指示や個別指導を指導教授から受ける場である。本授業では、指導教授が各履修生の進捗状況を確認し、研究の改善や問題解決のためのアドバイスをを行う。また、提出までの適切なスケジュールを守るよう、中間目標を定めるなどしてスケジュール管理を行う。	
専門科目	全学対象科目	関連学科・国際交流	Topics in Global Business	日本、韓国、中国等、アジア地域の国々は、ビジネス・経営管理システムについてそれぞれ異なる特徴を持っている。本授業は、ビジネス社会におけるアジア諸国の発展段階と現在直面している諸課題を考察することを通じて、この地域が多様な企業・経営管理モデルに関する専門知識を習得することを目的とする。同時に、グローバル経済の中で地域特有の企業・経営管理システムを批判的に分析する能力を身につけることを到達目標とする。	
専門科目	全学対象科目	関連学科・国際交流	Globalization and Asia	アジア太平洋地域は、現代世界の中で最もダイナミックかつ複雑で、チャレンジングな地域である。1970年代以降、アジアの多くの国々が政治的、経済的、社会的、文化的な面で著しい変化を遂げてきたが、それらの変化はグローバル化の構想や理念に関連するものであった。しかし、アジア大陸が直面している変革は、単にグローバル化への対応にとどまらず、グローバル社会に大きな影響を与えるものである。本授業では、アジアとグローバル化と比較することを通して多様な価値観に注目し、アジア地域における近年の変革とそれが各国の未来と世界に及ぼす影響を検討することを目標とする。とりわけ、アジアの主要国の世界への影響力とそれぞれの国内文化の相互作用に注目し、アジアの経済、社会、宗教、教育、医療、テクノロジー、科学、および文化の各領域における変革の特徴を明らかにする。	
専門科目	全学対象科目	関連学科・国際交流	Japanese History	本授業は、1850年代から現在までの日本の文化史および社会史を学ぶ。授業は英語で行う。日本の歴史について知識を持たない海外からの留学生を主な対象とする。まず、帝国主義に席卷されるアジアという文脈の中で日本の国民国家建設を検証することから始める。二次資料として選択した翻訳書を通じて、人々がどのように国家建設に関与したか、性別、階級、民族性によって帝国建設への参画状況がどのように異なるか理解を深めることを目標とする。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Japanese Culture and Society	本授業は、日本の社会と文化を歴史的、理論的視点から検討することを目的とした主として海外からの留学生を対象とした講義科目である。授業は英語で行う。講義対象は、日本の哲学、武士道、宗教、アニメ、漫画、ファッション、芸術、明治維新、階級・性別階層、家庭・学校教育、経済、移民、人口・社会問題など、多岐にわたる。また教室内外でのさまざまな活動や経験も取り入れることで、日本の様々な文化形式と直接的に触れ合うことを重視する。文化現象に関する具体的な問題点を社会的、歴史的文脈の中で明らかにすることで、日本の伝統文化と近代日本との関連性について洞察を得ることが本授業の目標である。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Survey of Japanese Literature	本授業は、20世紀初頭から現在までの日本文学作品を、とりわけジェンダーとセクシャリティの表現に着目しながら取り上げる。近現代日本におけるジェンダー・セクシャリティを醸成させる社会政治的、文化的背景について学び、さらにフェミニズム、ジェンダー研究、クイア理論の主な考え方を踏まえつつ、このように幅広い歴史分野の中に文学作品を位置づける。日本の近現代文学と、近現代日本におけるジェンダー・セクシャリティの問題を同時に概観することを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Comparative Perspectives on Asian Societies	本授業は、アジアの社会の諸現象を歴史的、理論的視点から検討することを目的とした主として海外からの留学生を対象とした講義科目である。授業は英語で行う。講義対象は、哲学、宗教、階級・性別階層、家庭・学校教育、経済、移民、人口・社会問題など、多岐にわたる。また教室内外でのさまざまな活動や実地の経験も取り入れながら、アジアの社会現象を直接体験することも重視する。さらに具体的な社会現象の問題点を歴史的、文化的文脈の中で明らかにすることで、現代のアジアの社会と伝統的アジアとの関連性についても洞察を得ることを目指したい。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Comparative Cultures and Histories	本授業は、アジア諸国の歴史とその文化的背景に関する基本的な知識を系統的に学ぶことで、現代アジアの諸問題についてより深い洞察を得ることを目的とした、主として海外からの留学生を対象とした講義科目である。授業は英語で行う。本授業は次の通りにすすめる。第一に、アジア地域に共通の哲学的、宗教的伝統(とくに儒教、ヒンズー教、道教、仏教)と各国におけるそれらの展開について考察する。第二に、アジア諸国の政治的、社会的構造について検討する。そして第三に、近代初期から現代までのアジア地域の歴史的条件について検討を行う。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Japan and International Society	本授業は、外交に関する政策、戦略、選択、慣行を通じて日本が国際社会とどのように関係し、どのような国際貢献を果たしているかを検討することを目的とした、主として海外からの留学生を対象とした講義科目である。授業は英語で行う。とくに、21世紀における日本の(ハード、ソフト、スマート面での)パワープロジェクション状況を検討する。さらに、日本の歴史と現在の動向や活動を踏まえて、国際社会における日本の将来を予測する。また、(伝統的・非伝統的な)平和維持や安全保障、テロ、環境問題、国連安保理の改革、国際教育(教育機関の交流)、人権などの諸課題について論じる。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Traditional Arts of Asia	本授業は、アジアの多様な伝統的美術工芸について、とりわけ17世紀から19世紀にかけての大衆文化のさまざまな要素との関連性に着目しながら紹介することを目的とした、主として海外からの留学生を対象とした講義科目である。授業は英語で行う。絵画、彫刻、演劇、俳句、文芸、風、タトゥーなどを考察対象とする。アジアの芸術史やアジアの文化や社会に関する一般的知識も身につけつつ、実際の作品や活動にできるかぎり多く触れてもらうことを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Modern Arts of Asia	本授業は、20世紀から現在までのアジアの芸術形式に注目した講義を行う。特定のアジア諸国や諸外国から見た「現代アジア芸術」の相違を知るために、アジアの芸術家や芸術作品についてグローバルな視野で研究することを目標とする。とくに絵画、写真、パフォーマンスを中心に取り上げる。本授業は、現代アジア芸術に興味のある学生やアジアの現代文化と社会について理解を深めたい学生を対象とする。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Asian Philosophies & Thought	本授業は、アジアの伝統的哲学・思想の歴史について基本的な理解を得た上で、現代アジアの諸問題について洞察を深めることを目的とする。とくに、中国古典哲学の主要学派に注目し、それらがどのように形成され、高度に洗練されていったか、そしてそれが極東地域やそれ以外の場所とどのように広く伝播し、文明圏の形成を助成したかを明らかにする。本授業では、古典哲学がアジア各地の土着宗教や輸入宗教、あるいは宗教的伝統と融合して行くプロセスについて考察する。また、それらの教えがアジア地域の伝統的な政治社会システムに及ぼした深遠な影響を概観する。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Survey in Comparative Literatures	本授業は、現代アジアの文学について、とくに文学と社会の関係に留意しながら検討することを目的とした、主として海外からの留学生を対象とした講義科目である。授業は英語で行う。主たる対象は1980年以降に書かれた現代の作品である。現代アジア文学を読むことが、それぞれの地域に固有の文化をさまざまな側面から理解するためにどのように役立つかといった点にも留意しつつ講義を行う。具体的テーマとしては、ジェンダーと文学、文学作品における家庭の表現、現代文学に現れる食文化などがある。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	Seminar in Visual Cultures	本授業は、アジアの視覚制作物について理解を深め、批判的に考察する力を養うことを目標とする。視覚文化という幅広い分野への入門講座であり、多様なメディアから発信されるビジュアルテキストの分析と解釈に習熟することを目指す。とくに写真と映像が中心教材となるが、それ以外の視覚メディア(漫画やアニメなど)についても考察する。また、静止画および動画の研究の方法やアプローチを探求する。綿密な形式的分析に取り組み、視覚化の技術的・材料的条件について考察し、視覚表現を社会的、文化的、歴史的文脈の中に位置付ける。	
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	Survey of Global Media & Communication	本授業は、アジアのメディアおよび通信のシステムを文化的、経済的、政治的、社会的、技術的観点から考察することを目的とした、主として海外からの留学生を対象とした講義科目である。授業は英語で行う。テーマとしては、アジア地域のマスメディア・システムとメディア業界、オンラインメディアやモバイルメディアの影響、旧来のメディア機関の役割、ニュース、娯楽、通信の国際的な性質と流れ、メディア機関と政府、市民との関係などを取り上げる。	
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	Topics in Gender & Sexuality	本授業は、アジアのジェンダー・セクシャリティへの学際的入門講座である。歴史的背景とともに、現状と最近の動向について、文化研究や社会的観点から考察する。関連する理論についての知識を学び、それらを批判的に捉え、応用するスキルを身につけることを目標とする。ジェンダーとセクシャリティの構成概念の重要性を家庭、国家、労働、医療、法律、文化、身体の文脈の中で幅広い学識から検討する。また、ジェンダー・セクシャリティと人種、階級、国籍、年齢などとの関係にも触れる。教材は、社会研究、アジア研究、文化研究、ジェンダー・セクシャリティの研究、および文学研究から得られた知見に基づいているものを用いる。	
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	Survey of Identities in Asia	本授業は、アジア諸国における民族的アイデンティティーの問題について考察し、民族的アイデンティティーに関する言説がそれらの国民国家の建設と国民性の形成についてどのように語ってきたかを検討することを目的とした、主として海外からの留学生を対象とした講義科目である。授業は英語で行う。これらの問題を考察する際に使用する用語、すなわち民族性、国家、アイデンティティーなどの明確な定義について論じつつ、こうした属性は人間に生得のものではなく、社会的に構成された概念として理解されるべきという視点を提示する。さらに、これらの概念を特定集団に特有の具体的、本質的特性と見なすことをやめてはじめて、社会的な脱構築および再構築が可能になることも明らかにする。	
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	Seminar in Global Asia Issues	グローバルアジアとは、流動的な係争中の領土、領海、領空を伴う広大で複雑な地域の名称である。この地域では、通信、移動、接続性を通じて経済、社会、文化の統合と変革が続いている。本授業では、社会科学、理工系科学、人文科学を網羅する学際的な枠組みの中で、経済、社会、政治、環境の領域における地球規模の変化という問題を分析することを目標とする。アジア地域の発展のために障壁となる要素を検討しなければならない。具体的には、低開発の原因、不平等、貧困、人材開発の程度とダイナミクス、植民地化と植民地解放がグローバルアジアの政治的、経済的、社会的発展に及ぼす影響と遺産について考察する。	隔年
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	Global Asia in the 21st Century	アジア諸国は、ビジネスおよび経営管理の戦略や実践の面でそれぞれユニークな特徴を持っている。これらの国々で活動する企業は、1980年代以降、国際競争の激化、専門知識の需要増大、高度なスキルを有する管理者の育成を必要とする組織的な経営管理の確立、外国企業の流入に伴って、人材管理システムの改善に力を入れてきた。本授業の目的は、人材管理の基本原則と方法、とりわけアジア地域における人材管理実務の普及について理解を深めることである。人材管理に関する欧米のモデルおよびフレームワークとアジアのそれとの融合を図るための現実的な見解を示す。したがって、アジアにおける人材管理が国際性、複雑性、重要性を高めるための戦略的組織活動であることを立証することに重点を置く。	
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	Survey of Global Issues	本授業は、アジア地域の諸国が直面する地球規模の課題とそれら諸国間の関係について概説することを目的とした、主として海外からの留学生を対象とした講義科目である。授業は英語で行う。それらの諸課題について、人類学、経済学、未来学、地理学、平和学、政治科学、社会学など、幅広い社会科学の視点から考察する。この地域を理解するための重要な手がかりとして、地域連携について考察し、地域連合とリージョナリズムやリージョナリゼーションの方法がどのように秩序と安定を支えるかを検討し、さらに、アジア地域の歴史と最新の動向および活動状況をもとに、21世紀の国際社会におけるアジアの将来を予測する。具体的には、貧困、持続可能な発展、パンデミック、テロ、人権などに着目していく。	
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	Environmental Issues in a Global Context	環境の変化が、アジアにおける社会経済的、文化的、政治的プロセスとどのように関連しているかを考察することを目標とする。とくに中国、日本、韓国を中心に検討するが、同時にその文脈の中で他のアジア諸国にも目を向ける。アジアの歴史、政治、社会の中心に人間以外の性質を見据え、この地域で人々が人間以外のアクターおよびアクタンと築いてきた関係の変化について考察する。主な論題は、国境地帯の林業活動、水管理システム、農業、気候、生態系の変化、環境、人間と動物の相互作用、経済発展と環境汚染、環境保護主義の台頭などである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Special Topics in Global Asia	本授業は、アジアにおける諸課題を概観し、この地域の事件、場所、住民、および知識のあり方について学ぶことを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。人類学、教育学、工学、地球環境研究、未来学、地理学、医学、科学、社会学、科学技術などの分野にわたる学際的枠組みの中で、最新の問題を提示する。特定の社会や国家、地域の問題に加え、地域間の問題にも注目する。これらのテーマの多くは、特定分野の概念と方法論を踏まえたものになるが、それらがさまざまな文脈の中でどのように適用され、また批判されているかについて深く理解することを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Politics in Asia	本授業は、1945年から現在までのアジアにおける政治的変化と連続性を理解することを目的とする。そのために、アジアの政治制度に関する背景を学び、アジアにおける主要な政治的課題について理解を育み、アジア諸国の政治体制を幅広い比較の見地に立って位置付ける。アジア諸国は、比較政治学にとって重要で興味深い実例である。本授業では、これらの理論的、経験的難問に挑む。まず初めに、比較政治学の主要な理論を概観する。次に、アジアの政治および政治体制(政党制と選挙制度)の歴史的展開を概観し、政治の当事者(政治家、官僚など)の行動について考察する。最後に、さまざまな政策の結果(国際安全保障、汚職、利益誘導、行政の透明性など)について議論する。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Studies of Asian Economies	本授業は、アジア経済の発展と現在の構造のほか、アジア地域における経済的相互作用と制度について考察することを目的とした、主として海外からの留学生を対象とした英語による講義科目である。過去数十年間経済成長という点で最も活力ある地域のひとつであったアジア地域の経済の実態を紹介するとともに、アジア諸国の経験から経済活動と法人の成功のヒントを見出すことを目指す。さらに、地域の政策対話の進展、二国間および地域間の自由貿易協定、為替政策、地域毎の貿易特惠、マクロ経済政策の調整、などのテーマについて論じる。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Topics in Technology & Society	本授業は、20世紀および21世紀のアジアにおけるテクノロジーについて社会的、政治的、経済的側面から批判的に考察することを目的とした、主として海外からの留学生を対象とした英語による講義科目である。テクノロジーとは何か、テクノロジーがどこでどのように出現し、どのように利用されているか、テクノロジーの形成が時代、場所、および目的に如何に適っていたか等の内容について順に論じる。さらにグローバルイノベーション、遅れた工業化、ナショナリズム、リスクといったテーマについて、さまざまなケーススタディをもとに、技術革新の構造にも注目しながら考察する。本授業では、主として日本に注目しながら、中国、韓国、北朝鮮、台湾にも目を向け、さらに東南アジアやインドにも視野を広げる。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Seminar in Entrepreneurship	本授業は、ケーススタディと講義、ゲスト講演、および履修生の「ビジネスプラン-コンテスト」を通じて、日本に関連するベンチャービジネス活動で容易に国境を越えられると思われる起業家の実務と経営理論を学ぶ。ベンチャービジネスと起業家精神は、世界のどこでも現代経済の礎には欠かせない。日本に拠点を置くさまざまなグローバルベンチャーを教材とし、また、急成長を遂げて成功している国際ベンチャービジネスの起業家をゲストとして招き、現場の話聞くことにより、起業家精神の「現実世界」を体得する。また、現在進行中の事例を含むケーススタディの分析を通じて、実践的スキルを身につけることを目標とする。履修生はいくつかのグループ(「会社」)に分かれ、それぞれビジネスプランを立てて学期終了まで完成させる。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	Fieldwork in Japan	本授業は、海外からの留学生が日本人学生とともに共同プロジェクトを経験しながら、学生がそれぞれ興味を有する地域社会について研究することを目的とした学際的かつインタラクティブな演習科目である。事前事後のレクチャーとフィールド学習は、日本の各地域の環境を調べ、歴史、経済、政治、地理、社会、言語、文化を多面的に考察する機会となる。そのうえで履修生たちは、互いに協力して、自分たちの研究で得た知見を自分たちが適切と考える形式で発表することになる。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	アメリカの社会と文化1	本授業は、アメリカの社会と文化を研究するにあたり学ぶべき事項を概論として学修するための英語による講義科目である。アメリカ社会の経済的基盤と構造、およびアメリカ人の価値観、信念、理想、さらには偏見を分析し、解釈することを目的とする。履修生は学期終了までに次のことができるようになる。①アメリカ人の基本的価値観と、それが建国以来これまでにどのように発達し、解釈されてきたかについて理解する。②アメリカ文化に限らず様々な文化について分析を行い、解釈する。履修生は文化がいかに働くかを学ぶ。それゆえ、文化を分析・解釈する技法を習得し、それをアメリカや日本だけでなく、他の社会にも応用することができるようになる。③文献の論理構造を分析する。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	アメリカの社会と文化2	本授業は、「アメリカの社会と文化1」に引き続きアメリカ社会および文化についての概論を講義形式で英語により学ぶ。アメリカ社会の経済的基盤と構造、およびアメリカ人の価値観、信念、理想、さらには偏見を分析し、解釈することを目的とする。履修生は学期終了までに次のことができるようになる。①アメリカ人の基本的価値観と、それが建国以来これまでにどのように発達し、解釈されてきたかについて理解する。②アメリカ文化に限らず様々な文化について分析し、解釈する。履修生は文化がいかに働くかを学ぶ。それゆえ、文化を分析・解釈する技法を習得し、それをアメリカや日本だけでなく、他の社会にも応用することができるようになる。③文献の論理構造を分析する。なお具体的な教材としては歴史的文献の他文学作品も利用する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目 関連科目・国際交流	イギリスの社会と文化1	本授業は、現代イギリスの諸問題を概説するための講義科目である。とくに現代に力点を置くが、そのために必要な歴史的背景にも考察をめぐらせることで、イギリスの社会と文化に関する広範な知識を得、理解を深めることを目的とする。テーマ別のアプローチをとり、教育、政府と政治、社会政策、多民族社会、法律と秩序など、さまざまな問題を取り上げる。本授業は、課題図書の内容に関する討論、小規模の講義と発表などによって構成される。教科書だけでなく、適宜配布物、映画、ウェブ上の資料などを提供する。	
専門科目	全学対象科目 関連科目・国際交流	イギリスの社会と文化2	本授業は、「イギリスの社会と文化1」に引き続き現代イギリスの諸問題について、歴史的背景にも考察をめぐらせながら概論の講義を展開する。それによってイギリスの社会と文化に関する広範な知識を得、理解を深めることを目的とする。テーマ別のアプローチをとり、女性、食生活、余暇、スポーツ、メディア、芸術など、さまざまな問題を取り上げる。本授業は、課題図書の内容に関する討論、小規模の講義と発表などによって構成される。教科書だけでなく、適宜配布物、映画、ウェブ上の資料などを提供する。	
専門科目	全学対象科目 関連科目・国際交流	日本の社会と文化1	本授業は、日本の文化と社会について、文化人類学の視点から幅広く検討することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。日本社会を特徴付ける社会・文化事象を取り上げ、文化人類学の概念と方法について基本的な理解を修得しながら、日本文化に関する研究者たちの見解を幅広く理解できるようにすることを旨とする。具体的には、日本特有の社会的組織の特徴とそれが個人の活動やアイデンティティーに与える影響、モチベーションを与え、やりがいを感じさせる日本型組織、日本におけるライフサイクル等を扱う。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目・国際交流	日本の社会と文化2	本授業は、「日本の社会と文化1」に引き続き、日本の文化と社会について、文化人類学の視点から幅広く検討することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。日本社会を特徴付ける社会・文化事象を取り上げ、文化人類学の概念と方法について基本的な理解を修得しながら、日本文化に関する研究者たちの見解を幅広く理解できるようにすることを旨とする。具体的には、「日本の社会と文化1」で学んだ日本特有の社会的組織の特徴とそれが個人の活動やアイデンティティーに与える影響、モチベーションを与え、やりがいを感じさせる日本型組織、日本におけるライフサイクル等を踏まえ、さらにさまざまな社会的取決めが構築、再生され、困難に遭遇して変革されるプロセスを追跡する。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目・国際交流	現代世界の諸問題1	本授業は、現代世界におけるグローバリゼーションの諸相を概観することを目的とした講義科目である。授業は英語で行う。現代世界の問題は少なからずグローバル化とかわかっているといえるが、日本と国際社会がどのようにかわっているかについて深い関心を持っている履修生を対象に、平和と安全保障、移民、ウィルス感染拡大など様々なテーマを取り上げ、これらの問題に関する理解を深めることを目指す。なお履修のためには、一定以上の英語力が要求され、必要な語彙を身につけることが求められ、さらには履修生自身がグローバル化に関わるテーマを探すことも課題として与えられる。	
専門科目	全学対象科目 関連科目・国際交流	現代世界の諸問題2	本授業は、現代世界におけるグローバリゼーションの諸相を概観することを目的とした講義科目である。現代世界の問題は少なからずグローバル化とかわかっているといえるが、日本と国際社会がどのようにかわっているかについて深い関心を持っている履修生を対象に、「現代世界の諸問題1」で触れたテーマの他、グローバル化世界における文化の伝播・流通、スポーツ交流、環境問題など様々なテーマを取り上げ、この問題に関する理解を深めることを目指す。なお履修のためには、一定以上の英語力が要求され、必要な語彙を身につけることが求められ、さらには履修生自身がグローバル化に関わるテーマを探すことも課題として与えられる。	
専門科目	全学対象科目 関連科目・国際交流	ドイツ語圏の社会と文化1	本授業は、興味深い文学のテキストを模範に、正しい書き方を学ぶことが目的である。本授業では、ドイツの書籍・新聞・雑誌などに基づいて、ドイツ語圏の政治や社会問題を分析する。その際、どのような話題に関心を持たれているのか、また、そうした関心がどのような形で表されているのかについても取り上げ、日本とドイツの文化的な共通点・相違点を示す。テーマとして取り上げるのはジェンダー・ファッション・スポーツ・映画・日常に見られる各種の宣伝などである。とくにドイツ留学の準備に有用である。	
専門科目	全学対象科目 関連科目・国際交流	ドイツ語圏の社会と文化2	本授業は、「ドイツ語圏の社会と文化1」に引き続き、興味深い文学のテキストを模範に、正しい書き方を学ぶことが目的である。本授業では、ドイツのマスメディア・テレビ番組などに基づいて、ドイツ語圏の政治や社会問題を分析する。その際、どのような話題に関心を持たれているのか、また、そうした関心がどのような形で表されているのかについても取り上げ、日本とドイツの社会的な共通点・相違点を示す。テーマとして取り上げるのはジェンダー・ファッション・スポーツ・映画・日常に見られる各種の宣伝などである。とくにドイツ語で執筆する卒業論文の準備に有用である。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	フランスの歴史と社会1	本授業は、A2レベルのフランス語で行われる。本授業では、フランスの地理を中心にフランス本土とフランスの海外圏、海外自治領からトピックを選び、プリントと地図を用いながら講義する。また、学生たちはあらかじめ課された関連テーマについて、毎回ミニ口頭発表を行い、他の学生たちはメモを取ったり、質問したりする。これらを通じて、フランス文明がもつかわめて多様な要素を、異なる時代について発見して理解を深めることを到達目標とする。また、毎回授業の最後に講師により板書される内容要約を書き写すことでフランス語の正しい表現方法を学ぶ。また、学習内容の定着も兼ねて、書き写した内容を滑らかに発音できるようになるまで暗唱練習を行い、次の授業にて、講師の発音チェックを受ける。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	フランスの歴史と社会2	本授業は、A2レベルのフランス語で行われる。本授業では、フランスの歴史を中心にいくつかの選択肢の中から、学生たちが興味あるテーマを選ぶ。学生たちはあらかじめ課された関連テーマについて、毎回ミニ口頭発表を行い、他の学生たちはメモを取ったり、質問したりする。これらを通じて、フランス文明がもつかわめて多様な要素を、異なる時代について発見して理解を深めることを到達目標とする。また、毎回授業の最後に講師により板書される内容要約を書き写すことでフランス語の正しい表現方法を学ぶ。また、学習内容の定着も兼ねて、書き写した内容を滑らかに発音できるようになるまで暗唱練習を行い、次の授業にて、講師の発音チェックを受ける。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	中国の社会と文化1	本授業は、留学準備カリキュラムの一環であり、既に中国語の一定の読解力・会話力を身につけている履修生を対象としている。中国語圏の大学で人文・社会系の諸分野を学ぶための基礎固めとして、主に歴史学・地域学の視点から、中国の文化・社会についての理解を深めることを目的とする。中国語圏の書籍・雑誌・ウェブサイト・SNSなどから平易な文章をテキストに選び、それらに準拠しつつ、中国語による講義を行う。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	中国の社会と文化2	本授業は、留学準備カリキュラムの一環であり、既に中国語の一定の読解力・会話力を身につけている履修生を対象に、中国語圏の大学で人文・社会系の諸分野を学ぶための基礎固めとして、主に歴史学・地域学の視点から、中国の文化・社会についての理解を深めることを目的とする。「中国の社会と文化1」と同様、中国語圏の書籍・雑誌・ウェブサイト・SNSなどから平易な文章をテキストに選び、それらに準拠しつつ、中国語による講義を行う。本授業では、「中国の社会と文化1」に学修した内容を踏まえ、さらなる発展的な演習を行う。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	韓国・朝鮮の社会と文化1	本授業は、基本的に韓国語で行う。現代韓国の社会・文化的な諸問題を、予習課題の新聞記事と教室での講義を通じて学んでいく。それによって、現代韓国の社会・文化的な諸論点を深く理解すると同時に、それに対する意見や感想を韓国語で表現できるような語学能力の伸長を目標とする。文章語と口語の基本的な特性を区分し理解、使用が可能で、個人的な談話や非常に身近な平凡な社会的テーマを扱う対話や談話を聞き、内容を把握し、推論できるようにする。さらに、広告やインタビュー、天気予報などの実用談話を聞き、大まかな内容を把握し、推論できるようにする。身近な社会的テーマの説明文や感想文を、段落単位で比較的正確かつ適切に書くことができ、日常的な脈絡と関連する個人的テーマにおける実用文をきちんと記述できるようにする。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	韓国・朝鮮の社会と文化2	本授業は、基本的に韓国語で行う。現代韓国の社会・文化的な諸問題を、予習課題の新聞記事と教室での講義を通じて学んでいく。それによって、現代韓国の社会・文化的な諸論点を深く理解すると同時に、それに対する意見や感想を韓国語で表現できるような語学能力の伸長を目標とする。文章語と口語の基本的な特性を区分し理解、使用が可能で、個人的な談話や非常に身近な平凡な社会的テーマを扱う対話や談話を聞き、内容を把握し、推論できるようにする。さらに、広告やインタビュー、天気予報などの実用談話を聞き、大まかな内容を把握し、推論できるようにする。身近な社会的テーマの説明文や感想文を、段落単位で比較的正確かつ適切に書くことができ、日常的な脈絡と関連する個人的テーマにおける実用文をきちんと記述できるようにする。本授業では、「韓国・朝鮮の社会と文化2」に学修した内容を踏まえ、さらなる発展的な演習を行う。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	インターカルチュラルスキル養成講座1	本授業は、ビジネスや個人的関係など異文化のあいだで発生するコミュニケーションについて、基本的なポイントを学びながら、異文化コミュニケーション能力を身につけることを目的とした講義科目である。異文化コミュニケーションの実例、文化の定義、異文化理解とは何か、言語や非言語によるコミュニケーション、心理的要因、文化的価値、行動や認識の相違、ステレオタイプの問題など、テーマごとに具体例を示しながら論じる。また色々な状況の下、どういふスキルが求められ、それをどう使うかといったことを考察することが重要なため、オンライン上のリソース等も利用しつつ効率的なコミュニケーションの方法を各自が見つけ出してゆくような指導も行う。なお、テーマによってクラス内でのディスカッションやプレゼンテーションも実施する。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	インターカルチュラルスキル養成講座2	本授業は、ビジネスや個人的関係など異文化のあいだで発生するコミュニケーションについて、基本的なポイントを学びながら、異文化コミュニケーション能力を身につけることを目的とした講義科目である。「インターカルチュラルスキル養成講座1」に引き続き、文化的価値、行動や認識の相違、ステレオタイプの問題など、テーマごとに具体例を示しながら論じる。また色々な状況の下、どういふスキルが求められ、それをどう使うかといったことを考察することが重要なため、オンライン上のリソース等も利用しつつ効率的なコミュニケーションの方法を各自が見つけ出してゆくような指導も行う。なお、テーマによってクラス内でのディスカッションやプレゼンテーションも実施し、コミュニケーションスキルをさらに高める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	グローバル・リーダーシップ養成講座1	本授業は、グローバルリーダーシップという概念に関連する様々なテーマについて概観する講義科目である。授業は英語で行う。グローバルリーダーとはどういうものか、さらにそれに付随する概念として、グローバルシティズンシップ、起業家精神、ボランティア精神などについての理解を深めることが本授業の目的である。さらには、①授業で使用した教材に関連する主な概念、用語、基本原理、および共通項を特定し、説明できる ②授業内容が日常生活や経験にどのように関連しているかについて、例を挙げて説明できる、などのスキル習得も目指す。	
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	グローバル・リーダーシップ養成講座2	本授業は、グローバルリーダーシップという概念に関連する様々なテーマについて概観する講義科目である。授業は英語で行う。グローバルリーダーとはどういうものか、さらにそれに付随する概念として、グローバルシティズンシップ、起業家精神、ボランティア精神などについての理解を深めることが本授業の目的である。さらには、①授業内容を思考の改善、問題解決、および意思決定のために応用できる ②口頭および文書によるコミュニケーションスキルに関する自分の強みと弱点を自覚できる ③eポートフォリオを開発し、活用できる、などのスキル習得も目指す。	
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	留学入門ゼミナール	多くの人々にとって、外国で学んだ経験は、自分の価値観や目標を再評価し、新しいキャリア・パスウェイを探求して新しいスキルを見出し、母国の社会と文化、母国が世界で果たす役割を改めて見直し、理解する機会となる。本授業では、海外に留学した学生たちが留学前、留学中、および留学終了後に遭遇した問題に着目する。海外留学経験におけるプラスとマイナス、成功と失敗などを振り返る。「留学準備講座」の一部として行われる本授業の学習目標は、①長期的ビジョンを持つこと、②批判的な思考能力を持つこと、③21世紀における民主主義について理解を深めること、④社会参画の意識を育むこと、⑤地球市民としての責任を自覚すること、⑥海外留学機会について意識を高めることである。	
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	グローバル・コミュニケーション1	英語圏の大学では、クラス討論が学業の重要な要素となっている。本授業は、英語で意見を表明し、さまざまなテーマについて議論すること、他人の前で自信を持って自分の考えや意見を表明できることを目標とする。個人的、社会的テーマについて議論するだけでなく海外の大学のクラスメートや友人に日本の文化や生活のあり方をどのように説明するかを模索する機会となる。本授業では、これらのテーマのうち、まず履修者自身のこと、そして社会全体に共有されている題材を選ぶ。	隔年
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	グローバル・コミュニケーション2	英語圏の大学では、クラス討論が学業の重要な要素となっている。本授業は、「グローバル・コミュニケーション1」に引き続き、英語で意見を表明し、さまざまなテーマについて議論したり、他人の前で自信を持って自分の考えや意見を表明する力をさらに向上させることを目標とする。個人的、社会的テーマについて議論するだけでなく海外の大学のクラスメートや友人に日本の文化や生活のあり方をどのように説明するかを模索する機会となる。本授業では、これらのテーマのうち、日本を語ることに力点を置く。	隔年
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	イングリッシュ・サマースクール1	本授業は、テンプル大学ジャパンキャンパス(TUJ)との連携協定に基づき、毎年夏に5日間の集中授業形式で行われる授業科目である。本学が設定する時事的なテーマに基づき、TUJのアカデミックコーディネーターがシラバス案を作成、本学が内容を精査し実施するコンテンツベースとスキルベースの指導を組み合わせた授業である。本授業はTUJの講師が英語で行い、複数名のティーチングアシスタントがサポートする。「1」と「2」では、扱うテーマが異なる。アメリカの大学の授業形式(アクティブラーニング)で進められる本授業では履修生はテキストを読み、クリティカルに思考し、ディスカッションに積極的に参加することが求められる。最終日のプレゼンテーションに向けたリサーチやAcademic Writing, Academic Speakingの技能を高めることを目標とする。留学を視野にいれている学生のファーストステップとして活用が期待される授業科目である。	集中
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	イングリッシュ・サマースクール2	本授業は、テンプル大学ジャパンキャンパス(TUJ)との連携協定に基づき、毎年夏に5日間の集中授業形式で行われる授業科目である。本学が設定する時事的なテーマに基づき、TUJのアカデミックコーディネーターがシラバス案を作成、本学が内容を精査し実施するコンテンツベースとスキルベースの指導を組み合わせた授業である。授業はTUJの講師が英語で行い、複数名のティーチングアシスタントがサポートする。「1」と「2」では、扱うテーマが異なる。アメリカの大学の授業形式(アクティブラーニング)で進められる本授業では履修生はテキストを読み、クリティカルに思考し、ディスカッションに積極的に参加することが求められる。最終日のプレゼンテーションに向けたリサーチやAcademic Writing, Academic Speakingの技能を高めることを目標とする。留学を視野にいれている学生のファーストステップとして活用が期待される授業科目である。	集中
専門科目	全学対象科目	関連学・国際交流	留学のための英語講座A1[TOEFL]	本授業は、TOEFL iBT(internet-Based Testing)に対応した問題集を教科書として使い、reading, listening, speaking, writingの4技能をバランスよく学習することによって、TOEFLテストへの準備、次いでスコアの向上をめざす実習科目である。本授業は英語圏への留学を計画中の学生向けのTOEFL対策講座であるが、大学英語の総合的な力を養いたい学生にも有効な学習の機会となる。TOEFLテストの構成は「予習課題を読む」「講義を聞く」「ディスカッションに参加する」「レポートを書く」という大学の授業の流れを反映したものであることを理解しつつ、英語4技能をacademic skillsとして関連づけることも目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	留学のための英語講座A2[TOEFL]	本授業は、TOEFL iBT (internet-Based Testing)に対応した問題集を教科書として使い、reading、listening、speaking、writingの4技能をバランスよく学習することによって、TOEFLテストへの準備、次いでスコアの向上をめざす実習科目である。本授業は英語圏への留学を計画中の学生向けのTOEFL対策講座であるが、大学英語の総合的な力を養いたい学生にも有効な学習の機会となる。英語4技能をacademic skillsとして関連づける。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	留学のための英語講座B1[IELTS]	本授業は、reading、listening、speaking、writingの4技能をバランスよく学習することによって英語コミュニケーション力を高めることを目的とした実習科目である。具体的には4技能を鍛える問題集を教科書として使い、IELTSテストへの準備、次いでスコアの向上を目指す。本授業は、英語圏への留学を計画中の学生向けのIELTS対策講座であるが、大学英語の総合的な力を養いたい学生にも有効な学習の機会となるはずである。具体的には授業内小テスト、会話練習、ライティングの課題等を与え、英語力のアップを目指す。なお本授業ではまず自らの力と弱点をしっかりと把握することからはじめる。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	留学のための英語講座B2[IELTS]	本授業は、reading、listening、speaking、writingの4技能をバランスよく学習することによって英語コミュニケーション力を高めることを目的とした実習科目である。具体的には4技能を鍛える問題集を教科書として使い、IELTSテストへの準備、次いでスコアの向上を目指す。本授業は、英語圏への留学を計画中の学生向けのIELTS対策講座であるが、大学英語の総合的な力を養いたい学生にも有効な学習の機会となるはずである。具体的には授業内小テスト、会話練習、ライティングの課題等を与え、英語力のアップを目指す。なお本授業では、「留学のための英語講座B1 [IELTS]」での学びを踏まえ、より実践的な4技能のトレーニングを行う。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	ドイツ語論述実習1	本授業では、既に身についた基礎的ドイツ語力を踏まえ、ドイツ語で書かれた様々な種類の文章を範とし、書き言葉として適切なスタイルを持ったドイツ語文の書き方を身につけることを目標とする。必要に応じて書き言葉で重要になる各種の文法事項についても説明するが、とくに適切な水準の語彙を身につける訓練を重視する。ドイツ語圏への留学や、ドイツ語での卒業論文の執筆を目指す学生に向けた授業だが、そうでなくてもドイツ語力の向上のために履修することも有意義である。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	ドイツ語論述実習2	本授業では、「ドイツ語論述実習1」と同様、既に身につけた基礎的ドイツ語力を踏まえ、ドイツ語で書かれた様々な種類の文章を範とし、書き言葉として適切なスタイルを持ったドイツ語文の書き方を身につけることを目標とする。必要に応じて書き言葉で重要になる各種の語彙についても説明するが、とくに適切な水準の文法知識を身につける訓練を重視する。ドイツ語圏への留学や、ドイツ語での卒業論文の執筆を目指す学生に向けた授業だが、そうでなくてもドイツ語力の向上のために履修することも有意義である。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	フランス語論述実習1	本授業は、A2レベルのフランス語で行う。本授業の第一の目的は、文法や構造を復習することで、明瞭な文を書くことための基礎を学ぶことにある。本授業では、プリントのモデルを利用した作文練習が主となる。講師が文法や構文、フランス語的な文章構成などについて説明したのち、履修生には、モデルの型に沿った自己表現が宿題として課される。次回、それらの作文を授業中に添削し、語彙や文法について補足的解説を行う。また講義中にはプリントの練習問題を解く時間を設け、各自で理解レベルを確認する。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	フランス語論述実習2	本授業は、A2レベルのフランス語で行う。本授業の第一の目的は、文法や構造を復習することで、明瞭な文を書くことための基礎を学ぶことにある。本授業では「フランス語論述実習1」と異なり、モデルの文章は与えられない。本授業で与えられた統一テーマに沿って、履修生は毎回、自分で一から自己表現の文章を作成して授業に臨む。履修生たちの宿題を授業中に添削し、語彙・構文や文法、フランス語的な文章構成について補足的解説を行う。授業の最後には模範例となるような文章を講師が板書し、履修生に事後学修を促す。	
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	中国語論述実習1	本授業は、既に中国語の一定の読解力・会話力を身につけている学生を対象とした留学準備カリキュラムの一環であり、中国語圏の大学で人文・社会系の諸分野を学ぶための基礎固めをめざす。具体的な目標は、中国の歴史・文化・社会についての理解を深めるとともに、それらに関する自分自身の考えを中国語で論理的に表明・討論できるようにすることである。授業は第2週以降、2回ごとに一つの中国語教材を利用して進める。教材は文章テキストが中心となるが、適宜、映画・ドキュメンタリーなどの映像も織り交ぜる。意見発表にあたっては、自由に論述してよい場合も、論題を指定する場合もある。どちらの場合にも、文章の形にまともな簡潔なペーパーを準備してもらう。発表時間は1人あたり2分から5分程度とし、文章・表現の誤りは随時指摘・解説する。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	中国語論述実習2	本授業は、既に中国語の一定の読解力・会話力を身につけている学生を対象とした留学準備カリキュラムの一環であり、中国語圏の大学で人文・社会系の諸分野を学ぶための基礎固めをめざす。具体的な目標は、「中国語論述実習1」と同様、中国の歴史・文化・社会についての理解を深めるとともに、それらに関する自分自身の考えを中国語で論理的に表明・討論できるようにすることである。授業は第2週以降、2回ごとに一つの中国語教材を利用して進める。教材は文章テキストが中心となるが、適宜、映画・ドキュメンタリーなどの映像も織り交ぜる。意見発表にあたっては、自由に論述してよい場合も、論題を指定する場合もある。どちらの場合にも、文章の形にまとまった簡潔なペーパーを準備してもらおう。発表時間は1人あたり2分から5分程度とし、文章・表現の誤りは随時指摘・解説する。本授業では、「中国語論述実習1」に学修した内容を踏まえ、さらなる発展的な演習を行う。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	韓国・朝鮮語論述実習1	本授業は、基本的に韓国語で行う。現代韓国の社会・文化的な諸問題を、予習課題の新聞記事と教室での講義を通じて学ぶ。それによって、現代韓国の社会・文化的な諸論点を深く理解すると同時に、それに対する意見や感想を韓国語で表現できるような語学能力の伸長を目指す。文章語と口語の基本的な特性を区分し理解、使用が可能で、個人的な談話や非常に身近で平凡な社会的テーマを扱う対話や談話を聞き、内容を把握し、推論できるようにする。さらに、広告やインタビュー、天気予報などの実用談話を聞き、大まかな内容を把握し、推論できるようにする。身近な社会的テーマの説明文や感想文を、段落単位で比較的正確かつ適切に書くことができ、日常的な脈絡と関連する個人的テーマにおける実用文をきちんと記述できるようにする。	隔年
専門科目	全学対象科目 関連科目 国際交流	韓国・朝鮮語論述実習2	本授業は、基本的に韓国語で行う。現代韓国の社会・文化的な諸問題を、予習課題の新聞記事と教室での講義を通じて学ぶ。それによって、現代韓国の社会・文化的な諸論点を深く理解すると同時に、それに対する意見や感想を韓国語で表現できるような語学能力の伸長を目指す。文章語と口語の基本的な特性を区分し理解、使用が可能で、個人的な談話や非常に身近で平凡な社会的テーマを扱う対話や談話を聞き、内容を把握し、推論できるようにする。さらに、広告やインタビュー、天気予報などの実用談話を聞き、大まかな内容を把握し、推論できるようにする。身近な社会的テーマの説明文や感想文を、段落単位で比較的正確かつ適切に書くことができ、日常的な脈絡と関連する個人的テーマにおける実用文をきちんと記述できるようにする。本授業では、「韓国・朝鮮語論述実習1」に学修した内容を踏まえ、さらなる発展的な演習を行う。	隔年
専門科目	全学対象科目 副プロジェクト科目	学部横断型課題解決プロジェクト	本授業は、「アントレプレナーシップ副専攻」を希望する学生が履修すべきコア科目の一つである。毎週1回の学部単位もしくは担当企業チーム単位で行われる授業と土曜日合計4回行われる学部合同の授業の2本立ての構成になっている。本授業には2つの大きな目的がある。1つは、企業から課題(例えばCSR報告書の作成)を出してもらい、それを異なる複数の学部の学生が専門知識を活用し、それぞれの専門分野に対する理解を深めること。もう1つは、その過程で、社会人としての基礎的能力を育成することである。本授業は、大きく2つの段階に分けられる。第1段階では、企業の課題に答えるために、必要な情報収集や分析を学部ごとに行う。第2段階では、各学部が分析したことを統合し、学部協働で、課題に関する報告書を作成する。	集中
専門科目	全学対象科目 副プロジェクト科目	副専攻ゼミナール1 (グローバルスタディーズ)	本授業は「グローバルスタディーズ副専攻」を希望する学生が必ず履修すべきコア科目の一つであり、グローバル時代の国際関係(国家間の関係、地域の統合や分解の動きなど)、文化的交流(国境を超える文化の共有、人とモノと観念の往来・交換など)、言語的コミュニケーション(対面型・遠隔型の意思疎通の諸相)をテーマとする。基本的に現代の事象に照準を合わせるが、歴史的变化を追う学びも重視する。本授業ではそれらのテーマに関連する英語の専門用語・専門的表現を身につけるボキャブラリービルディングを行いながら、テーマごとに履修生は英語での研究発表と英文レポートの作成ができるようになることを到達目標とする。本授業はとくにボキャブラリービルディングと英文レポートの作成指導を中心とする。履修生は必要に応じて正課外のコーチングも受けることになる。なお本授業は英語と日本語の両方を用いて行う。	
専門科目	全学対象科目 副プロジェクト科目	副専攻ゼミナール2 (グローバルスタディーズ)	本授業は「グローバルスタディーズ副専攻」を希望する学生が必ず履修すべきコア科目の一つであり、グローバル時代の国際関係(国家間の関係、地域の統合や分解の動きなど)、文化的交流(国境を超える文化の共有、人とモノと観念の往来・交換など)、言語的コミュニケーション(対面型・遠隔型の意思疎通の諸相)をテーマとする。基本的に現代の事象に照準を合わせるが、歴史的变化を追う学びも重視する。本授業ではそれらのテーマに関連する英語の専門用語・専門的表現を身につけるボキャブラリービルディングを行いながら、テーマごとに履修生は英語での研究発表と英文レポートの作成ができるようになることを到達目標とする。本授業はとくにテーマ別の研究発表と討論を中心とする。履修生は必要に応じて正課外のコーチングも受けることになる。なお本授業は英語と日本語の両方を用いて行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目 経済学部提供科目	日本経済史1	明治維新直後の日本は、近代化の遅れたいわゆる後発国であったが、その後着実な経済発展を遂げることに成功した。本授業では、近世から近代に及び日本経済の長期的な成長過程を概観し、その特徴を把握することで、この経済発展がどのようにして達成されたのかを考察する。とくに、近世における市場の拡大と分業の深化による経済成長のメカニズムと、近代における工業化の過程との連続性に着目し、連続的な成長過程の中で、政府や企業家がどのような役割を果たしたのかを明らかにし、理解を深めることを目標とする。	
専門科目	全学対象科目 経済学部提供科目	日本経済史2	戦後、敗戦国であった日本は急速な復興を遂げ、世界第2位の経済大国となった。本授業では、まず、その高度成長の過程を歴史的にあとづけ、なぜこのような成長が可能であったのかを考察する。次に、高度成長以後、現在に至るまでの日本経済の動向を、政府の役割やその背後にある経済的なメカニズムに注目しながら把握し、われわれが今後選択すべき道を探る。とくに、高度成長を支えた「日本的」と言われる諸システムが、高度成長終了後にどのように変質し、現代経済にどのような影響を与えているのかに着目し、理解を深めることを目標とする。	
専門科目	全学対象科目 経済学部提供科目	企業法	本授業は、株式会社の組織の管理および運営に関する一般法である会社法における資金調達についての制度的枠組み(具体的には、株式(111～197)、社債(469～481)を中心とする。)および個別の条文解釈論の問題に関する学説や判例の動向を理解することを到達目標とする。本授業は法律学の授業であるが、法律学に不慣れた学生に配慮して、初歩的な法的知識に関しても触れながら比較的ゆっくりと授業を進める。	
専門科目	全学対象科目 経済学部提供科目	国際経営論	本授業は、国際ビジネスに影響する経済制度や政治制度をはじめとする様々な要因や、国際的な環境における企業の戦略や意思決定に関連する基本的な理論やコンセプトについて理解することを目標とする。主に扱うトピックは、グローバル化と国際ビジネス、国際ビジネスと政治・経済・法制度、国際ビジネスと文化や社会、国際機関と地域統合、国際貿易・投資、為替レート、国際ビジネスと競争戦略、国際的なマーケティング活動、市場参入戦略と戦略的提携、国際ビジネスの組織、アウトソーシングなど。	
専門科目	全学対象科目 経済学部提供科目	人事管理論1	高度成長期を経て定着してきた日本企業の人事労務管理は、1990年代以降の長引く不況、規制緩和や経済のグローバル化などによる競争の激化、労働力の高齢化、女性の進出、働く人々の価値観の多様化など、内外のさまざまな変化によって、大きな見直しを迫られている。こうした動きや「働き方改革」の動向にも目を配りながら、日本企業の人事労務管理の諸施策、運営の実態について、学生が理解を深められるようにすることを本授業の目標とする。関連する統計、調査資料をまとめたものを配布して、具体的なデータに基づいて授業を進める。	
専門科目	全学対象科目 経済学部提供科目	人事管理論2	本授業は、雇用、人事管理の分野における、最近の重要な諸問題について、「働き方改革」の動向も踏まえながら、以下の5つの事柄を取り上げ講義を行い、理解を深めることを目標とする。①年俸制など成果主義的・業績主義的な賃金制度が普及してきているが、その実態、背景、問題。②1990年代以降の不況下において、リストラによる人員削減を実施する企業が増え、「終身雇用の崩壊」がいわれてきたが、その実態。③女性の仕事への関わり方、ワークスタイルの変化の実態、企業における女性の雇用管理の現状と課題。④フリーターや学卒無業者の増加、離転職・失業の増大などにみられる、若年者の就業行動・意識の変化の実態、背景、問題。⑤派遣・請負、パート・アルバイトなど、非正規雇用の増加の背景、問題。	隔年
専門科目	全学対象科目 経済学部提供科目	ファイナンス1	企業経営者は、モノを生産したり、サービスを販売したりすることから利益を得るために絶えず合理的な意思決定を行わなければならない。本授業では、このような意思決定を資金循環の側面から捉える。具体的には、①財務諸表から企業活動をどうとらえるのか、②設備投資におけるお金の流れをどのように評価するのか、③資本の選択をどのように行うのかを考える。そして、企業の資金調達と運用について理解を深めることを目標とする。ファイナンスの基本的な考えはそのまま私たちの日常生活におけるお金に関する意思決定に適用することができる。本授業の中では私たちが今後社会に出たときに直面するであろう身近な事例も取り上げながら進める。	
専門科目	全学対象科目 経済学部提供科目	ファイナンス3	本授業は、債券の商品設計を理解し、債券の評価方法を習得することを目的とする。最初に我が国の債券市場を俯瞰し、発行体別(国債、地方公共債、社債)、年限別(短期、中期、長期)の市場規模を理解する。次に複利(1ヶ月複利、3ヶ月複利、半年複利、年複利)によるキャッシュフロー評価手法を学ぶ。そして、債券(固定利付債、割引債、変動利付債)の元利金のキャッシュフローを理解する。続いて、利回りによる債券価格評価手法、デュレーション、コンバクシティによる債券のマーケット・リスク評価手法を習得する。あわせて金利(スポットレート、フォワードレート)の期間構造の概念を理解する。その後、格付けによる債券の信用リスクの評価、信用リスクをヘッジするためのクレジット・デフォルト・スワップについて理解する。最後に、転換社債型新株予約権付社債や仕組み債など、デリバティブを組み込んだ債券の商品設計と評価手法を習得する。	
専門科目	全学対象科目 経済学部提供科目	保険・年金論	本授業は、保険、とくに生命保険について学ぶ。生命保険は人間生活における重要な役目を担っている。すなわち、生死、病気といった人間が避けられないリスクに対する備えとしての機能である。本授業では生命保険の仕組み・制度について、法律的側面、経済的側面から学ぶ。本授業は、基本的にスライドを用いて講義を行う。また、実際に保険料の計算を行い、生命保険に関する深い知識を身につけることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目 証券市場論1	本授業は、短期金融市場、債券市場、為替市場の仕組みを理解することを到達目標とする。これに関連して、債券の価格付けや資産運用に関する基礎的な説明を行う。また、経済紙や業界レポートを適宜取り上げることにより、最新のトピックを紹介する。本授業内容を学ぶことで、経済ニュースがより身近な問題として感じられるとともに、ニュースの内容に対する理解が深まることを期待できる。本授業内容は、専門科目を履修する際の橋渡しとして位置付けられる。	
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目 証券市場論2	本授業は、株式市場およびデリバティブ市場の仕組みを理解することを到達目標とする。これに関連して、株式およびデリバティブの価格付けや資産運用に関する基礎的な説明を行う。また、経済紙や業界レポートを適宜取り上げることにより、最新のトピックを紹介する。本授業内容を学ぶことで、経済ニュースがより身近な問題として感じられるとともに、ニュースの内容に対する理解が深まることを期待できる。本授業内容は、専門科目を履修する際の橋渡しとして位置付けられる。	
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目 西洋経済史1	欧米の経済は資本主義社会の中心として発達し、今なお世界経済において重要な役割を果たしている。本授業ではこのような西洋の経済の歴史の概要を、前近代から近代への移行過程を中心に講義する。そのためにまず、西洋の経済の発展の全体像を説明するための様々な考え方を紹介し、検討する。次に、なぜ西洋においてはじめて近代資本主義社会が成立したのか、という点に注目し、その点を説明することを試みる様々な学説を紹介し、検討する。これらを通じて西洋の経済発展の経路をめぐる学説についての基礎知識を修得することを目標とする。	
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目 西洋経済史2	欧米の経済は資本主義社会の中心として発達し、今なお世界経済において重要な役割を果たしている。本授業ではこのような西洋の経済の歴史の概要を、近代から20世紀にかけて講義する。前半では、世界で最初に産業革命を達成したイギリスを取り上げ、産業革命後にどのような社会が形成されたのか、その下でどのような経済政策が形成されたのかを、貿易政策、労働政策、社会政策などを取り上げて検討する。後半では世界経済における覇権の推移に注目し、なぜ世界の工場となったイギリスが衰退したのか、代わりに台頭したアメリカやドイツはどのような経済発展を遂げ、どのような特徴を持っていたのかを説明する。以上の検討を通じて、近現代の西洋の経済発展についての基礎知識を修得することを目標とする。	
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目 産業組織論1	産業組織論はミクロ経済学を応用し、現実世界の企業間の相互関係や産業を対象とした分析を行う学問であり、相互に関係する企業がどのような戦略的行動をとり、その帰結として社会全体にどのような影響を与えるか明らかにすることを目的とする。本授業では産業組織論の基本となるミクロ経済学の基礎的な理解とともに、その知識を応用し、企業活動の意思決定、および市場構造の変化に伴う社会への影響を理解する。また現実の市場や企業活動の事例を取り上げ、より実践的な理解を目標とする。	
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目 産業組織論2	近年、日本のみならず、国際的に政府の産業や企業への規制の在り方が大きく変化している。また、環境規制をはじめ、産業への影響が大きい新たな規制や制度の存在が指摘されている。そこで本授業では、これまでの産業や企業に課されてきた規制や制度に関して、その意義と近年の変化について実際の事例を取り上げる。そして、規制や制度の社会に対する影響に関して、経済学の理論的、実証的観点から理解できるようになることを目指す。	
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目 労働経済1	労働経済学は、人々の働き方や雇用など労働市場の問題を経済学のツールを使って分析する学問である。本授業の前半では、家計の労働供給に焦点を当てて、人々が、どのように労働時間を選択するのかを説明する。本授業の後半では、企業の労働需要を説明したうえで、労働市場がどのように均衡するかを解説する。①労働供給曲線と労働需要曲線を導出できること、②労働需要と労働供給の考え方に基いて、現実の労働問題について説明できるようになることを到達目標とする。	
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目 労働経済2	労働経済学は、人々の働き方や雇用など労働市場の問題を経済学のツールを使って分析する学問である。本授業の前半では、「労働経済1」で学んだ労働供給モデルの考え方を発展させて、労働者のより現実的な行動を説明する。本授業の後半では、前半で学んだ労働市場の仕組みを踏まえ、賃金格差に関連するトピックを取り上げる。①家計内生産モデルを用いるなどして、労働供給の観点から労働政策における問題点を説明できること、②人的資本理論や補償賃金仮説などを用いて、現代の労働問題を説明できることを到達目標とする。	
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目 経営統計学	現代人は、人気商品やドラマの視聴率などの様々なデータに、テレビやインターネットなどを通して日々接している。また、企業の事業活動においても売上高や購入履歴などの様々なデータが大量に扱われている。これらの、大量で多様なデータの中から、必要な情報を抽出し、適切な解釈を与えることは容易なことではない。統計学はデータを客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論である。本授業ではそのような統計学の基本的な考え方を身につけることを目標とする。	
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目 財務会計論1	本授業は、主に、企業の成績表といわれる財務諸表の作成・表示方法等に焦点を当て、財務会計の概念、会計基準等の具体的なルールや計算、概念とルールの関係等を理解することを到達目標とする。とくに、財務諸表の概要、損益会計、資産会計等に焦点を当てる。より深い理解のため、企業の開示例や関連するカレントトピックも適宜扱う。なお、これらの内容は、公認会計士試験、税理士試験、日商簿記検定(2級～1級)などの資格検定試験の内容とも関連しているため、それらの復習や予習等にも適宜活用可能である。毎回、原則、パワーポイントで作成された講義資料に基づく講義の後、理解を深めるために、学習内容に即した演習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目	財務会計論2	本授業は、主に、企業の成績表といわれる財務諸表の作成・表示方法等に焦点を当て、財務会計の概念、会計基準等の具体的なルールや計算、概念とルールとの関係等を理解することを目標とする。とくに、負債会計、純資産会計、企業結合会計等に焦点を当てる。より深い理解のため、企業の開示例や関連するカレントなトピックも適宜扱う。なお、これらの内容は、公認会計士試験、税理士試験、日商簿記検定(2級～1級)などの資格検定試験の内容とも関連しているため、それらの復習や予習等にも適宜活用可能である。毎回、原則、パワーポイントで作成された講義資料に基づく講義の後、理解を深めるために、学習内容に即した演習を行う。	
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目	経営分析論	会計は、企業のさまざまな活動を数値情報に集約し他者に伝達する「事業の言語」といえる。本授業では、会計という言葉を使い、企業の特徴を読み取るための考え方の説明と演習を行う。いわゆる財務諸表分析で用いられる主要な財務指標に加え、会計に関する情報開示制度を学び、財務分析や企業分析に必要な情報を履修生自ら入手し分析できるようになることを目標とする。履修生は分析対象企業が1社ずつ割り当てられ、本授業中に当該企業の財務指標を算出し、経営分析の内容をレポートとしてまとめる。	
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目	財務報告論1	本授業は、証券アナリスト1次試験科目のひとつである「財務分析」の試験範囲を学ぶ。学習内容は、日商簿記検定1級の範囲から財務諸表分析や企業評価に至るまで多岐にわたる。本授業では、主に財務会計分野の総論について理解を深めることを目標とする。本授業は、レジュメを用いて講義を行い、講義内容に関連する例題や練習問題を解説していく形で行う。また、適宜スライドを用いて説明したり、カレントなトピックに関する資料を配布するなどして、よりよく内容を理解し、かつ最新の会計情勢に関する知識を提供する。	
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目	財務報告論2	本授業は、証券アナリスト1次試験科目のひとつである「財務分析」の試験範囲を学ぶ。学習内容は、日商簿記検定1級の範囲から財務諸表分析や企業評価に至るまで多岐にわたる。本授業では、財務会計領域の各論と財務諸表分析について理解を深めることを目標とする。本授業は、レジュメを用いて講義を行い、講義内容に関連する例題や練習問題を解説していく形で行う。また、適宜スライドを用いて説明したり、カレントなトピックに関する資料を配布するなどして、よりよく内容を理解し、かつ最新の会計情勢に関する知識を提供する。	
専門科目	全学対象科目	経済学部提供科目	金融法1	近代になって、経済の飛躍的成長が可能となった背景には、大規模なリスクマネーの供給(金融)を可能ならしめた、「株式会社」という仕組みの発明や、「資本市場」の整備といった経済社会のインフラ構築と、それらが機能不全に陥ることを防ぎ、経済社会の進化に即して、より有効に機能するように、法規制を通じて積み重ねられてきた不断の工夫と改善の努力がある。本授業では、経済学や金融論では当然の前提とされがちな、経済システムを支えてきた企業金融を巡る法規制(会社法や金融商品取引法を中心に)を取り上げ、それぞれの法の目的に照らして、その達成手段たる規制の必要性と合理性を理解することを目標とする。	
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目	英語学概論1	英語学に包摂される諸領域、すなわち英語史・語彙論・音声学・統語論などから担当者がいくつかテーマを設定し、それらをめぐってさまざまな考察を展開することで、英語に対する興味を喚起し、また理解を深めさせ、よりバランスのとれた英語像を得させることが、本授業の目的である。説明が抽象的な議論に終わらないよう、必ずテーマに関連する言語材料を用意し、その分析を通じてより具体的なかたちでテーマへの理解が進むように授業を進める。	
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目	英語学概論2	英語学に包摂される諸領域、すなわち英語史・語彙論・音声学・統語論などから担当者がいくつかテーマを設定し、それらをめぐってさまざまな考察を展開することで、英語に対する興味を喚起し、また理解を深めさせ、よりバランスのとれた英語像を得させることが、本授業の目的である。説明が抽象的な議論に終わらないよう、必ずテーマに関連する言語材料を用意し、その分析を通じてより具体的なかたちでテーマへの理解が進むように授業を進める。本授業では、「英語学概論1」で学修した内容を踏まえ、さらに発展した内容を扱う。	
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目	英語教育学1	英語科教育を取り巻く歴史、日本や世界の社会的背景や理論を幅広く扱い、日本における外国語としての英語科教育の課題や、今後の発展について多角的に考察する。履修生は今まで小中高で受けてきた英語の授業を振り返りながら、教育者・学習者両方の視点から英語科教育を議論できるようにすることを目標とする。例えば、本授業では英語科教育における学習者要因を理解することの重要性や、英語教員の多様な役割といった側面から英語教育を議論する。本授業は指定教科書の内容の紹介にとどまらず、教員が選んだ関連研究データや英語習得を促す新たな学習法や教材の紹介、英語教科書の分析などを盛り込むことによって、取り扱われている内容を深く理解できるようになることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	英語教育学2	本授業は、実際英語科授業をどのように展開するのか具体的に考えられるよう4技能5領域の具体的な指導法やICT、チームティーチングについて学ぶ。履修生は「英語教育学1」に引き続き今まで小中高で受けてきた英語の授業を振り返りながら、教育者・学習者両方の視点から英語科教育を議論できるようにすることを目標とする。本授業は指定教科書の内容の紹介にとどまらず、教員が選んだ関連研究データや英語習得を促す新たな学習法や教材の紹介、英語教科書の分析などを盛り込むことによって、取り扱われている内容を多角的に理解できるようにすることを旨とする。	
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	異文化コミュニケーション論1	本授業は、異文化コミュニケーションというトピックについて基本的な理解を身につけるための講義科目である。主に言語人類学、社会言語学の見地から広く考察する。具体的には、非英語圏・英語圏の事例を通して、コミュニケーションの場として、仕事場でのコミュニケーション、移民の言語選択とアイデンティティ、マイノリティーの言語使用など、多文化共生社会が直面する様々な状況を紹介する。また併行して、より調和のとれた世界のための実践哲学を紹介する。世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解することが本授業の目的である。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	異文化コミュニケーション論2	本授業は、異文化コミュニケーションというトピックについて基本的な理解を身につけるための講義科目である。異文化コミュニケーションというトピックについて、「異文化コミュニケーション論1」の内容をより発展させて考察する。具体的には、英語圏・非英語圏・日本での多言語・多文化状況の紹介・分析に加え、実際多文化の共生・調和のとれた世界を目指して行われてきた職業・活動の実践例も紹介し、考察する。そして異文化の者同士がより調和をとりながら共生・前進していくためのヒントを探る。世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解することが本授業の目的である。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	アメリカの文学1	本授業は、17世紀の植民地時代から19世紀末までのアメリカ文学について、代表的な作家と作品を取りあげながら概観する。具体的には講義形式により作品の重要箇所をハンドアウトで紹介しつつ、各作品や作家の文学的特徴および時代ごとの文学的特徴を考察する。作品紹介だけにとどまらず、その作品の書かれた社会的・文化的背景にも目を向け、作品がいかなる時代背景のもとで登場したのかを検討することで、各作品の歴史的意义についての理解を深めることを目標とする。	
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	アメリカの文学2	本授業は、20世紀初めから現代に至るまでのアメリカ文学について、代表的な作家と作品を取りあげながら概観する。具体的には講義形式により作品の重要箇所をハンドアウトで紹介しつつ、各作品や作家の文学的特徴および時代ごとの文学的特徴を考察する。作品紹介だけにとどまらず、その作品の書かれた社会的・文化的背景にも目を向け、作品がいかなる時代背景のもとで登場したのかを検討することで、各作品の歴史的意义についての理解を深めることを目標とする。	
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	イギリスの文学1	研究対象となる地域の文学に親しむことは、当該地域の文化についての知識を蓄え、その心に親しむためのもっとも優れた方法である。本授業は、そのような観点から、英米文化研究のための基礎的な科目としてイギリス文学の流れを概観する。本授業は、古英語時代から18世紀までを講義の対象とするが、重要な文芸思潮について解説するだけでなく、その社会的背景や思想、芸術との関連についても言及することによって、文学史の学習がイギリス史およびイギリス文化史に対する興味と理解を深めることを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	イギリスの文学2	研究対象となる地域の文学に親しむことは、当該地域の文化についての知識を蓄え、その心に親しむためのもっとも優れた方法である。本授業は、そのような観点から、英米文化研究のための基礎的な科目としてイギリス文学の流れを概観する。本授業は19世紀から現代を講義の対象とするが、重要な文芸思潮について解説するだけでなく、その社会的背景や思想、芸術との関連についても言及することによって、文学史の学習がイギリス史およびイギリス文化史に対する興味と理解を深めることを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	英語圏文学入門1	本授業は、英語圏の文学を題材にして、文学を読むことの意味をさまざまな観点から入門的に解説・紹介を行う講義である。重要と思われる複数のテーマを選び、その例となる作品を具体的にかつ多面的に論じることで、文学研究の基礎について学ぼうとする学生にとってよりわかり易い議論を展開する。前学期の議論はモダニズムやポストモダニズムなど、文学思潮を軸に展開する。ただし抽象的な議論に終始することは避け、文学の楽しさを学ぶ。文学作品についての理解を深めると共に、様々な観点から文学を解釈する方法を学ぶことが本授業の目的である。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	英語圏文学入門2	本授業は、「英語圏文学入門1」に引き続き、英語圏の文学を題材にして、文学を読むことの意味をさまざまな観点から入門的に解説・紹介を行う。重要と思われる複数のテーマを選び、その例となる作品を具体的にかつ多面的に論じることで、文学研究の基礎について学ぼうとする学生にとってよりわかり易い議論を展開する。後学期の議論はジェンダー、人種、階級といったテーマから展開されることもありうる。ただし抽象的な議論に終始することは避け、文学の楽しさを学ぶ。文学作品についての理解を深めると共に、様々な観点から文学を解釈する方法を学ぶことが本授業の目的である。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	英米の思想1	本授業は、現代の英米人の考え方や生き方を規定するとともに、その経験主義的な思想が現代世界に広く影響を与えている英米の近現代思想の展開の全体像を把握することを目的とする。大きな思想の流れを重要な思想家間の理念の継承発展の過程として描くとともに、個々の思想家が、その置かれた政治・思想的なコンテクストの中で、直面した個別的な問題にどのように取り組み、その活動を思想へと一般化していったかを、明らかにする。本授業は英国のルネッサンス期からアメリカ独立と建国の思想に至る18世紀後半までを扱い、教会と国家、国制と革命、経済と道徳などのテーマを追究する。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	英米の思想2	本授業は、「英米の思想1」に引き続き、より深く英米人の精神を理解するために、英米の近現代思想の展開の全体像を把握することを目的とする。さらに、現代の諸問題の探求につながる意義にも触れる。大きな思想の流れを重要な思想家間の理念の継承発展の過程として描くとともに、個々の思想家が、その置かれた政治・思想的なコンテクストの中で、直面した個別的な問題へどのように取り組み、その活動を思想へと一般化していったかを、明らかにしていく。本授業は19世紀の民主化と産業革命の時代の自由主義思想を功利主義や保守主義の展開から始め、その後の社会民主主義や進化論の影響にも触れ、多文化主義など現代英米思想の多様な展開までを概観する。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	アメリカ史1	本授業は、現代アメリカへの理解を深めるために、アメリカの歴史を社会、経済、政治、文化などの多様な側面を概説する。アメリカ史に関する知識と理解を深めると同時に、歴史研究の基礎を身につけることを目標とする。本授業は、まずアメリカの地理に関する基礎的な講義を行った後、植民地時代から南北戦争勃発期までを概観する。アメリカがどのような経緯でイギリスから独立して、共和国を建設したのか。建国後の西部への発展はいかなるものであったのか。工業化する北東部・中西部と農業に依存する南部とが、どのように相互依存すると同時に、対立していったか。これらの問題を中心に、19世紀半ばまでのアメリカの歴史を学んでいく。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	アメリカ史2	本授業は、南北戦争以降、現代までのアメリカの歴史を概説する。まず、工業化と都市化の進展について学び、それを背景に急速に変貌するアメリカについて、社会、政治、文化の側面から解説する。また、実写フィルムも参考にしながら、19世紀末期以降、アメリカがいかにして世界の大国となっていったか、またそれにもなつてどのような問題を抱えるようになったかを考察する。次に、繁栄の1920年代、1930年代の大恐慌とニューディール、第二次大戦とその後の冷戦期を中心にアメリカの現代史をたどる。アメリカ史についての知識を培うと共に、現代のアメリカについて、また世界におけるアメリカの位置づけについてよりよく理解することが本授業の目的である。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	イギリス史1	本授業は、現在のイギリスの内外の状態をより深く歴史背景から理解することを目的として、この国がたどってきた歴史を古代から近代まで概説する。この目的のために本授業では、現在の多文化主義社会、連合王国の揺らぎ、そしてEUの統合の深化とそれからの離脱といった現在を反映した過去理解として、とくに諸民族の交流と帝国や大陸ヨーロッパとの関係に重点を置いた歴史叙述を提示する。本授業はローマン・ブリテンから始め、17世紀の革命・内乱・三王国の戦争までの時代を政治教会制度と経済・文化・精神の歴史も含めて総合的に概観する。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	イギリス史2	本授業は、「イギリス史1」の通史を受けて、現在のイギリスの内外の状態をより深く歴史背景から理解することを目的として、この国がたどってきた歴史を近代から現代まで概説する。この目的のために本授業では、現在の多文化主義社会、連合王国の揺らぎ、そしてEUの統合の深化とそれからの離脱といった現在を反映した過去理解として、とくに諸民族の交流と帝国や大陸ヨーロッパとの関係に重点を置いた歴史叙述を提示する。本授業は産業革命とイギリス帝国の形成の時代から福祉国家と現在のEU離脱までを政治・社会保障制度と経済・文化・精神の歴史も含めて総合的に概観する。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	アメリカ文化論1	本授業は、アメリカ合衆国に関わる事象について、学術分野や領域にこだわらず、広く、やさしく導入する概論を意図した講義科目である。アメリカの政治・経済・外交・社会・文化等、幅広い分野にわたるテーマを取り上げ、これらのテーマについて基本的な情報を提供し、広く学ぶことを目的とする。本授業を通して履修生はアメリカへの関心を深めるとともに、通俗的で断片的であったアメリカ像を超えて、今後アメリカ研究をより限定的な分野で深く進めていく契機を得る。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	アメリカ文化論2	本授業は、「アメリカ文化論1」を受けて、より詳細な形で、アメリカ合衆国全体について、学術分野や領域にこだわらず、広く、概論する。アメリカの政治・経済・外交・社会・文化等、幅広い分野にわたるテーマを取り上げ、これらのテーマについて基本的な情報を提供し、広く学ぶことを目的とする。とくに本授業ではアメリカ人の自己意識の探求としてのアメリカ研究自体の変遷も説明する。本授業を通して履修生はアメリカへの関心を深めるとともに、通俗的で断片的であった旧来のアメリカ像を反省する機会とする。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 イギリス文化論1	本授業は、イギリスの自然環境・政治・経済・国際関係・社会・文化など多様な分野について分かりやすく説明し、この国の全体像を理解できるようにすることを目的とした専門研究への入門的な講義科目である。現代英国の国民生活について広く基本的な事実を体系的に知ることで、今後より専門的なイギリス研究に進んでいくとき把握しておく必要がある基礎的な枠組みを提供する。現在の英国が抱える諸問題やそれへの取り組みを紹介するとともに、国民生活を支える諸制度の仕組みを説明する。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 イギリス文化論2	本授業は、「イギリス文化論1」に引き続き、平易な言葉で、イギリスとアイルランドやコモンウェルス諸国も含めた地域の文化と社会全般について入門的な授業を行う。広い国際的な文脈で現代英国の国民生活について、広く基本的な事実を体系的に知ることを目的として、今後より専門的な研究に進んでいくときに前提となるような基礎的な枠組みを提供する。本授業では「イギリス文化論1」に説明した諸制度がどのような現実と直面しているか、国民の社会経済生活の実態および論争の中心となっている国民のアイデンティティ、「イギリス的なもの」をめぐる問題をとくに概観していく。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 観光文化論(英米)1	本授業は、近現代の観光と英米文化の相互の関係を、観光学の理論と英米の観光の実際の歴史と現状とから、総合的に概説することを通して、観光を文化や政治の問題を内包したものととして、批判的学問的に分析する視座を養うことを目標とする。メディアなどを通して社会的に操作形成される「観光客のまなざし」、観光から投影されて演出される国民文化のイメージ、そして観光客と観光地の地元の文化やコミュニティの関係が主要なテーマとなる。本授業はモダンツーリズムが近代イギリスのどのような文化と社会から形成されたか、そしてそれがその後どのような変遷を現代まで経てきたかを探りながら、現代のイギリス観光の実態と問題から文化遺産や自然環境をめぐるイギリスの文化状況を明らかにする。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 観光文化論(英米)2	本授業は、近現代の観光と英米文化の相互の関係を、観光学の理論と英米の観光の実際の歴史と現状とから、総合的に概説することを通して、観光を文化や政治の問題を内包したものととして、批判的学問的に分析する視座を養うことを目標とする。本授業はアメリカ合衆国の観光の歴史と現状を題材に、アメリカ文化の形成要因としての観光、また逆に、移民や交通の発展などアメリカの歴史や文化が生み出したアメリカ観光の特質を考える。とくにアメリカの西部の国立公園など国土の観光の奨励とナショナルリズム育成の関連、テーマパークとアメリカの大衆文化論からポストモダン文化の真正性の問題、都市観光と都市再生の実例から地方のまちおこしの課題を取り上げる。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 ドイツ文学史1	本授業は、中世から現代までのドイツ文学の歴史をたどる講義である。ドイツ語圏の文学と社会における主要な作家・作品を紹介するとともに、それぞれの時代の社会の動きに注目し、文学とその他の芸術ジャンルのかかわりかたにも眼をくばりながら授業を進める。本授業において軸となるのは、「ゲーテ時代」からドイツ・ロマン主義文学にかけての諸相である。履修生はドイツ文学にかかわる具体的な知識を習得するとともに、興味を持った作品を読んでみるものが求められる。文学史の個別の項目をただ時間軸に沿って学ぶのではなく、それぞれの有機的なつながり、また文学と社会、および隣接する芸術ジャンルとのダイナミックなかかわり合いを認識し、かつ実感してもらおう、というのが到達目標である。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 ドイツ文学史2	本授業は、「ドイツ文学史1」に引き続き、現代までのドイツ文学の歴史をたどる講義である。ドイツ語圏の文学と社会における主要な作家・作品を紹介するとともに、それぞれの時代の社会の動きに注目し、文学とその他の芸術ジャンルのかかわりかたにも眼をくばりながら授業を進める。本授業は、主として19世紀後半、いわゆる「リアリズム文学」の時代を扱いつつ現代までの射程も視野に入れる。履修生はドイツ文学にかかわる具体的な知識を習得するとともに、興味を持った作品を読んでみるものが求められる。文学史の個別の項目をただ時間軸に沿って学ぶのではなく、それぞれの有機的なつながり、また文学と社会、および隣接する芸術ジャンルとのダイナミックなかかわり合いを認識し、かつ実感してもらおう、というのが到達目標である。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 フランス文学史1	本授業は、中世から現代までのフランス文学史を概観する。フランス文学史の大きな流れと、代表的な作家、作品、重要概念について理解することを目指す。また、翻訳文献の抜粋の考察を通じて、具体的な知識の習得を目指す。この文学史の授業は、同時にひとつの読書案内になるよう設計しているため、履修生は興味を持った作品を読むことが求められる。また、文学の歴史は社会の動きや美術、音楽といった他の芸術ジャンルの歴史と連動しており、本授業ではそうした側面にも光を当てる。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 フランス文学史2	本授業は、19世紀、20世紀のフランス文学史に関して、「フランス文学史1」よりも詳細に学ぶ。フランス文学史上の重要概念を説明するとともに、各時代を代表する作品を取り上げ、その引用を読みながら、知識の具体化を図る。この文学史の授業は、同時にひとつの読書案内になるよう設計しているため、履修生は興味を持った作品を読むことが求められる。また、文学の歴史は社会の動きや美術、音楽といった他の芸術ジャンルの歴史と連動しており、本授業ではそうした側面にも光を当てる。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 ヨーロッパ古典文学	古代ギリシアにおいて花開いた文化は、西洋文化の源流の一端となって、今なお様々な形でその消息をたどることができる。驚くべきことに、文学・哲学・歴史といった営みは、かつてみな詩女神ムーサ(Muse)の領域にあった。もしくは、その領域と接していたのである。私たちが知る限り、最も古いその所産は、ホメロスの名のもとに伝えられる二つの長大な英雄叙事詩『イリアス』と『オデュッセイア』である。本授業では、まずこの二大叙事詩に親しく触れながら、古代ギリシアの成熟していく様子を垣間見る。『イリアス』を日本語訳で読破し、理解すること、古代ギリシアの背景を知ること、西洋の古典作品に対する現代人としての向き合い方を探ることが、本授業の到達目標である。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 比較文学論(日欧)	本授業では、文学は文学だけの事象ではなく、とくに絵画、神話、宗教、哲学等と境界を接している学問であることを理解する。そのため、テキストをいかに読むか、その余白の見つけ方、解釈の仕方が問題となる。とくに国単位の文学史が流布させた、自己中心主義的な狭い視点から抜け出すことが課題である。具体的には神話、宗教、文学、絵画等の大きなジャンルに分け、各言語体の有する自然観や死生観、宗教意識や感情表現などに着目し、テキストに即して理解を深めることを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 比較思想(日欧)	本授業は、主として明治以降にわが国に輸入されたヨーロッパ思想の内容と輸入の諸相について扱う。「思想」といっても「哲学者」によるものに限定せずに、履修生ができるだけ多くの課題に眼を向けるように、広く文化研究の土台となるような内容を提供する。そのため、政治思想、社会思想、文学思想なども含めて扱う。背景となる歴史上の出来事や事件も踏まえ、思想の内実に向かっていく。本授業で紹介された文献や思想書を実際に読んでみて、自分なりに理解を深めていくことを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 日本の言語文化1	本授業は、現代日本語の現状、日本語独特の表現論理、日本語コミュニケーションの特徴についての講義を通じて、日本語の表現が日本の文化や伝統と密接に関連していることを理解するとともに、履修生が日本語に関する専門的な見方を養い、日本語を研究する基礎を身につけ、日本語と日本文化との関わりについて自らの見識がもてることを目的とする。本授業では、言語と文化とはともに構造の側面と、運用の側面をもつものであって、共通性が高いことを論じたり、情報化・国際化社会における日本語の現状と課題について論ずるなど、現代日本語をめぐる諸問題を言語変化の一環として捉えていく。	
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 日本の言語文化2	本授業は、「日本の言語文化1」に引き続き、現代日本語の現状、日本語独特の表現論理、日本語コミュニケーションの特徴についての講義を通じて、日本語の表現が日本の文化や伝統と密接に関連していることを理解するとともに、履修生が日本語に関する専門的な見方を養い、日本語を研究する基礎を身につけ、日本語と日本文化との関わりについて自らの見識がもてることを目的とする。とくに、中国語・中国文化との交流のたまものである漢字、キリスト教宣教師との交流、文明開化の時代における日本語の標準化などの問題について考究するとともに、日本語の歴史に対する専門的な見方を身につけ、日本語への理解を深め、日本語の運用力を高めることが必要である。テーマは「日本語の歴史的变化と文化交流」とする。	
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 日本古典文学史1	平安中期から中世中期に至る時期に書かれた随筆は時代を象徴するように書かれている。その流れをつかみ、作品から時代の関心を探り、以下の観点も考慮しつつ、作品を理解することを目的とする。①文学史の方法を考える。②『枕草子』を読み、王朝文化の最も栄えた時代における書くことの意味を導く。③『方丈記』で鴨長明の書こうとしたことが時代の表現としてどのように成り立っているかを考察する。④『徒然草』を読み、『方丈記』での生き方のモデルという問題が、どのように展開したかを考え、その生き方が形成する美意識を探る。	
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 日本古典文学史2	本授業は、平安末から鎌倉初期の文学の流れを考えて論じる。次のような観点も汲みながら、混乱の時代がどのように書かれたか、どのような文体を生み出したかを理解することを目的とする。①文学史の方法を論ずる。②ひらがな体の文学の達成したものを論ずる。③『源氏物語』以降の物語文学が辿った方向を論ずる。④『和泉式部日記』『紫式部日記』以降の日本文学が書いたものを論ずる。⑤新たな文体として漢文訓読系の『今昔物語』が登場することの意味を論ずる。	
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 日本近現代文学史1	本授業は、日本の近現代文学のうち、明治期の文学を中心に扱う。我々が思い描く「小説」の雛形が生まれたのは、およそ明治20年代前後とされているが、当時の「小説」は現代の文学と、あるいはそれ以前の古典文学と、どのような相違をもっているのだろうか。前時代の名残を未だ残しつつ、近代化と西洋化が著しく進む明治という時代において、文学の表現はどのように変化していったのだろうか。美術・韻文・海外文学・科学など、様々なジャンルによって「小説」の概念が揺れ動いていく様を、作品の言葉を丹念に読み解くことで追跡し、履修生それぞれの文学史観の確立を目標とする。	
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 日本近現代文学史2	本授業は、日本の近現代文学のうち、大正・昭和期の文学を中心に扱う。雑誌・新聞等のメディアが伸張したこの時期、それに伴う「大衆」概念の成立によって、自ずと文学は、その性格を変えていくことになる。関東大震災、戦争、敗戦といった未曾有の経験から、文学はどのような影響をうけ、またそれらを描き出していったのか、大正・昭和から現代に至る文学の歴史的変遷をたどることで、我々が半ば自明視している「小説」というジャンルの性質と実質を、改めて考え、履修生それぞれの文学史観の確立を目標とする。	
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 日本思想史1	本授業は、江戸時代前半における儒学と政治・経済・社会についての考え方の関連をさぐる。江戸時代の学問の中心にあった儒学は、道徳の学問であると同時に政治の学問でもあった。「経世済民」の学である。著名な儒学者であれば、経世論を記し、当時の社会や政治を改革しようとする提言を行っている。このような経世論の中から熊沢蕃山と荻生徂徠の二人を取り上げ、両者を比較しつつ、理想主義と現実主義の思想的スタンスの相違についての認識を深め、その相違がどのような儒学理解の差異とかがかかわっているのか理解を深めることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	日本思想史2	本授業は、江戸時代後半から幕末に至る政治・経済・社会についての考え方をさぐる。「日本思想史1」の中で取り上げた熊沢蕃山の理想主義的志向、荻生徂徠の現実主義的志向は、どのような形で引き継がれたのか。経世論が次第に富国論という形をとるようになると現実主義的志向が優位を占めるようになるが、理想主義的志向がなくなったわけではない。二つの系譜が交錯しながら対外的危機に直面する幕末の富国強兵論に帰結する展開について理解を深めることを目標とする。	
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	中国思想史1	本授業は、日本を含む東アジア世界に多大な影響を与えた中国の哲学・思想史に関する基礎的な知見を提供することを主要な目的とする。あわせて、「中国」という地域や概念それ自体の多様性や、むしろ近代西欧によって形づくられた「アジア」「東洋」といった概念の問題性、その多義性や複雑性についても考究する。本授業においては、まず、現代の日本に生きる我々が中国の歴史や文化を学ぶことの意義を整理しつつ考察し、次いで「中国」という国ないし地域に関する歴史・風土・民族などについての大まかな概説を行う。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	中国思想史2	本授業は、「中国思想史1」に引き続き、日本を含む東アジア世界に多大な影響を与えた中国の哲学・思想史に関する基礎的な知見を提供することを主要な目的とする。上述の目標・主眼に沿って、なるべく通史的かつ概説的な講義を行う。そのなかでも、諸子百家、取り分け儒家と道家の思想、道教、中国仏教など、我が国にも多大な影響を及ぼしていくつかの思想・宗教については、歴史的・社会的な背景をも視野に収めつつ、哲学的にもより踏み込んだ考察を加え、さらには、比較文化的・比較思想的な観点からの検討も試みる。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	朝鮮文学史1	本授業は、韓国・朝鮮文学全般に対する知識を深めることを目標に、朝鮮半島で営まれた文学行為の歴史について概観する。ハングルは15世紀の中盤にできたということは、ハングルの文学作品は古くとも15世紀以降のものということになる。それまでは(そしてそれ以降も)漢文で文章を書く人たちが数多くいた。また古代には、日本の『万葉集』のように、漢字を借用して固有の言葉を表記しながら韻文を作ることもあった。日本列島と朝鮮半島は隣接しているため、文学についても比較するといえる面白さがある。そのように興味深い事実を紹介しながら、あわせて「文学」を研究するとはどういうことかについて、履修生と一緒に考えていく。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	朝鮮文学史2	本授業は、「朝鮮文学史1」に引き続き、韓国・朝鮮文学全般に対する知識を深めることを目標に、韓国・朝鮮の代表的な文学作品や映画、ドラマを実際に鑑賞しながら、その歴史的背景を知るとともに、作家たちの感受性や想像力の独自性を味わう。観覧する映画には日本語の字幕があり、文学作品もすべて日本語訳で講読する。本授業では具体的には、「後日談」と内向の世代、女性文学(1990年代)や韓国の現代文学として、韓国文学から世界文学へ(2000年代以降)という流れを追う。	隔年
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	日本服飾文化史1	本授業は、古代の大袖形式から近世の小袖に至る日本の服飾形式の変遷を通覧し、その特質を考察する。服飾変遷は、巨視的には「漸変」「形式昇格」「表衣脱皮」とよばれる3原則に従って進行している。この過程を現代のキモノの原型である小袖を中心に捉えていくことで、各時代の服飾の特徴を明らかにしていく。服飾史における原則的側面を理解し、日本独自の染織のあり方を理解することを目標とする。履修生は、服飾史・染織史を中心とした日本美術史の概説を最低限理解するため、授業内で紹介するテキストを通読しておくことが求められる。日本美術史関係の基礎知識を身につけておくことが望ましい。	
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	日本服飾文化史2	本授業は、染織資料における史料の忠実な解釈を通して、巷間にひろがる誤謬を含んだ言説を廃し、日本服飾史の独自性と先進性についての理解を含めることを目標に、「日本服飾文化史1」の内容を踏まえた上で、友禅染を中心とした意匠変遷の問題に光を当てる。また、近世の染織品がどのような環境下に置かれ伝存してきたのかという問題や、現代の伝統工芸のありように関わる問題にも言及する。まずは友禅染の諸問題からとさおこし、染織品と墨書、意匠の問題、染織コレクションについて、さらに服飾史・染織史の諸問題、小袖意匠の変遷の総括といったテーマを扱う。	
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	日本建築史1	本授業は、様式建築である社寺建築を対象にする。日本建築の三大様式である和様、大仏様、禅宗様の寺院建築・神社建築および近世社寺建築について、様式の特徴や、成立過程、歴史的背景、文化的意義、構造や建築空間の発展過程などを講義する。東アジア文明圏における日本建築の特質と歴史を、中国・韓国寺院建築との対比の中でみてゆく。社寺建築の各部材や意匠を理解し、様式の判別や建築年代の推定ができるようになることを目標とする。	
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	日本建築史2	本授業は、貴族住宅・武士住宅・民家・城郭・茶室などの世俗建築および、代表的な都市の形成過程と変遷、その種類や特質について講義する。寝殿造や書院造といった上層階級の住まい、民家などの庶民の住まい、平安京・鎌倉・江戸などの各時代の都市を歴史的背景において考える。本授業では、住居史・都市史の最新の成果を取り上げ、遺構や発掘資料・絵画資料など、具体的なモノから住まいと都市の歴史を読み取る。自分で民家の略平面図が作成できるようになることを目標とし、平面図の作成方法についても指導する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 日本美術工芸史1	本授業は、主に中・近世に描かれた様々なジャンルのイメージ作品研究を講義する。日本絵画史についての通史的な概説ではない。絵画に親しんでもらうことを目的とする。主に12世紀に成立した『信貴山縁起絵巻』を素材に、「絵巻」というメディアの特質について考える。絵巻ならではの特性をいかんなく発揮している『信貴山縁起絵巻』を具体的に取り上げて、説話内容の理解、画中のイメージや構図の分析などを通して、「絵巻」について考える。実際に絵巻を作って、「絵巻」というメディアを実感しつつ、講義を進める。	
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 日本美術工芸史2	本授業は、「日本美術工芸史1」に引き続き、主に12世紀に成立した『信貴山縁起絵巻』を素材に、「絵巻」というメディアの特質について考える。連続した絵巻の画面構成は、12世紀のアニメーションと評されることがある。絵巻ならではの特性をいかんなく発揮している『信貴山縁起絵巻』を具体的に取り上げて、説話内容の理解、画中のイメージや構図の分析などを通して、「絵巻」についての理解を深めることを目標とする。実際に絵巻を作って、それを広げたり、巻いたりしながら、「絵巻」というメディアを実感しつつ、講義を進める。	
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 日本の身体文化1	日本人と西洋人はなぜ歩き方が違うのか、立ち方、歩き方、坐り方、食事の仕方や服の着こなし等々、誰もが日常的に行っている動作のなかには、その人が生まれ育った社会の文化情報が無数に潜んでいる。また、それらは衣服、履物、家屋の様式など、物質文化との密接なかわりのなかで育まれてきた。本授業は、そのように日々の習慣のなかで身につけられた身体文化の特色を読み解き、実生活に根ざした日本文化の方向性について理解を深めることを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 日本の身体文化2	本授業は、文字史料および画像・映像資料をどう読み解いていくかに逆いて、その着眼点を身につけることを目標に、「日本の身体文化1」の授業の内容を引き継ぎつつ、以下のような問題を考える。「伝統文化は『正坐』でやるもの」という常識は、実は近代になって作られた考え方。古代や中世の日本人は「あぐら」や「立て膝」「踵坐」「安坐」など、実にさまざまな「坐」のパリエーションを持っていた。中世から現代に至るまで、日本人の坐り方の歴史を見渡し、現代では忘れ去られてしまった坐り方の作法、「坐」を支える道具やファッション、空間のしつらえなど、多彩な図像資料をもとに解説していく。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 日本芸能史1	芸能は現実の社会生活の下ではひた隠しにされている人々の欲望を解放することが許される、「救い」や「癒し」の場である。ゆえに、芸能やその担い手たちを通して、時代・社会の表舞台にあらわれてくることのない「ほんとう」の姿を体験していくことが可能となる。本授業は様々な芸能を通して逆にそれぞれの時代の特徴をさぐり、歴史を再構築していくことを目的とする。現在目にする歌舞伎の原型ともいうべき野郎歌舞伎に至る近世以前の代表的な芸能を取り上げ、その歩みを時代・社会に位置づけながら概観する。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 日本芸能史2	本授業では「日本芸能史1」と同様に、単に日本における芸能のあゆみを時系列的に紹介・解説するものではなく、様々な芸能を通して逆にそれぞれの時代の特徴をさぐり、歴史を再構築していくことを目的とする。「日本芸能史1」に引き続き、主に画像・映像資料を多用しながら、江戸時代の歌舞伎を中心に歌舞伎を構成する様々な要素に焦点を当て、それらを多角的に検証していくことで、現在ある歌舞伎の原風景を概観していく。履修生には積極的な参加の姿勢が求められる。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 琉球文化論1	本授業は、琉球弧の文化、文化論を柳田國男、島尾敏雄のヤボネシア論を中心に、その影響を含めて解説していき、後半は琉球弧の文化の核にひとつになっている琉球語(琉球方言)を講義する。琉球・沖縄文化と民俗を個々のテーマに基づいて分析しながら、背後に潜む琉球・沖縄文化と民俗の特性についての一層の理解を深め、かかえている多様な問題を理解することを目標とする。	
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 琉球文化論2	本授業は、「琉球文化論1」に引き続き、琉球弧の文化、文化論を柳田國男、島尾敏雄のヤボネシア論を中心に、その影響を含めて解説していき、後半は琉球弧の文化の核にひとつになっている琉球語(琉球方言)を講義する。琉球・沖縄文化と民俗を個々のテーマに基づいて分析しながら、背後に潜む琉球・沖縄文化と民俗の特性についての一層の理解を深め、アジア諸地域と密接不可分に係わり合いながら展開していく沖縄文化の複合性を理解することを目標とする。	
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 朝鮮文化論1	本授業は、韓国・朝鮮の民族文化について、キーワード別に解説する。地理や風土、古代から現代までの各時代の歴史・人物史、ハングルの成立とそれ以前の朝鮮半島の言語、文学の歴史(古代から植民地時代まで)、宗教(儒教、仏教、キリスト教、その他)、食文化(伝統食から現代まで)、冠婚葬祭(宗教との関連から現代の世俗化の影響)にいたるまでなどについてサーベイし、朝鮮半島の文化全般を眺望できる視野を身につけることを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目	人文学部提供科目 朝鮮文化論2	本授業は、「朝鮮文化論1」に引き続いて、韓国・朝鮮の民族文化について、キーワード別に解説する。具体的には、コリアン・ディアスポラ論として在日韓国・朝鮮人、中国朝鮮族、在米韓国人、世界に暮らすコリアン、現代韓国の生活文化、大学教育、大衆文化と日本イメージ、南北分断と徴兵制、映像・表象文化等を扱う。地理や風土、古代から現代までの各時代の歴史・人物史、ハングルの成立とそれ以前の朝鮮半島の言語、文学の歴史等のサーベイを通して、朝鮮半島の文化全般を眺望できる視野を身につけることを目標とする。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	人文学部提供科目	日本民俗史1	人が死ぬとはどういうことだろうか。日本において、死者や他界はどのように捉えられ、語られてきたのだろうか。死は、民俗と深い関わりを持っており、文化的社会的な現象ともいえる。本授業では、戦前における東北の無名の日本人の生活実態について、思いを馳せることを目的として、民俗学の見地から死をめぐる人々の営みを考察することで、日本において死がどのように捉えられてきたのかを概観する。現在の研究状況を踏まえつつ、できるだけ日本民俗史の基礎的知識を学べるように配慮して講義を進める。	
専門科目	人文学部提供科目	日本民俗史2	本授業は、戦前における東北の無名の日本人の生活実態について、思いを馳せることを目的として、「日本民俗史1」の内容を踏まえた上で、アジア・太平洋戦争、とくに沖縄戦における「戦死」に焦点を当てて講述していく。沖縄戦では、アジア・太平洋戦争末期(1945年)に地上戦が展開され、軍人軍属だけでなく民間人を含めた約20万人以上の死者を数えた。本授業では、「戦死」した死者の捉えられ方や語られ方をもとに、死をめぐる民俗知と現代社会との関係について考察する。	
専門科目	人文学部提供科目	民俗宗教論1	本授業は、折口信夫の著作を通して、民俗宗教と民俗社会について考える。履修生が日本民俗宗教についての総合的な知識を得、民俗文化に関する理解を深める事を目的とする。折口は民間伝承を採集しつつ、日本芸能史や古代研究にわたり、実証にくわえて詩人的直感に基づき、類のない想像力と洞察にあふれた業績を残した。本授業ではその一端に触れる。必要に応じて、折口以外の民俗宗教研究に関わる主要学説、研究動向を踏まえる。	隔年
専門科目	人文学部提供科目	民俗宗教論2	本授業は、柳田國男の著作を通して、民俗宗教と民俗社会について考える。履修生が日本民俗宗教についての総合的な知識を得、民俗文化に関する理解を深める事を目的とする。『遠野物語』刊行100年は日本の民俗学の成立と重なる。柳田は民間伝承を採集しつつ、日本人の固有信仰を基軸として柳田学とも称される欧米直輸入ではない学問を構築した。本授業ではその一端に触れ、必要に応じて、柳田以外の民俗宗教研究に関わる主要学説、研究動向を踏まえる。	隔年
専門科目	人文学部提供科目	宇宙観の歴史	「宇宙」に対する好奇心は人類発祥の時代から今日まで脈々と受け継がれてきている。現代では、主に専門家が携わるアカデミズムの世界のみならず、携帯電話のGPSに象徴されるように、気象衛星・放送衛星・通信衛星などを通じて、「宇宙」は私たちの身近な生活の中に深く入り込んでいる。それらのことを踏まえた上で、本授業では、古代からの宇宙観の変遷と歴史的ターニングポイントとなった重要な人物、そして現代的な宇宙論について概観し、宇宙についての総合的な理解を目標とする。	
専門科目	人文学部提供科目	現代スポーツ論	本授業は、スポーツが持つ現代的な問題点、課題を明らかにし、スポーツと現代社会の関係について考察することを目標とした講義を行う。具体的な問題として、最新の時事的な問題のほか、スポーツ報道、オリンピックを取り巻く諸問題、ドーピング、政治からのスポーツへのアプローチ等を関連付けて取り上げる。また、教育現場、とくに運動部活動における体罰問題やボクシング廃止論に焦点を当て、スポーツと暴力の関係についても具体例をもとに議論する。	
専門科目	人文学部提供科目	スポーツ身体論	本授業は、スポーツを通して異文化と交流するとはどういうことかを、とくにオリンピック・パラリンピックとその関係に着目し、多角的に考察することを目標とする。また、この考察から、スポーツがもつ「競技性」「遊戯性」「身体性」について映像資料や文献、具体例を交えながら考察する。スポーツを通して、より多くの人びと、より豊かにかかわることができるようになるにはどうすればよいか、ということについて各自のスポーツに関わる体験や興味・関心をもとに講義を進める。	隔年
専門科目	人文学部提供科目	地球と宇宙のフロンティア	地球システムは、宇宙空間、磁気圏、大気圏、海洋、固体地球、および生物圏と人間圏等から構成されている。それらは物質やエネルギーを互いに受け渡す事によって密接に関連し、互いに影響を及ぼしあっている。近年注目されている地球環境問題、異常気象等は、正に地球を地球システムと捉える事によって理解され、太陽活動、ひいては宇宙とも密接な関係がある。本授業では、地球システムと宇宙との関係について、数式だけではなく、スライドやビデオなども用いて多角的に理解することを目指す。	
専門科目	人文学部提供科目	都市環境論	都市は人口の高密度(過密)化による高効率追求の場と考えることが出来る。それに伴って生ずるリスクとその回避の方法について、環境といった切り口から学んでいくことを本授業の目的とする。過密、過疎、大気汚染、水質汚濁、ヒートアイランド現象、廃棄物処理処分などの都市環境問題について具体的な事例を分析し、対策を探っていく。都市は周辺部との相互作用なしには成立しない。都市の周縁部で起きる様々な環境異変も視野に入れて、都市環境と周辺環境を総合的に捉えることで、都市の成立と環境との関連についての理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	芸術の科学	美術品や考古遺物などの文化財資料は芸術の歴史を考察する上で重要な人類共通の遺産である。様々な自然科学の方法を駆使することで、文化財資料の有する時間情報、産地情報、技法などが解明され、芸術史に新たな知見をもたらしている。また、芸術品を保存して次世代に継承していく方法を開発する上でも、科学的手法は重要な役割を担っている。これらの領域は文化財科学や保存科学などの文理融合領域として発達を続けている。本授業は、芸術と科学との関わり合いの基礎から歴史情報の抽出や保存修復技術の現場での応用まで、具体的なケースも含めて、芸術と科学の境界領域の展開を解説する。芸術と自然科学の接点で発展している分野としての文化財科学、保存科学についての専門基礎について理解を深め、より高度の芸術研究への学的基盤を形成することを目標とする。	
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	生物学のフロンティア	iPS細胞に象徴されるように、現代の生物学はゲノムにもとづく生命の本質や生物進化のメカニズムの全体像を明らかにしてきている。ゲノム改変にもとづく遺伝子操作によって食糧生産の増大、医薬品の原料生産、病原菌やウイルスのコントロールなどの新しい技術が追及されてきている。こうした状況は、20世紀の化学や物理学がもたらした科学的新技術の社会や自然観への影響と同様の大きな問題をはらんでもいる。本授業は、生物学のフロンティアでの多様な進展について理解を深めることを目標とする。	
専門科目	全学対象科目 人文学部提供科目	生物多様性の科学	陸上には多様な気候学的区分に対応した複雑な生態系と生物多様性が存在し、広大な大洋にもサンゴ礁から深海まで生命が多様に進化している。地球の歴史全体を見渡せば、生物が地球環境を激しく変化させ、生物系全体の相互作用の結果、種の多様性を増大させてきた。また、隕石衝突、火山活動、全球凍結などによって生物多様性は激変したきた。本授業は、生物多様性の進化メカニズムの要因の一つである生物の種間関係、生物間の競争と協力・共生についての理解を深めることを目標とする。	
専門科目	全学対象科目 社会学部提供科目	ジャーナリズム論	本授業は、民主主義における人々の自治に欠かせない情報の重要な一部であるニュースが信頼のおけるものであるために、いかなる原則やルールが必要かを理解し、その上で現在の報道が、その条件を満足するものになっているか、あるいは何が不足しているのかを分析する。また、伝統的な印刷紙面やテレビなどから、インターネットやスマートフォンにプラットフォームの重点が移ったことによるニュースの伝わり方やビジネス構造の変化を展望する。さらにソーシャルメディアの発達などがもたらした、いわゆる「フェイクニュース」の問題なども考える。これらを通じて情報の正しい扱い方について理解することを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目 社会学部提供科目	メディアリテラシー論	多様なメディアが社会を複雑に変化させていく中で、メディアリテラシーに関する研究と教育の重要性は増しているといえる。メディアリテラシーとは、メディアの意味と特性を理解した上で、受け手として情報を読み解き、送り手として情報を表現・発信するとともに、メディアのあり方を考え行動できる能力である。本授業では、望ましい社会のあり方を考える上で必要とされるメディアリテラシーについて理論的な理解を深めるとともに、こうした力を育む営みについて具体的な事例をもとに検討し、理解することを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目 社会学部提供科目	NPO・NGOとメディア	今日、社会的課題の解決主体の主役は行政ではないことは自明であり、民間による様々な取り組みが重要とされている。とくに地域においてコミュニティをベースに問題を解決するような動きへの期待が大きい。その動きの中心にあるのが、NPOやNGO、コミュニティ組織、またボランティアといった、民間非営利セクターの活動である。しかしながら、日本においてはこうした活動に対して適切な社会的理解があるとはいえない。本授業では、日本における民間非営利セクターの在り方に、メディアがどう関わっているのか、あるいはどう関わるべきかについて諸外国との比較も踏まえて考え理解することを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目 社会学部提供科目	音楽文化の社会学	音楽文化は今日のユースカルチャーを考察する際に欠かすことのできないメディア社会学の重要な研究対象である。世界にはさまざまな音楽ジャンルが存在するが、20世紀後半以降ポピュラリティを獲得しつづけている英米目の「ロック音楽」の歴史にとくに注目し、時代ごとの社会背景や送り手と受け手の心理や思考、表現手法を考察する。ただし、本授業の分析視覚は個々のミュージシャンの印象批評やプロフィール確認にとどまらない。ロック音楽に関する言説をメタレベルで観察し、社会学的パースペクティブの醍醐味を味わい、音楽を「表現」のみならず「構造」として読み解くスキルを身につけることを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目 社会学部提供科目	教育社会学	本授業は、教育社会学を学ぶ上で基礎となる「教育機会の不平等」とそれを生み出す「学校文化と権力」の問題について理解を深めることを目標とする。メリトクラシー社会(業績主義的社会)であると考えられてきた現代社会は、実際には親の財力と教育熱心度(ペアレントクラシー)によって、子どもの教育機会を左右する社会へと変容を遂げてきたことが明らかにされている。本授業ではまず、家庭の格差がどのように教育機会の格差を生んでいるのかを理論的かつ実証的に考察する。さらに、こうした教育機会の格差を生み出す要因の一つが学校文化の文化的バイアスである。本授業では続いて、「隠れたカリキュラム」をキーワードに、階層、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティの側面における学校文化の権力構造を明らかにするとともに、生徒文化に潜むいじめやスクールカーストの問題にも光を当てる。	隔年

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目	社会学部提供科目	アイデンティティの社会学	本授業は、〈自分〉が、社会的な現象であることを、主に四つの側面から論じていく。まず〈自分〉と呼ばれる現象の仕組みを「アイデンティティ」という観点から確認する。次に、私たちは、なぜ〈自分〉というものをこんなにも重視し問題とするようになったのか、そしてそこで重視されている〈自分〉にはどのような特徴があるのかを、「近代社会」の特性という観点から検討する。ここでは、さらに、「近代社会」における〈自分〉をめぐる困難と、それを回避し乗り越えようとする実践について、「アイデンティティの政治」という観点も含めて考える。第三に、「近代社会」の延長線上にあり「高度近代」とも呼ばれる現代社会において、〈自分〉はどのような制度や仕組みにとりまかれており、どのような困難に直面しているのかについて考察する。本授業を通じて〈自分〉がそれ単独で存在するものではなく、社会との関連性の中で構築されるものであることを理解することを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目	社会学部提供科目	社会運動論	20世紀後半以降の国内外の社会運動の具体的事例を取り上げ、社会運動がどのようなものかについて理解を深めるとともに、社会運動という現象に対する社会的なアプローチを学び、社会運動理論の適用可能性と限界を検討することを目標とする。とくに、1960年代の世界同時多発的な社会運動の高揚を事例としては重視し、同時代の国際・国内状況やその変動の様相を踏まえつつ、諸社会運動が生起・発展・衰退していった経過と要因を探る。それらの探究を通じて、社会運動自体について学ぶことはもちろん、現在へと至る歴史の堆積についての教養を育成し、現代社会への理解を深めることも目指す。	隔年
専門科目	全学対象科目	社会学部提供科目	グローバリゼーションの社会学	グローバリゼーションとは、情報通信や交通手段の発展を背景に、世界の社会関係が深化・拡大していく社会変動過程と捉えられる。地理的な遠近とは異なる次元で世界各地は結び付き、ヒト・モノ・カネや情報などをめぐって思わぬ影響が発生し始めた。世界のつながりがさらに深化・拡大することで、社会はどのような姿を取りうるのか。まず現代社会で標準的な社会単位となった国民国家の仕組みと国際社会の成立や関係性における理論を学び、グローバリゼーションの背景や成り立ちを理解する。続いて世界のグローバル化が引き起こす個々の現象を、発展・格差・境界・統合・分裂といったキーワードで読み解き、最後にグローバル化する現代社会の課題と可能性を考える。本授業では履修生がグローバリゼーションを社会的見地から分析し、世界各地の関係性が深化・拡大する現代社会の課題を考えることを目標とする。	隔年
専門科目	全学対象科目	学芸員課程関連科目	博物館概論	現在、日本の博物館は多くの問題を抱えている。国立博物館の独立行政法人化、公立博物館の指定管理者制度の導入、私立財団法人系博物館の公益法人改革などによって、博物館の運営も学芸員の活動も大きく変化する時期にきている。本授業では博物館・美術館、そしてそこで働く学芸員に関する基礎的な知識の習得を目的としつつ、現実と直面している問題点についても随時触れながら理解を深めていく。また、諸外国における博物館活動とも比較して、視野を広める。	
専門科目	全学対象科目	学芸員課程関連科目	博物館資料論	本授業は、博物館・美術館資料の収集、整理、保存、修復に関することや、その資料の活用、調査、展示について昨今の問題を踏まえながら理解を深めることを目標とする。博物館資料のもつ研究上の大切さ、資料の種類、そして、博物館資料として保存活用される過程について理解を深めることがねらいである。もう1つの側面は、それらの資料をどのように整理、収集、活用していくかについての理念と方法論について論じるとともに、資料に関係する倫理、法規、受け入れ登録の手続きなどの作業にも触れる。資料を公開するときの諸側面、例えば著作権、アクセス権などについても講義する。	
専門科目	全学対象科目	学芸員課程関連科目	博物館経営論	国立博物館の独立行政法人化、公立博物館の指定管理者制度導入の動きに、博物館の経営・運営には大きな変化がみられた。本授業では、そうした問題を取り上げつつ、博物館業務に関する基礎的な事項を学ぶことを目的とする。博物館における市民参加、他博物館とのネットワークや連携、そればかりでなく、大学や研究機関との関係のあり方や、博物館の地域における役割、地域活性化への協力、地域社会との連携も講義する。	
専門科目	全学対象科目	学芸員課程関連科目	博物館情報・メディア論	博物館における情報・メディアの意義、博物館における情報発信、情報の知的財産権など、博物館において情報を所有し、提供と活用に関する基本的な能力と知識の獲得が本授業の目的である。今、博物館活動の情報化は急務であり、資料やドキュメンテーションなどをデータベース化、デジタルアーカイブとして活用することが求められている。美術館等の“現場”で「番組的なもの」がどんな役割を發揮できるのか、実例に基づいて、美術館で働くことをめざす人たちのために、映像の有効な利用方法について講義する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目	学芸員課程関連科目	博物館資料保存論	博物館にとって資料は活動の中心にあり、その保存はもともと大切な業務といえる。資料保存には、資料の状態調査、現状把握、修理、梱包、輸送など多種多様な側面がある。収蔵庫といわれる空間の特質と管理の具体策について詳細に講義する。項目として、温度管理、光、振動、大気などの物理的・化学的環境ばかりでなく、生物被害を防ぐ総合的有害生物管理、そして、火災、地震、水害、盗難などの危機管理やその対策にも触れる。博物館資料は、博物館内だけにあるわけではなく、地域の文化的資料、伝統的有形・無形文化財、あるいは、歴史的景観、生物多様性の保存さえも含むべきであり、博物館は地域の柱でなければならない。このような視点から、資料の保存、施設内・外の環境の把握と対処・整備を科学的視点で捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識の修得を本授業の目的とする。	
専門科目	全学対象科目	学芸員課程関連科目	博物館展示論	博物館の使命は展示にある。講義の最初には、博物館における展示の歴史の変遷をそれぞれの時代背景との関係性から論じ、博物館のもつ社会的位置づけについて考える。博物館での展示技術は、観覧者の意識と展示技術の革新とで相補的に発展してきた。また、博物館の財政的、人的資源の多寡ゆえにこそ、展示技術の優劣が博物館の命運を左右することになる。展示技術の実際、展示の解説活動に現場で携わっている方からの講話や博物館へフィールドワークも取り入れ、より具体的にかつ実際の展示論を展開する。このようなプログラムを通じて、博物館・美術館における展示に関し、その歴史や現状を理解し、展示作業プロセスの概要を学ぶことによって、望ましい展示の在り方を明確に把握することを目的とする。	
専門科目	全学対象科目	学芸員課程関連科目	生涯学習概論	博物館は、人々の生涯学習を支援するための施設、とくに社会教育のための施設としての基本的な役割を持っている。本授業では、博物館を含めた、社会教育のための施設全般の役割(生涯学習を支援するさまざまな仕組みの中での特徴)を踏まえ、博物館の他、公民館・図書館・青少年教育施設・女性施設・スポーツ施設・文化施設などの仕組みと役割について基礎知識を身につけることを目標とする。こうした施設での専門的職員の役割、学習活動への支援などを具体例の中から深く学ぶ。	
専門科目	全学対象科目	開教する職員の概説教科科目	日本史概説	日本史の現場に取材した「情報」を、プリントや映像画面などを通じて講義の場に提供しながら、それらを対象とする考察を繰り返す。と同時に、そのような「情報」がどこに、どういう形で存在してきたのか、今どのように存在するのか、ということや、その入手方法などにも言及する。「むかし」からは、こんなにもたくさん学べるのか!という、〈感動体験〉を追求する。本授業は、一回ないし二回の授業時間を単位として、その都度毎にテーマを掲げる。最終的には、原始・古代から中世までの日本史の流れが概観できるようになることを目標とする。	
専門科目	全学対象科目	開教する職員の概説教科科目	外国史概説	本授業を通して、地理的にも、時間的にも、広く外国史全体を概観しながら、いままでに自分の受けてきた歴史教育、あるいは歴史認識について、改めて再検討し、現在の私たちの日常生活を成り立たせるもの、あるいは、日本社会の抱えている問題などについて、その歴史的背景、経緯を学ぶことを目的とする。外国史を学ぶことによって、日本の歴史や私たちの生活が一国史では成り立たないことについて再検討する。	
専門科目	全学対象科目	開教する職員の概説教科科目	法律学概説(国際法を含む)	本授業は、初学者にわかりやすいように法律の世界の基本的な枠組を紹介し、社会の中で法がどのように機能しているかを考察する。そのために、各分野の紹介のみならず、具体的かつ身近な事例を用いて考え、少しずつ法律の世界の「地図」を作る。「日常生活の中の法と道徳」「法令入門:様々な法の種類とそれぞれの位置づけ」「法による日常紛争の解決」「憲法(総論・人権・統治)」「民法(財産法・家族法)」「刑法(総論、殺人罪)」「行政法基礎」「国際法基礎」などをテーマとする。法律が扱う問題および具体的分野、法と社会や我々の日常生活との関わり等を理解することを通じて、法律学の基本的な考え方、用語を身につけ、日々の生活や社会の問題について、法律学の知識、考え方を活用して考え、説明できるようになることを到達目標とする。	
専門科目	全学対象科目	開教する職員の概説教科科目	政治学概説(国際政治を含む)	本授業は、まだ歴史的にはたかだか200年しかたっていない「民主主義」にもとづく現代政治の様々な側面を多様な観点から分析することで、日々政治に関わる「主権者」として必要な現代政治の基礎知識・実践的知識を習得することを目的とする。テーマは「政治体制とその変動」「政治と経済、福祉」「政治制度と政治過程」「公共政策と行政」「政党と政党制」「政治意識と政治文化」「集権と分権」「近代の国際政治と現代の国際政治」「グローバル・プロブレマティク」「政治学の潮流」などを予定している。	隔年
専門科目	全学対象科目	開教する職員の概説教科科目	経済学概説(国際経済を含む)	本授業は、初歩的なマクロ経済学とミクロ経済学の理解を到達目標とする。マクロ経済学では、国の経済規模をあらわす国内総生産(GDP)が決まるメカニズムをもとに、日本経済の現状に対して政府や中央銀行がどのように対処しているのかについて、その問題点も含めながら講義する。ミクロ経済学では、家計や企業の合理的な行動から需要・供給曲線を導き、完全競争市場や独占市場における市場均衡の違い、さらにミクロ経済学が現実の政策とどのような関わりをもつのかについて説明する。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	全学対象科目	関教する職の概説科目に目 社会学概説	本授業は、最初に社会学の基礎概念の学習を通じて、社会学の基本発想の習得を目標とする。社会学の文献を読みこなすために必要な最低限の知識を学ぶ。続いて、先に学んだ知識を社会的各分析水準へと応用し、社会学の基本発想の理解を深める。テーマは「脱常識の社会学」「文化と社会構造」「社会学の基礎概念」「社会学の成立事情」「科学の分類と社会学」「価値関係と価値自由」「社会学的想像力」「制度」「行為」「地位・役割」「社会関係」「社会集団」「流言飛語」「言葉」「経済」など。	
専門科目	全学対象科目	関教する職の概説科目に目 地誌概説	「地誌」は、地域の自然環境の中で、人間が政治、経済、社会、文化の諸活動を展開して、歴史的に形成した特質の把握を試みる学問である。異質な文化を有する地域の「地誌」について考えることは、その地域の特質と歴史を知ることに止まらず、自分の価値観を見直し「文化相対主義」の視点を育ませるきっかけともなる。本授業では、「地誌」の基本的な考え方を学んだ上で、とくにアフリカや東南アジアの自然環境、文化地理、経済地理、歴史的発達などを踏まえて、現在の矛盾や開発の様相を考え、「地誌」という学問の基礎を身につけていくことを目標とする。	
専門科目	全学対象科目	関教する職の概説科目に目 人文地理学概説	人類とその社会は、都市と農村という、2つの異なる定住形態を基礎として、構成され発展してきた。そこで、最初は「都市と農村」を軸として、様々な地域構造の変化とその要因について考察する。とくに、地域間に格差や対立をもたらす不均等発展のメカニズムに着目し、両者は必ずしも対等で互恵的な分業関係ではないことを明らかにしていく。次に、農山村における生活文化の変容と、都市化の過程で失われていく森林をめぐる様々な問題を、幅広く歴史や地理の観点から取り上げる。到達目標として、地域はいかなる要素の結びつきによって成立しているのか、なぜ場所ごとに差異ないし格差が生じるのかを、自然環境や経済・社会構造の歴史の変容を踏まえて考察できるようにすることを掲げる。	
専門科目	全学対象科目	関教する職の概説科目に目 自然地理学概説	本授業は、地球表層の形態である「地形」や地球大気の挙動が生み出す「気候」という切り口から自然への理解を深めることを目標にする。近年、高等学校では「地学」「地理」履修率が低くなっている。これらの科目で取り扱われる「人間の生活・活動の基盤となる自然環境の性状や成り立ち」の基礎を学ぶことにより、自然地理学的な視点から日本や世界を見る目を養う。テーマとして「地形図の見方」「学園周辺の地形」「地震」「火山」「川がつくる地形」「気候・気象」などを予定している。	
専門科目	全学対象科目	関教する職の概説科目に目 倫理学概説	21世紀の日本に生きる我々は、現代社会に特有の条件から生じた、さまざまな倫理的問題に取り巻かれている。意識しようといまいと、人は日常生活のさまざまな局面で、いつも既に倫理について考えてしまっている。知らないうちに問題の当事者になっていることも少なくない。肝心なのは、思考の筋道を通すことである。倫理的問題について筋の通った思考をするために、必要な、最低限の基礎知識を学ぶのが本授業の目標である。そのために倫理学のさまざまな学説を取り上げ、それぞれの強みと問題点を明らかにする。	
専門科目	全学対象科目	関教する職の概説科目に目 宗教学概説	本授業の目的は、世界を生きる人間の根本的姿勢の一つとして「信じる」という行為をとらえ、知の立場から宗教の本質について考えることである。信じるという行為は、宗教的信に限られるわけではない。宗教的信以前に、私たちの日常経験において信じるという行為は働いている。そこで、まず、日常経験における信を考察し、日常的信のなかに見出される宗教的信への萌芽について、考察をすすめる。二つの信を架橋するものとしての他者と無限の重要性を明らかにする。そして他者への無限な愛が、救済につながる可能性のある信であることを示す。	
専門科目	全学対象科目	関教する職の概説科目に目 哲学概説	本授業は、哲学(philosophia、利害や専門にとらわれない愛智)の視点から、世界を生きる根本的な姿勢について思考することを目的とする。世界を生きる主体としての「私」を考察の基本におくという立場に基づいて、本授業では、現代哲学における「私」の「生きられた身体」を基軸として採用し、知覚経験についての具体的で一貫した理解をまず目指す。そのうえで、知覚経験についての理解から、言語についての哲学的考察を通じて、知覚と言語とが織りなす人間経験についての全体的理解へと進む。	
専門科目	全学対象科目	関教する職の概説科目に目 心理学概説	本授業は、己の心を知り、他者の心に共感するための基礎的な心理学を学ぶ。心理学とは、科学的方法を用いて、人間個人の行動や心的過程を研究する学問である。基礎心理学者は、行動を記述し、説明し、予測し、制御することを目標とし、応用心理学者は、加えて研究知見を用いて人間生活の質を向上させることを目標とする。本授業の目的は、心理学が扱う様々な領域の理論的背景を学び、日常の中で生じる重要な問いに対する解決方法を探る手がかりを得られるようにすることである。	

(注)

1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。

2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。

3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。